

五 元禄十七年一月、二月、宝永元年三月、十二月

〔表紙〕
元禄十七甲申年

万覚牒

正月一日、十二月廿九日迄

土屋治郎左衛門

組下村々高付

一高百三拾九石式斗六升八合

前谷村

一高六百式拾式石八斗三升

笹岡村

内

一高四百七拾八石七斗三升

宮谷村

一高六百三拾式石四斗四升

青野木村

内三百四拾四石三斗六升九合

弥次兵衛

百六拾七石九斗九升四合

五十郎

百式拾石七升七合

権兵衛

一高五拾四石五斗五升

柿原

西方寺村

一高百七拾式石四斗壹升

清王村

一高式百九拾四石六升九合

赤尾村

一高百式拾四石五斗壹升

横垣村

一高七百拾八石七斗四升

井江葭村

一高三百九拾七石四斗

国影村

一高式百三拾七石七斗壹升

牛山村

一高百式拾五石八斗

城村

一高六石四斗九合

新家

一高百九拾九石六斗七升

西谷村

一高七百九石七斗四升八合

舟津村

一高七百六拾九石九斗五升

十楽村

一高九百式拾式石八斗五升

田中

一高七百拾石式升

番田村

一高七百壹石五斗

重義村

高合八千拾八石六斗四合

元禄十七甲申年

正月一日

同二日

同三日

同四日

一井江葭村甚右衛門御廻船上乘年来奉願訴状持参候二付、取次可申
由申聞請取置候

同五日

同六日

同七日

一笹岡村清右衛門当春廻米上乘願之事、年内、度々申来此度宗左衛

門同道ニ而参右之願ニ候

同八日

同九日

一十楽村与三右衛門当春御廻米三国立合之事奉願候由申来り候

同十日

同十一日

一年内押詰二十楽村庄兵衛申来候ハ、柿原之内ニ而高九石細呂木村

太郎左衛門持候を、七年以前ニ質物置候処代金返済不申候ニ付、

年内流高二罷成候ニ付太郎左衛門高相渡し候証文取候ニ付、右之

高庄兵衛持高二仕候由断申ニ付、当春西方寺村太郎兵衛・市郎右

衛門ニ候段申聞候へハ、今日太郎兵衛参候而、尤七年以前ニ代金

式両之質物ニ置、其方以来山七ヶ所・畑方数ヶ所庄兵衛方へ相渡

置候へハ、代金大分「一高二可成子細無之候、庄兵衛立合

算用仕「一其上右九石之高我等持高二候へ共、太郎左衛門

□貸候而質物為置申義ニ候へハ、流高二而相渡し申事不罷成候と

申ニ付、本人太郎左衛門算用を仕候処、又其方算用仕返シ可申と

申候共庄兵衛算用仕間敷候、其上高貸証文之義、去年も鯖江御役

所ニ而御吟味之上無之証文、只今俄ニ証文有之と申出候事難心得

候、此義本人太郎左衛門ハ福居領、庄兵衛ハ石田御領方々かけま

たき申義、我等方ニ而吟味難成候間、出入可仕との事ニ候ハ、以

訴状申上候ハ、取次可申候と太郎兵衛ニ申渡し候

覚

本石貳拾壹石四斗三升四合
一米五拾六俵

前谷

銀五拾三匁五分九厘

本石百貳拾七石八升壹合
一米三百三拾貳俵

笹岡

銀三百拾七匁七分

本石百拾四石六升七合
一米貳百九拾八俵

宮谷

銀貳百八拾五匁壹分七厘

本石百四拾四石六斗八升九合
一米二百七拾八俵

青野木

銀三百六拾壹匁七分貳厘

本石三拾八石貳斗七升八合
一米百俵

清王

銀九拾五匁七分

本石四石九斗七升六合
一米拾三俵

西方寺

銀拾貳匁四分四厘

本石五拾三石九斗七升壹合
一米百四拾壹俵

赤尾

銀百三拾四匁九分三厘

本石四拾四石四斗貳合
一米百拾六俵

牛山

銀百拾壹匁壹厘

本石拾八石七斗五升六合
一米四拾九俵

横垣

銀四拾六匁八分九厘

本石百四拾八石五斗壹升七合
一米三百八拾八俵

井(江腹)

銀三百七拾壹匁貳分九厘

本石八拾貳石貳斗九升七合
一米貳百拾五俵

国影

銀貳百五匁七分四厘

本石百貳拾石九斗五升七合
一米二百拾六俵

重義

銀三百貳匁三分九厘

本石百拾壹石三斗八升八合
一米貳百九拾壹俵

番田

銀貳百七拾八匁四分七厘

本石五拾九石三斗二升
一米百五拾五俵

田中

銀百四拾八匁三分三厘

本石八拾九石五斗七升
一米貳百三拾四俵

中村

銀貳百貳拾三匁九分貳厘

本石百四拾三石壹斗五升八合
一米二百七拾四俵

十楽

銀三百五拾七匁九分

本石百三拾七石四斗壹升六合
一米三百五拾九俵

舟津

銀三百四拾三匁五分四厘

本石拾六石四斗五升九合
一米四拾三俵

西谷

銀四拾壹匁分五厘

本石
(マ、)

合 米三千八百五拾八俵

銀三貫六百九拾壹匁八分八厘

右者去未御年貢米之内当春江戸廻米被仰付候割如此二候、廻船塩

飽之者被仰付、三月上旬から船三国湊へ令入津筈二候、右廻米半

分者来二月十日お津出シ可仕候、残半分ハ三月朔日お津出可仕候、

御米御急用二候間舟積滞無之様ニ可相心得候、不及申二候得共米

拵・縄俵拵等入念ニ可申候、案内次第罷出御米相改可申候間其心

得可有候、万一相滞津出シ令延引候ハ、急度曲事ニ可申付候条、

少も油断有(間敷)候、大庄屋方も入念可被申渡候

一廻米入用先割銀、廻米壹石ニ付貳匁五分宛之積り取立、五ヶ村成

共拾ヶ村成共申合、来月晦日迄二段々持參可相納候、此廻状村下

二庄屋印判いたし、早々相廻し留お可相返候、以上

申正月九日

齋藤久野右衛門 印

山本沢右衛門 印

尾花園右衛門 印

青山 藤 助 印

前谷村大庄屋
次郎左衛門 殿

右村々庄屋中

右之御廻状後山村お参候ニ付写取、拙者判形仕笹岡村へ遣し申候

覚

来申ノ年たはこ作り候義、当未ノ年之通去午ノ年迄作候半分作之、

残ル半分之所ニハ土地相応之穀類可作之候、若相背輩於有之者可

為曲事由、御料ハ奉行・代官、私領ハ地頭お急度可申付候、右之

趣此方お可申通由御家老中被仰候ニ付如斯二候、去冬御触□□通

無相違様ニ可被申付候

未十二月

右御書付奉拜見候、村々大小之百姓・水飲等ニ至迄急度申渡堅相

守可申候、若相背候ハ、何分之御仕置ニも可被仰付候、為其村々庄屋判形仕指上候、以上

申正月

坂井郡何村庄屋

誰印

同郡何村庄屋

誰印

同郡何村庄屋

誰印

鯖江

御役所

当申ノ年たはこ作候義ニ付御触書出候ニ付写遣し候条、組下村々大小之百姓・水吞之者迄堅相守候様ニ入念急度可被申渡候、右御触書之趣奉拜見候□村々庄屋奥書連判取候案文□「添遣候間、右之通相認判形取□」被指越候、以上

正月九日

尾花園右衛門印

山本沢右衛門印

斎藤久野右衛門印

青山藤助印

坂井郡大庄屋三人

右御廻米割之御書付并二たはこの御書付、自分添配符仕村々へ廻し申候、御廻米御書付ハ西谷村ハ鯖江へ便りニ返上□「様ニ、たはこの御書付ハ城村ハ此方□」様ニと申遣候

正月十二日

未春御廻米上乘并三国立合奉願覚

笹岡村

清右衛門

一高式拾四石式斗三升四合

此清右衛門当未春御廻米上乘奉願、御年貢指支散田ニ及申候、上乘ニ被遣被下候へハ百姓ニ罷立申者ニ御座候間、上乘被仰付可被下候

一高四石式斗七升五合

井江葭村

甚右衛門

此甚右衛門跡々度々上乘奉願候間当春上乘被仰付可被下候

一高六石五斗九升六合四勺

舟津村

甚右衛門

此甚右衛門去々年ハ上乘奉願候間当春上乘被仰付可被下候

一高式拾六石七斗壹升

牛山村

権右衛門

此権右衛門当春上乘被仰付被下候様ニと奉願候

一十楽村与三右衛門去年之通三国立合被仰付被下候様ニと奉願候

間被仰付可被下候

右之者共当未春御廻米上乘・三国立合奉願候間、被仰付被下候

ハ、拙者共ニ難有可奉存候、以上

申正月十三日

前谷村大庄屋

次郎左衛門印

鯖江御役所

右之書付并書状相添後山村権左衛門鯖江へ参候ニ付言伝、園右衛門様へ指上候

同十三日

同十四日

同十五日

同十六日

同十七日

同十八日

一御廻米御割付御廻状并たはこ作り申証文共ニ村々へ遣し候処、判形相済候而城村を返し申二付請取候

同十九日

同廿日

同廿一日

一赤尾・横垣・井江葎・国影・牛山此五ヶ村を庄屋中被申来候者、

当御廻米大分ニ而相済可申様無御座候間、御金拝借之義奉願由被申二付、当御廻米之義何方も大分二候へハ、自余共ニ輒ハ出来申間敷候へハ、何れも拝借之願も有之候共相叶申間敷候、先村々内何様之才覚も為仕」 「相済可被申候、其上迎も相済不申候ハ、

□吟吟之上可被仰付候と存候間、当分願之義ハ難心得候、夫共二願上度候ハ、書付持参候様ニと申聞候

一西方寺村善兵衛方を同村市郎右衛門へ去未ノ年田畑下シ置候処、

年貢米相済不申由申付くれ候様ニと申来り候二付、御年貢米之事二候へハ相済可申候、若相済申間敷との子細有之候ハ、善兵衛召連被参候様ニと市郎右衛門方へ配符遣し申候

正月廿二日

覚

一米九石九斗三升三合九勺

未春御廻米本米

一米四斗四升七合五勺

欠米代

ノ拾石三斗八升壹合四勺

一銀拾九匁八分七厘

本米壹石二銀貳匁ツ、

本米五石貳斗七匁三勺
一米拾三俵貳斗三升五合三勺

未春御廻米、欠米共ニ

一銀拾三匁貳厘

内

覚

一金三分銀貳匁九分三厘

内 壹分拾四匁九厘

内 壹分三匁八分四厘

一金五兩壹分銀六匁六分七厘

内 三兩壹分貳分式厘

内 貳兩六匁四分五厘

一金四兩貳分銀拾三匁八分貳厘

内 貳兩三分七匁貳分五厘

内 壹兩三分六匁五分七厘

北村分

同村

同村入用銀

前谷村分

同村入用銀

前谷村

未七月二相渡ス

今度可相渡候

笹岡村

右同断

宮谷村

右同断

一金五兩壹分銀壹匁六分貳厘 青野木村

内 三兩拾貳匁分五厘

内 貳兩四匁四分七厘

右同断

一金壹兩三分銀拾壹匁五厘 清王村

内 壹兩拾壹匁四分三厘

内 三分六分貳厘

右同断

柿原

一銀拾貳匁六分壹厘 西方寺村

内 七匁六分六厘

内 四匁九分五厘

右同断

一金貳兩銀九匁九分三厘 赤尾村

内 壹兩壹分三匁八分五厘

内 三分六匁八厘

右同断

一金壹兩貳分銀拾四匁七分 牛山村

内 壹兩三匁五分四厘

内 貳分拾壹匁分六厘

右同断

一金三分銀四分壹厘 横垣村

内 壹分拾貳匁五分六厘

内 壹分貳匁八分五厘

右同断

一金六兩貳分銀拾貳匁分三厘 井江葭村

内 四兩三匁四分四厘

内 貳兩貳分七匁六分九厘

右同断

一金三兩壹分銀五匁五分七厘 国影村

内 貳兩壹匁七分貳厘

内 壹兩壹分三匁八分五厘

右同断

一金壹兩壹分銀拾貳匁四分四厘 重義村

内 三分七匁八分貳厘

内 貳分四匁貳分貳厘

右同断

一金三分銀四匁貳分 番田村

内 壹分拾四匁八分六厘

内 壹分四匁三分四厘

右同断

一金壹兩貳分銀五匁八分七厘 田中々村

内 三分拾三匁壹分八厘

内 貳分七匁六分九厘

右同断

一金貳兩銀壹匁壹分 十楽村

内 壹兩拾三匁四分九厘

内 三分貳匁六分壹厘

右同断

一金六兩銀貳匁三厘 舟津村

内 三兩貳分九匁七分壹厘

内 貳兩壹分七匁三分貳厘

右同断

一金貳分銀五匁三分貳厘 西谷村

内 壹分六匁四分四厘

内 拾三匁八分八厘

右同断

右者午御廻米諸入用我等共立合勘定いたし候処、去春御廻米壹石
ニ付三匁ツ、村々々被出置候分、并江戸御藏前ニ而引取米・沢手

米・菰弘代指引仕候へハ、戻り銀御廻米壹石二付三匁式分九厘五毛五弗宛相当り候、来ル廿五日迄之内御陣屋ニをゐて御請取可有候、以上

申正月十八日

戸口中村

彦左衛門 印

後山村

権左衛門 印

赤坂村

次郎兵衛 印

(マ) 枝郷村

吉右衛門 印

右村々庄屋中

留り村の御陣屋迄御返し可有候

右戻り銀之義今年之廻米先割金ニ可相納候間、此度相返候金子当年之入用之内へ相納手形請取可被申候、但去春大庄屋方へ遣置候手形可被指越候、以上

申正月十九日

前谷村大庄屋

二郎左衛門殿

右村々

庄屋中

青山藤介 印

右戻り銀之書付ニ添配符いたし村々へ遣申候

正月廿三日

同廿四日

同廿五日

右戻り銀之配符留り村の返し候ニ付請取置、重而御陣屋可返者也

同廿六日

覚

一当申宗門人別改帳

一去未名寄帳

右之帳面来ル二月中仕立判形取之、三月十日を限陣屋へ可被指出候、例年者四月迄二も帳面相改候得共、今年者別而宗門御改強候、人別判形見届相違無之様二組下村々へ急度可被申渡候、宗門改帳者前々之通豎帳ニ認之、名寄帳ハ横帳ニ認可被申候、諸役割帳者追而案文可遣候、右帳面吟味可仕旨被仰付候、日限之通帳面可被指越候、油断有間敷候、以上

申正月廿四日

上坂政右衛門 印

山内滝右衛門 印

前谷村

大庄屋二郎左衛門殿

此配符一覽之上可被相返候、以上

先日申遣候通御廻米中札早々相認可指越候、我等義追付檢地御用ニ罷出候間、其前二判形調置申度候間油断有間敷候

正月廿五日

尾花園右衛門 印

前谷村

二郎左衛門殿

尚々不及申二候得共御廻米早々無油断仕立、津出手支無之様ニ可被申付候

右式通御配符後山村の村次二当著(到着)、右之趣早々村々へ申触候

正月廿七日

同廿八日

一 赤尾村半兵衛・彦兵衛・長右衛門・清右衛門・九右衛門、此五人去未御年貢不納ニ而、其上方々借金・借米大分有之ニ付、算用目録・御高上ケ証文指出し候ニ付、高渡方吟味仕候得共下ニ而埒明不申候ニ付、庄屋長百姓申来り候ニ付、其義ニ候ハ、鯖江御窺可申由申聞、右之者共算用目録預り置候、此高村割ニ仕候ヘハ、相残百姓之内太右衛門・平右衛門・左次兵衛・二郎兵衛・五郎兵衛潰申事ニ候由申出候

同廿九日

一 下兵庫村武兵衛方〆十楽村五十郎ニ以書状申越候ハ、柿原西方寺村高之内九石細呂木太郎左衛門持分ニ候処、八年以前丑年高・山共ニ質物ニ取置候処、代金年々埒明不申候ニ付、去暮右質物流証文太郎左衛門方〆取処、其田畑西方寺村太郎兵衛・市郎右衛門相渡し不申候間、無相違田畑柿原十楽村庄兵衛相渡候様ニ申付候様ニと、次ニ西方寺村太郎兵衛持高五石・山三ヶ所、四年以前巳ノ年柿原十楽村五十郎質物ニ取置候処、年々元利共ニ不相濟右質物之高・山相渡不申候間、証文之通申付候様ニと申来り候、其上五十郎口上此義何角出入仕候事難義ニ存候ニ付、十楽村又右衛門弥市郎を頼、太郎兵衛・市郎右衛門方へ色々断申候得共、承引不仕

候ニ付如此ニ候、右両様ニ吟味之上、下ニ而埒明不申候ハ、出入ニ可仕候間返事承度由申ニ付、西方寺村市郎右衛門・太郎兵衛兩人共ニ明日參候様ニと申遣し候

同晦日

二月一日

一 右柿原十楽村五十郎・庄兵衛訴之義ニ付下兵庫村武兵衛〆書状遣し候故、柿原西方寺村太郎兵衛・市郎右衛門呼寄様子申聞候処右兩人申候ハ、細呂木村太郎左衛門質物流証文相渡候上ハ、高二而も代金ニ而も相渡不申候而ハ不叶義と奉存候得ハ、拙者共十楽村へ參候而其断を申、代金才覚仕相濟申度候間、其内武兵衛殿へ之返事ハ致延引仕候様ニと申ニ付、其義ニ候ハ、早々十楽村へ參候而、何とぞ埒明候様ニと申聞候

同二日

一 申春御廻米御割付之御配符一通
 一 未春御廻米先割銀戻り銀之御配符壹通
 一 申年宗門御改帳・未名寄帳指上候様ニとの御配符壹通
 一 たはこ作り申義ニ付村々庄屋連判ニ而御取被成候証文壹通
 一 未春御廻米入用先割金四拾壹兩壹分銀拾壹匁分式厘、未四月六日青山藤助様御手形右入用銀御勘定相濟、村々へ戻り銀御渡被成候ニ付、右之御手形返上仕候様ニと被仰付候ニ付鯖江へ持

参仕候

一新家次兵衛悱仁兵衛勘当仕候証文、去年指上置候を致失念候二付其御断申、右之証文鯖江へ持参仕候

一赤尾村百姓五人潰申二付、其高相渡為可申方々吟味仕候得共取主無之候二付、為御窺之五人之者共御未進方々かり方之目錄鯖江へ持参

江へ持参

一申春上乘願人笹岡村清右衛門・井江葎村甚右衛門・舟津村甚右衛門・牛山村権右衛門、右之事委可申上事

一十楽村与三右衛門三国立合願之事

一西方寺村十右衛門新庄屋を立申度由申来り候二付、高五拾石余之村二庄屋式人立申度とハ拙者方ハ難申上候間、其方直ニ鯖江へ申上候而御下知を得可申候、次ニ村人方へ貸方之埒明不申候由申出候二付、下ニ而何様ニ吟味仕埒明不申候哉と相尋候へ共、下ニ而何之吟味も不仕先此方へ申来り候様ニ申二付、下ニ而能々吟味仕埒明不申事ニ候ハ、此方へも可申来候処、下ニ而指而無吟味も申来候事偏ニ其方便と申者ニ候間、能々吟味之上申来り候様ニと申聞候

二月三日

一右書付置候御用共ニ付権右衛門鯖江へ遣し候、右御陣屋返上可仕御配付、未春御廻米入用銀之御手形等、右書付之通遣し申候

一田中々村宗十郎子庄三郎江戸へかせきニ参度由願出候二付、江戸

落付所吟味仕候処、小田原町壱町めさかミや徳兵衛店迄参候、則

庄三郎・又九郎数年ニ江戸ニ罷有候而此頃罷歸り候二付、又九郎道具等江戸ニ指置候二付、庄三郎を遣し申度由願状指上候二付、園右衛門様迄手紙相添遣し願状指上させ申候

同四日

一田中々村伝左衛門弟門太夫も江戸へ稼ニ参度由願候二付、吟味仕候処右庄三郎と一所ニ参、小田原町壱町めさかミや徳兵衛方迄参候様ニと申二付、右庄三郎願状と一紙ニ而指上候様ニと申付候

覚

一村々廻米之義ニ付組切ニ別紙廻状遣候条入念可申渡候、今年ハ別而御米御急用之由ニ候間、追付廻舟三国湊入津可有と察候間、毛頭油断無之様ニ可被相心得候

一あつらへ米停止候処去春も内々ニ而あつらへ候よし、右あつらへ米江戸御蔵前ニ而別而升め無之候、弥にあつらへ米不仕其村ニ而拵立候様ニ可被申渡候、げにく米不足ニ而調米不仕候ハて不叶村々ハ、俵員数・直段共ニ令吟味書付ニしるし、庄屋印形取之可被指越候

一廻米内々ニ而三国・金津辺ニ而拵、其米を舟積村々積廻候と申之候村も有之由相聞候、如此之類ハ俵拵ニ而あつらへ候と相見へ可申候、今年ハ猶以三国ニ而令吟味、右之類之米ハ升目四斗三升之積を以可請取候条、此段とくと村々へ可被申渡候、此

廻状名之下被致印形、早々相廻し留る可被相返候、以上

申ノ二月三日

青山藤助印

尾花園右衛門印

舟寄村善右衛門殿

前谷村次郎左衛門殿

後山村平助殿

一右組切別紙書付被遣候由被仰越候得共、右之御廻状斗舟寄の村次

二而参候二付、右御廻状斗後山村平助方へ遣し、別紙之義舟寄善

右衛門方へ申遣可相尋之処、権右衛門鯖江の罷帰候節道二而別紙

書付請取罷帰候二付、村々呼寄可申渡事二候故申遣候

一権右衛門鯖江の罷帰り候、右可相返御廻状共御陣屋二而沢右衛門

様へ相渡し候

一去未春御廻米三匁銀之御手形藤助様へ致返上候

一赤尾村潰百姓之義、村人二申付高主を付申様二と被仰越候

一御廻米為御用当十日時分二沢右衛門様三国二御出二候間、御米

早々津出し可申付由、村々御米中札早々取揃候而園右衛門様迄遣

し候様二と被仰付候

一当申年御普請願候村々相改書付可指由被仰付候

一当御廻米無之者調申品有之候ハ、致吟味一村切書付可指上由被

仰付候

一当中頃二重義・舟津御検地二御出可被成由、園右衛門様を被仰越

候

一当郡当年上乘之義、九番笹岡村清右衛門、十三番井江葎村甚右衛

門、右之通御陣屋二而鬪被遊相極候由

右八権右衛門鯖江の罷帰候二付如此二候

一福居斎藤太右衛門・なへ屋七兵衛被参候

二月五日

同六日

同七日

一御廻米之義二付右御廻状被遣候二付、村々庄屋中呼候而御米無油

断日割被仰付候通津出シ候様二と堅申渡候、御廻状二判形取申候

一新家次兵衛世忰仁兵衛を勘当仕候由、去未八月書付指上候処、書

損有之二付書直判形取申候、重而便り次第二鯖江御役所可指上候

一田中々村用水江縁板堰願之事

一番田村水溜御普請願之事

一井江葎村馳出砂留御普請願之事

右者普請所相改候様二と被仰付候二付、村々相尋候処右三ヶ村願

出申候

一中札三千八百五拾八枚 申春御廻米

内三千四百七拾枚 明八日二鯖江へ遣し申候

三百三拾式枚 笹岡村

拾三枚 西方寺村

四拾三枚 西谷村

メ三百八拾八枚 不足重而遣し可申由申上候

青山藤介印

同八日

前谷組村々

一右之中札前谷村六兵衛ニ為持、園右衛門様印形被成被下候様ニと

此配符村下庄屋印判いたし早々相廻、留り之村々重而便りニ可相返候、以上

申上候、并当四日ニ被遣候御廻米御廻状・新家仁兵衛書付共園右衛門様へ指上候

右御配符舟寄村々村次ニ参候ニ付、早々笹岡へ遣し候様ニと申付候

同九日

二月十日

一番田村源右衛門菜畑廿步余、去年十月ニ同村久七馬ニくわせ荒畑

一沢右衛門様御廻米舟積為御用今日三国へ御越被成候由

ニ仕候ニ付、其節庄屋長百姓ニ相断候得共何之訳も立不申、其上源右衛門田之上、久七木を植置立毛出来不申迷惑之由申来り候

同十一日

ニ付、庄屋長百姓へ申遣候ハ、ケ様之少分之事下ニ而相済可申と

同十二日

存候、田畑之中ニ植木仕置候事ハ兼而被仰渡候処、ケ様之義出入

一我等鯖江へ参候ニ付今日者福居ニ泊り申候

ニ可成事ニ而無之候間、何も立合相済被申様ニと配符遣し申候

一前谷村六兵衛人足之者右之通園右衛門様へ指上候得共、御返事も

同十三日

無之罷歸り候、山本沢右衛門義廻米為舟積明日三国□相越候、

一福居江へ参候而藤介様・園右衛門様へ、笹岡村宗兵衛火事ニ

先達而申触候通其村々廻米明後十一日可有津出候、少も油断有

付持高之内御引被下候を村中引高二可仕と申、御廻米之割方指支

間敷候、御米急御用ニ候間、随分米拵・俵拵等入念、舟積滞なき

中札二百姓共判形仕間敷と申者有之由宗左衛門申ニ付、然者割之

様ニ津出し可仕候

通判形仕候者ハ為致候而、仕間敷と申者ハ御断申候様ニと申付候

二月九日

山本沢右衛門印

罷越候、定而跡々宗左衛門可参と存候由申上候

齋藤久野右衛門印

一福居米町齋藤太右衛門ニ金百五拾両未五月十三日ニ証文相極、右

尾花園右衛門印

之金子貸候而則勝山領銀札拾貫五百匁質ニ取、同十一月晦日切ニ

壹割四分の加利足を、元利不残返済之上右之質物銀札請返し可申定、若右日切ニ請出し不申候ハ、貸主太右衛門家・居屋敷・蔵三軒共ニ相渡し可申定之証文ニ、同所神明町鍋屋七兵衛請判之証文取置候処、年内の度々太右衛門ニ相断候得共返済不仕候ニ付、

右証文之写別紙訴状を以藤助様へ申上候へハ、右拙者方々指上候

(源美友信・福井藩寺社町奉行)

証文訴状之写藤助様御指添被遊、福居渥美新右衛門様へ被遣

候ニ付、翌十四日ニ拙者持参仕御広間番へ相渡し罷歸り候

以手紙申遣候ハ、舟津村・重義村檢地ニ付、来十五日ニ石田中

川浅右衛門殿并我等共兩人舟津村迄罷越候、勿論右之趣舟津村へ

申越候得共、尚以諸事手支無之様ニ可申渡候

一宿ニ軒支度いたし候様ニ可被申付候、兼而申渡候通宿拵等かるく

仕、物入無之様ニ堅可被申渡候

一彼村逗留中用候米・塩・噌、金津・三国両所ニ而勝手能方ニ而調

申度候間、指当手支無之様ニ懸心可被申候、以上

二月十一日

齋藤久野右衛門印

尾花園右衛門印

前谷村大庄屋

二郎左衛門殿

右之御配符舟津村へ持参ニ而請取申候

同十四日

覚

一村々廻米当月十一日津出仕候様ニ「」付候処、一切津出し

無之由不屈ニ候、廻□□式拾式艘相極来廿日頃三国入津可有之由

申来候、別而御米急御用ニ候条此廻状参着次第早々津出し可有候

一米不足ニ候ハ、如何様之訳ニ而令不足候哉調、直段共ニ大庄屋令

吟味書付可指出と申遣候処、是又菟角之沙汰無之候、弥調候ハて

不叶不足米ハ当月中ニ出来候積仕、船積手支不申候様ニ急度相調

可申候、尤右直段付来十六日を限可指出候

一村々廻米吟味仕候様ニと兼而大庄屋ニ被仰付候処、今年ハ大庄屋

なげやりニ仕候と相見得、廻米滞沙汰之限りニ候、村々庄屋共呼

寄急度令吟味候、若承引不仕村々ハ早々注進可有候、不及申候得

共廻米滞無之様ニ可有詮義候、為其如此ニ候、以上

二月十三日

齋藤久野右衛門印

尾花園右衛門印

青山藤介印

前谷村大庄屋

二郎左衛門殿

右之御配符鯖江ニ而致拝見、添状仕村々へ早々相廻候様ニと申遣、

西谷村ニ而留り申答ニ候

一我等義渥美新右衛門様へ藤介様御状等持参仕候ニ付福居留り申候

同十五日

一当申春御廻米江戸納宰料并上乘ニ被仰付候御条目壹通、但江戸納

才料ハ大野郡野中村弥次右衛門・坂井郡舟寄村半兵衛

一上乘御取被成候証文壹通

一 上乘親類付之案紙壹通

一 納才料・上乘罷出村々へ三通之御書物被遣候由、沢右衛門様御配符共二四通、今日後山村へ参候二付請取申候、尤我等方二而相認候様二とハ不被仰越候得共、村々遣し候而も不埒二可有と存候二付、此方二而相認判形等取申候

一 園右衛門様・久野右衛門様・中川浅右衛門様今日舟津村迄御檢地御用二御越被成候二付、御宿ハ清左衛門・弥次兵衛方二而仕候

一 西方寺村十右衛門、村之内百姓共高を書入させ金子貸候得共、相濟不申候由書付仕持参、権右衛門預り置候

一 我等鯖江へ罷歸り候

二月十六日

一 舟津村今日御檢地小谷清水へ御打被成候、我等も罷出候而御用等相勤申候

一 国影・牛山・井江葎・横垣・赤尾、此村々庄屋中二相候二付、御

廻米調米二仕候分直段等吟味仕、当十六日二書付指上候様二と先日御廻状被下候得共、当郡之義諸百姓共三国之様子能存候二付直

段等相違無之、其上商事二候へハ急申二付高直成事御座候付、先村々二有米を仕立津出し仕候而、其内調米相極申度由藤助様申上

候二付、勝手次第二仕候様二と被仰付候間、先村々二有米之分早々津出し仕候様二と申越候、十楽・田中々村・番田・重義へハ庄屋

中呼寄申渡、其外村々へハ配符二而申遣候

同十七日

一 笹岡村宗兵衛舟津村迄申来りハ、市右衛門・宗左衛門一昨十五日二鯖江へ参候而引高「」申上候処、村納得二而無之候ハ、宗兵衛分「」高二仕候事不罷成候由被仰渡候由宗左衛門申付、

只今二成ひしと及潰申義迷惑仕候由申二付、園右衛門様へ其段申上候へハ、引高之義沢右衛門様御支配二候へハ、其段申上候様二と被仰付候二付三国へ参申上候へハ、笹岡庄屋長百姓不残呼寄候様二と被仰付候二付而、宗左衛門・市右衛門・宗右衛門・宗兵衛・仁左衛門、此五人早々三国迄参候様二と配符遣し申候

覚

一 銀七拾五匁、内拾五匁市郎兵衛、拾五匁五郎左衛門、式拾匁

市郎右衛門、式拾匁十右衛門、卯七月十日預り手形

一金式分銀四匁、此質高式石五斗、借主太郎兵衛、巳六月十五日

証文

一金合式拾匁、此質物東田山白尾開式ケ所、借主太郎兵衛、辰六月廿五日証文

一 銀合三拾匁、此質物四ケ所、大口山・白尾山・新四郎山・亀尾開壺ケ所、かり主太郎兵衛、卯ノ十二月二日

一 銀合六拾匁、内式拾匁太郎兵衛、質物家壺軒・居屋敷共二、拾匁五郎左衛門質物高式石五斗、三拾匁市郎右衛門質高三石、卯

十二月二日之証文

一金三分銀三匁、此質高式石五斗、山壺ケ所丸□□り、借主五郎左衛門、巳六月十五日之証文

一□□山式ケ所、稲葉山深谷平、此代米壹表、かり主又三郎、卯三月廿四日之証文

一銀三拾匁、質高式石五斗、かり主五郎左衛門、卯十二月二日之証文

一持山三ヶ所、上ノ山・白尾山・新四郎山、此代金三両三分、かり主市郎右衛門、刁極月五日之証文

右九通之証文表西方寺村十右衛門方々ニ而借出し貸置候得共、去年の元利共二少も相済不申由、訴状・右証文之写持参仕候、其上太郎兵衛書入候家を金津へ売候而こわち取申由断候二付、市郎右衛門方へ配符ニ而申遣し候ハ、十右衛門方ニ太郎兵衛家書入証文有之二候へハ、其埒明候迄ハ家をこわち申間敷候、其上十右衛門方を書付指上候間、此方へ参候様ニと申遣候

一今日八ツ時分迄笹岡村之者共可参と存三国ニ相待罷有候処、不参候ニ付沢右衛門様へ御断申上、我等□□廻米之義ニ付西谷・舟津村へ参候処、笹岡宗左衛門・仁左衛門・宗兵衛斗参候而、三国ニ而沢右衛門様へ申上候へハ、二郎左衛門同心ニ而罷出候様ニと被仰付候由ニ而、舟津村へ参候由ニ候得共、我等西谷へ寄申間を不相待罷歸り候由、宗兵衛壹人道ニ而相物語仕候ニ付、宗左衛門・仁左衛門参候とても、市右衛門・宗右衛門不参候而ハ召連罷出申事難成候間、右申遣候五人共不残明十九日ニ舟津村迄参候様ニと、

重而宗兵衛ニ配符遣し申候、次ニ清右衛門上乘証文之判形も宗左衛門・宗右衛門判形取申事ニ候間、早々参候様ニと委細清右衛門・宗兵衛ニ申渡候

二月十九日

一西方寺村市郎右衛門・太郎兵衛・五郎左衛門参候ニ付、十右衛門方訴状証文之写を以吟味仕候へ共埒明不申、市郎右衛門申候ハ、貸方之義ニ付相違之事共有之候間、十右衛門と対談仕埒明申度と申二付、何様ニも十右衛門方へ出入ニ罷出候へハ此方ニ構申事ハ無之候、如何様共下ニ而相済可申候、次ニ太郎兵衛家之義、十右衛門方を書入証文を出し申事ニ候へハ、其埒明候迄こほち取申間敷候由申付候、次ニ十楽村五十郎・庄兵衛との出入も詫言仕懸置候由市郎右衛門断申候

同廿日

一笹岡村之者共今日も不参候由宗兵衛断ニ参候ニ付、一昨日の之段々口上書を以三国沢右衛門様へ申上、御配符被遣被下候様ニと申遣し候

一城新家次兵衛忞仁兵衛勘当仕候ニ付、書付を以御断申上候処園右衛門様被仰聞候ハ、勘当仕候事書付迄ニ而ハ埒明不申候間、親次兵衛・庄屋又左衛門鯖江へ参御断申上候様ニと被仰付候へハ又左

衛門申候ハ、次兵衛義(年九)□寄耳も聞不申、鯖江迄参候事難成「」
 急成義ニ而も無御座候へハ、日和も「」鯖江へ仕度候、其節
 御訴訟可申上由申二付当分延引仕候、右之通又左衛門申候故其通
 園右衛門様へ申上、鯖江へ申上候事ハやめ申候
 一右之通沢右衛門様へ申上候へハ、笹岡村へ御配符被遣候由被仰越
 候

二月廿一日

一舟津村ハ三国へ参笹岡村之者共相待罷有候へハ、市右衛門・仁左
 衛門・宗右衛門三国へ参候二付、右宗兵衛へ被下候引高之義村中
 へ割取可申と□懸候由、村々割取可申道理有之候哉、其段申上候
 様ニと御尋ニ候処市右衛門・仁左衛門申上候ハ、村中へ割取可申
 道理とてハ無之と申上候二付、然上何とて妨候哉御尋候へハ小百
 姓共何角と申上候二付、扱ハ是へ参候面々ハ構も無之候得共、小百
 姓何角と申義ニ候ハ、妨候小百姓共不殘召連参候ニと被仰付候
 一笹岡村清右衛門上乘証文并親類書之証文、宗左衛門・宗右衛門印
 判持参不申候二付相待候得共、遅参二付上乘請証文ハ舟寄村へ遣
 シ申候、重而三国ニ而判形御取被下候様ニと申上候、清右衛門ハ
 三国へ参候ニ付沢右衛門様御目ニ懸候

同廿二日

一笹岡村小百姓共三国へ参沢右衛門様へ罷出候二付、引高之義段々

被仰聞候得共承引不仕、□非共村中へ割取可申と申二付、然上ハ
 藤助様御了簡を御聞可被成候間、何も罷帰候様ニと被仰付罷歸り
 候

一同村惣兵衛ニ沢右衛門様被仰聞候ハ、小百姓共二色々御詮義被遊
 候得共、□々ニ何角と申二付三国ニ而埒明不申候と被仰聞候

同廿三日

一此間雨天ニ候間早々御米拵仕、天氣上り次第三国へ出し候様ニと
 村々へ配符遣し候

同廿四日

笹岡村惣兵衛去年火事ニ逢候二付、高を引免状ニ御書載被下候処、
 火事免と無之候間小百姓共可令割符由申之由、先頃両庄屋申来り
 候、尤免状ニ火事引とハ書付不申候得共、惣兵衛家材雜石等(穀)迄燒
 亡ニ付御吟味之上御引被下候、然処小百姓共可令割符と申掠候段
 不届ニ候、此方へ呼寄可令詮義候得共、此節廻米津出候故令延引
 候条、庄屋并小百姓共ニ其方へ呼寄右之訳とくと被申聞、其上ニ
 も得心不仕候ハ、庄屋長百姓・小百姓共ニ一同之口上書取之可
 被指出候、但先年彼村燒亡之節も是又御吟味之上御取ケ御用捨ニ
 付、火事ニ逢候者共ハ壱ツ余下り候、其外無事之者共ハ四分程下
 り候得共、是又免状ニハ火事免と記不申候、今度惣兵衛分引高平
 均ニ可割取と弥小百姓申候ハ、先年火事之引免も此度割直シ無

事之者共へ只今可相返哉、是等之義共ニ詳ニ被申渡、否之口上書取之可被指出候、以上

二月廿三日

青山藤助

前谷村大庄屋二郎左衛門殿

一昨日惣兵衛鯖江へ参御訴訟申上候ニ付、右御書付^(被)遣致拜見候ニ付笹岡村へ配符ニ而申遣候ハ、其村惣兵衛火事相候ニ付為御救之引高被仰付候、御年貢米小百姓共割取可申と申候由、就夫藤助様^ハ被仰聞候御用之事有之候間、右之年貢米割取可申と申候小百姓不残印判持、庄屋長百姓召連明廿五日ニ舟津村迄可被参候、宗左衛門・市右衛門・仁左衛門宛所ニ而配符遣シ申候

一笹岡村宗右衛門義此引高之義ニ付構無之由申二付、此度之配符ニ除申候

与下村々川除普請所書付可被指越候由先日被申候ニ付、相待候得共沙汰無之候、外郡相濟其元^ハ帳面待^(送)て江戸へ遅^(送)り候ニ付、近日帳面指下候、普請所無之候ハ、其通ニ候、弥有之候ハ、二三日中ニ早々可被指越候、未過候ハ、可為無用候、以上

二月廿三日

青山藤助

前谷村大庄屋二郎左衛門殿

後山村大庄屋平助殿

右之御配符被遣候ニ付笹岡村惣兵衛ニ遣し、笹岡村^ハ後山村へ今日之内ニ相届候様ニと申遣し候

二月廿五日

一笹岡村宗左衛門・市右衛門舟津村へ参申聞候ハ、昨日御配符被遣候ニ付小百姓共ニ申触候得共、此方へ参候而も何可申上様も無之候へハ、参間敷と申シ参候ニ付御断ニ参候と申二付、其義ニ而者其旨口書仕候様ニ申上候へハ、口書仕候事成間敷と申二付、藤助様^ハ被遣候御手紙を誦為聞、如此之被仰越候ニ付段々為申聞、小百姓共口上之通判形を取指上可申之処、何も我儘申不参候ハ、不残為申聞候得共、不参候との口上書者可仕候処判形仕間敷と申候義、扱ハ小百姓へ不申聞候哉と色々為申聞候得共、口上書出し申間敷と申二付、以後為証扱之ニ候へハ園右衛門様・久野右衛門様一通り御聞被下候様ニと申上候ニ付、右兩人被召寄段々被仰聞候得共口上書指出し申間敷と申二付、右之通之口上書指上候様ニと被仰付候得共一切承引不仕我儘成義申二付、其義ニ候ハ、藤助様被仰遣御了簡次第ニ可被成候間、罷歸候様ニと被仰聞候

一宗左衛門中札之義申上候ニ付、引高之中札ハ先指置、残中札ハ持参可仕候、御判可被成之由被仰渡候

同廿六日

一十楽村川除、田中々村用水江板堰、番田村苗代水圍之堤、井江葭村砂留、城村・同新家塩浜置砂、右五ヶ村御普請所見分大積り帳仕立、田中々村之人足ニ為持鯖江へ指上候

一笹岡村宗左衛門・市右衛門当十六日鯖江^ハ罷歸候而、宗兵衛引高

之御年貢米取立候様ニと藤助様被仰付候間、御廻米仕立津出し仕候様ニと俄ニ申付候二付、其段惣兵衛舟津村迄申来候二付則園右衛門様へ申上候へハ、去年引高之義沢右衛門殿御吟味二候へハ申上候様ニと被仰付候二付、則三国へ参沢右衛門様へ申上候へハ、笹岡村庄屋長百姓呼寄候様ニと被仰付候二付、沢右衛門様御尋被遊御用有之候間、早々三国へ参候様ニと十七日ニ申遣、翌十八日八ツ時分迄三国相待^(罷)有候得共不参候二付、御廻米之義二付村々罷越舟津村へ参候へハ、宗左衛門只今罷帰候と申二付、今少相待不申何之様子不承候而罷帰候二付埒明不申候二付、明十九日ニ参候て沢右衛門様へ罷出候様ニと申遣候得共不参候二付、十七日廿日迄之内三度申遣候得共不参候故、其段沢右衛門様へ御断申上候へハ御配符被遣候而、廿一日市右衛門・仁左衛門・宗右衛門参候二付段々被仰聞候へハ、宗右衛門此義二付何様ニ被仰付候共構無之由申上候、市右衛門・仁左衛門八面々ハ至極仕候へ共小百姓共承引不仕候と申二付、其義二候ハ、明廿二日ニ小百姓共召連参候様ニと被仰付候而、廿二日ニ何れも参候二付段々被仰聞候得共、口々ニ我儘を申二付何之埒も明不申罷帰候二付、其段惣兵衛ニ被仰渡候二付、廿三日ニ惣兵衛鯖江へ参候而藤助様へ段々申上候へハ、右之御書付被遣候を拝見仕、廿五日ニ庄屋長百姓・小百姓共ニ、此引高二付何角と申候者共召連舟津村迄参候様ニと申遣候へハ、廿五日ニ宗左衛門・市右衛門参候而我かま、成事共申二付、園右衛門様・久野右衛門様右兩人被召出、段々被仰聞候へ

共我かま、申候義共、十七日迄昨廿五日迄之事共一言も不残書付、藤助様へ田中々村之人足ニ而申上候

一 西方寺村色々出入申出候得共、御廻米相濟候迄取次申義無用之由、園右衛門様被仰付候由申上候

一 自分斎藤太右衛門と出入事候、申上候之通藤助様へ以書状申上候

一 西方寺村市郎右衛門・太郎兵衛・十右衛門・善兵衛参候付、出入之義御廻米相濟候迄御取上ケ無之由申渡候へハ、是非共申上度由申二付、重而又御窺可申上由申上候

一 西方寺村善兵衛御年貢通を市郎右衛門たくり取候二付、去暮我等方へ断申由善兵衛申候得共、去暮下シ田年貢米市郎右衛門相濟不申候との事ハ其方申参聞候得共、通たくり取申義ハ不申聞候二付不承候、其後年貢米之事算用有之二付、立合算用可仕と市郎右衛門申候間、さん用仕候様ニと申聞候、其節返事ハ何共不申聞候、其時其方通之事如何申聞候哉と道理詰申聞候へハ罷帰り候

二月廿七日

来書令一覽候、村々普請目録被指越請取候、とくと見届可申候

一 笹岡村引高之義二付庄屋長百姓吟味之上被致詮義、書物取之可被指越旨申遣候処、百姓共及異義不参之由被申聞令承知候、則指紙遣し候条可被相届候

一 西方寺村十右衛門と同村太郎兵衛・市郎右衛門金子出入有之由、廻米埒明候節可被申越候

一其方先日訴訟之趣に今福井（と）□かくの返事無之候

一柿原十楽村庄兵衛、柿原西方寺村太郎兵衛・市郎右衛門二対し田地出入有之由、石田手代衆（と）申来候、右之訴状ニ致付紙遣候条罷出候様ニ可被申付候、但遠方之百姓此方迄罷出候へハ費有之候、

市郎右衛門加判之証文有之候へハ市郎右衛門・太郎兵衛申分難立可有之と存候、内々ニ而相濟候ハ、致得心候様ニ可被申渡候、但証文之写遣候条、是ハ太郎兵衛・市郎右衛門二見せ（るニカ）□□不及候、

其方為心得遣候書物相考可有詮義候、尤口書等取之証文之次第書付、若証文之面と相違成申口ニ候ハ、其上ニ而証文写見せ可被申候、他所との出入ニ候へハ尚以未熟成義ハ不罷成候条、其段可被申渡候

一尾花園右衛門殿書状請取候、則返札遣候条村次を以可被相届候、以上

申二月廿六日

前谷村

大庄屋二郎左衛門殿

青山藤助

尚々殊之外御用取込候節相認候文言前後可有之候、大概相察可有了簡候

一柿原十楽村庄兵衛方（と）八年以前申ノ年代金貳両、此質物高九石・山六ヶ所書入金子借申、西方寺村太郎左衛門・市郎右衛門・十右衛門判形証文之写壹通、藤助様（と）拙者為心得被遣候

一右之代金相濟不申候ニ付、本人太郎左衛門高九石、六ヶ所共流相渡し申候処、右高之内五石七斗五升十右衛門預り高、三石貳斗五

升太郎兵衛預り高、畑貳百歩市郎右衛門一作請仕来り候処、何角と申太郎兵衛・市郎右衛門相渡不申候ニ付、被仰付被下候様ニと庄兵衛訴状石田指上候故鯖江へ被遣候、其写此方へ被遣、則御指紙下ニ而何とそ相濟可申候、則拙者方ニ而吟味可仕之由、若相濟不申候ハ、来月十三日ニ返答書庄屋長百姓鯖江へ可参候、証人十右衛門も可参候、但入用之義ハ太郎兵衛・市郎右衛門として出し可申之由御書付被遣候ニ付、西方寺村市郎右衛門・太郎兵衛ニ相渡申候

其村百姓惣兵衛家財道具・雜穀等令焼亡候、依之吟味之上去御取ケ之節惣兵衛持高之内引之免状ニ御書載被遣候、然処小百姓共申候ハ、火事引と御書付不被成候条惣百姓可割取申之由、最前宗左衛門申来り候ニ付、勿論火事免とハ御書載不被成候得共、惣兵衛火難ニ逢候故御引被下候、此段百姓共へ被申聞候様ニと申渡候、然処先頃両庄屋罷出内々ニ而、とかく火事免と無之上ハ割符可仕と小百姓共申之由、何程拙者共兩人申聞候而も不令承引候由両庄屋申候ニ付我等申候ハ、左様之公事かましき申口不届ニ候得共、免状ニ火事免と記不申候へハ不及是非候、乍然先年火事之節過分之免引之候、其節火事ニ逢候者ハ大分免もらい候、其節之免状ニも火事免とハしるし不申候段、とくと小百姓共へ可申聞候、其上ニも承引無之候へハ、百姓共相手ニ致此方及異論候趣ニ罷成候へハ、其上之義ハ百姓共勝手次第二候と申渡候、然処我等指図を以右之引高惣百姓割符仕筈之由、先日

惣兵衛申来り候二付、庄屋長百姓之外小百姓共呼寄詮義之上、口上書取之可指越旨大庄屋二郎左衛門方へ申遣候、則二郎左衛門方も罷越候様二と申越候得ハ庄屋兩人斗罷出、其外小百姓共ハ罷出候而も可申義無之由二而不參候由、近比不届之至二候、右引高之義ハ惣兵衛火事ニあひ田畑耕作等迄不宜段御吟味之上、惣兵衛持高之内御引捨被下候条其意得、惣兵衛持高之内引高二可仕候、若如此申遣候而も難心得義於有之二ハ、右申遣候趣を以委細書付ニしるし、来月五日庄屋長百姓并小百姓式人一同二可罷出候、若於不參ニハ可為曲事候、以上

申
二月廿七日

青山藤助 印

笹岡村
庄屋
中
百姓

追而披見之上追而可相返候、已上

右之御書付共田中々村之人足持參仕候二付請取申候

二月廿八日

一右之御書付笹岡村へ村次ニ遣し候、国影村・井江葎村・清王村・西方寺村・宮谷村も儘成者ニ為持笹岡村へ遣し候、何時相渡申と笹岡村宗左衛門ニ入念相断候様二と、宮谷村義兵衛方へ手紙遣し申候

同廿九日

一柿原十楽村庄兵衛訴状之写、藤助様も被遣二付太郎兵衛・市郎右衛門ニ相渡、被仰越候段々申聞候へハ、致相談出入ニ仕事ニ御座候ハ、重而返答可指上候、先相談仕度と右兩人申候、次二十右衛門訴状指上候段々、証文之写を以吟味仕口書取申候

一右西方寺村市郎右衛門方も善兵衛ニ貸方有之由、訴状証文之写指出候二付善兵衛ニ參候様二と申遣し候

一十楽村五十郎呼候而庄兵衛ニ異見仕、流シ申代金を太郎兵衛高請させ申間敷候哉相尋候得共、先当分ハ無何事高・山相渡、重而庄兵衛ニ断申候ハ、請させ可申事ニ候、当分急ニ申候分ニ而ハ請させ申事成申間敷由五十郎申候

質物書入証文之写

一高四石 山壱口半 正田村長右衛門貸分

此代銀貳百四拾三匁六分

一高六石五合三勺 山貳口貳分壹厘

此代銀百七拾三匁七分 笹岡村宗右衛門貸分

一高五石五合三勺 山貳口 同村市郎兵衛貸分

此代銀貳百四拾三匁

三口ノ六百六拾匁三分

右ハ借主笹岡村九右衛門午十二月廿六日宗兵衛・宗左衛門加判之証文、貸主右三人一紙証文写を以右之銀子相済可申候由、三人方も断有之二付此義相済可被申候、若相済不申候ハ、九右衛門參候様ニと宗左衛門方へ配符遣し申候

舟津村御検地田方今日昼迄二相済申候

覚

一村々〆詛米被成候御廻米ハ四斗三升之筈ニ御座候得共、今年ハ御米高ニ而百姓中難義可仕段御了簡之上、四斗式升五合ニ而御納候様ニ可仕候間、其御心得ニ而詛米仕候様ニ御与下村々へ可被仰渡候、以上

申二月廿八日

三国御米立合

与三右衛門印

権左衛門印

伊左衛門印

後山村
平助様

次右衛門印

前谷村
二郎左衛門様

吉右衛門印

右之通三国立合中〆廻状参候

三月朔日

一笹岡村九右衛門・宗左衛門昨日申遣候義ニ付参候故、宗右衛門・市郎兵衛、長右衛門方之かり銀相済不申候として出入ニ罷出候由申聞候へハ九右衛門申候ハ、かり銀ニ紛無之候ニ付利足を取本かり申度由申候得共、元利共ニ取切可申と被申埒明不申候、利銀之義支度仕置候由申ニ付右三人申候ハ、質物ニ取置候高を外へ売申様ニ承候と申義ニ候、此義誠ニ候哉と申候へハ、手前不罷成私之義ニ候へハ外へ売申義も可有之候と九右衛門申候ニ付、然ハ元利を以高請出しいか様共仕候様ニと申聞候

一笹岡村宗左衛門断候ハ、何も加判ニ而質物ニ取置候、市右衛門利兵衛田を昨日我等方〆打せ候へハ、清左衛門方押申由ニ候、此田取かちにて成田地ニ而も無之候へハ先其通仕置候、宿ニ而権右衛門吟味仕候へハ、其方判形ニ而清左衛門方へ一作売ニ仕候由、本人之義ハ勿論其方義庄屋之事ニ候へハ、胡乱義ハ有間敷と存質物ニ取候処、ケ様之出入ニ罷成事不残其方之しわさニ候へハ、いか様共埒明可被申候、我等事ニ候へハ早速御公儀へも難申上候ニ付、其方了簡次第ニ埒明候様ニと申断候

同日

一重義村へ参候而御検地御宿方御手支無之様ニ申付候

同日

一笹岡村市右衛門・利兵衛参候而、質物ニ取候田地相違仕候義誤至極ニ候へハ、此上ハ利足、同去未ノ御年貢米、右高・代金共ニ返済可申候間質高御返し被下候様ニと申ニ付、年季之内ニ候へハ高請させ申義難成候得共、我等事ニ候へハ御公儀へ罷出候事難義ニ候故、面々願之通ニ可仕候間当八日切ニ右之金子共持参可仕と申渡、扱権右衛門を以宗左衛門方へ申遣候ハ、市右衛門・利兵衛右之通之佗言ニ候へハ其通ニ可仕と申聞候、併宗左衛門不合点ニ候へハ右之通ニハ仕間敷候間、宗左衛門と相談仕候様ニと申遣し候

同四日

一北金津藤右衛門申来り候ハ、番田村之者共ニ貸銀有之候処、元利相濟不申候由断有之候ニ付、下ニ而相濟候様ニと配符遣申候

一西方寺村善兵衛煩申由ニ而今日參候ニ付、其村市郎右衛門方の書付指出し申由段々申聞候

同五日

一舟津村武兵衛畑壹畝拾四分之義ニ□御檢地御役人様方訴書指上候

ニ付、吟味仕候処納得ニ而相濟候ニ付、武兵衛訴書裏書判形を取相濟申候

一舟津村御檢地今日切ニ相濟候ニ付、重義村へ何れも御越被成候

三月六日

一重義村隣村地境御改之上、御料所村々神文、私領北金津ハ庄屋長百姓証文御取被成候

同七日

一笹岡村市郎兵衛、同村九右衛門方の取置候質高之義ニ付訴状持參仕申候ハ、利足銀斗を請取元金貸置候而質高外へ売付なされ、其跡とやかくと出入仕候も只今出入仕候も同事ニ候へハ、訴状指上御了簡を請申度と願候ニ付、訴状・同証文之写式通請取置

一かりニ取扱申物金・銀・金具等結構物仕立申間敷との御法度壹

通

一衣類・屋作等輕可仕との御法度書壹通

右式通之御書付ニ藤助様御手紙御添被遊被遣候を請取申候

同八日

一笹岡村市郎兵衛・宗右衛門・北疋田村長右衛門、此三人の笹岡村九右衛門高・山質物ニ取金子貸申候処相濟不申候ニ付、右三人方の訴状指上候ニ付、訴状并証文之写共ニ手紙指添、今日鯖江指上候ニ付段々申上候趣者

一笹岡村宗兵衛引高之義ニ付、宗左衛門・市右衛門・仁左衛門・小百姓式人鯖江五日ニ參、六日ニ罷歸候処拙者方へハ何之訳不申来沙汰ニ而、様子承候得ハ市右衛門・仁左衛門・清右衛門ニ手錠被仰付候様ニ承候得共、右三人共ニ無別義罷歸候様ニ承及候、此引高申分宗左衛門仕形悪敷候ニ付如此ニ候、宗左衛門義去戌暮の庄屋仕候処、出入有之候而少之内拙者方參候而も一度銀三匁ツ、一日罷有候へハ銀壹匁五分、鯖江へ參候へハ一日ニ式匁五分ツ、出入人の取申由ニ候故、何之村ニも庄屋・大庄屋方へ參候ニ日用取候事不宜候間、相止申様ニと申聞候得共于今取申由、乍御序是も被仰付被下候様ニと申上候

一笹岡村市右衛門・利兵衛・清右衛門持高之内午・未兩年ニ拙者方へ質物ニ取、其田畑其主方へ下シニ仕置候処、去未年利足之年貢米相濟不申候ニ付、当春の拙者方へ田畑請取為打候得ハ、

前谷村清左衛門一作買仕候由ニ而右之田共押申候、拙者方へも清左衛門へも宗左衛門判形如此出入ニ取組候事、宗左衛門所為ニ而御座候得共、拙者自分之事御取込之節出入申上候事迷惑仕候ニ付、当日迄ニ本金去年之下シ米相濟、高請出し申様ニと申聞候、是ニ而も相濟不申候ハ、重而可申上候、此義相濟候共宗左衛門兩判之御吟味ハ、御廻米も大方相濟候ハ、可奉願由申上候

一 笹岡村御普請所願書鯖江へ宗左衛門持參候之由承候ニ付藤助様へ申上候ハ、御普請所之義先月七日宗左衛門ニ相尋候処、当年少々願有之候得共当年ハ相止可申と申候処、其元へ直ニ帳面指上候由、如何様之子細ニ而左様ニ仕候哉と御吟味被遊被下候様ニと申上候

一 笹岡村清右衛門持高之内宗右衛門質ニ取候田大坪と申所、前谷村清左衛門方お打おこし申由、訴状指出し候ニ付此義申上候
 一 先日指上候御普請所之義、無相違被仰付被下候様ニと申上候
 一 舟津村御檢地当月五日ニ相濟、夫も重義村御越之由申上候
 右之通今日笹岡村惣右衛門・市郎兵衛鯖江へ參候ニ付藤助様へ書状を以申上候

三月九日

一 右笹岡村宗右衛門指上候清右衛門田出入之訴状、何とそ下ニ而相濟申度と清右衛門色々謔言申ニ付、先此度ハ訴状指上申間敷由宗

右衛門申来り候ニ付、尤我等書状ニ書載候得共其訊藤助様へ申上、訴状指上被申間敷由宗右衛門ニ申渡し候

一 当七日ニ鯖江へ被遣候式通之御法度書之判形、村々庄屋中重義村へ呼寄委細申渡判形取申候、其外当御廻米之義早々津出し候様ニと申渡候各与下村々廻米無油断津出し可有候

一 廻米之義不足も有之候哉、調候訊委細可申聞旨先達而申遣候得共否不被申越候、廻船追付三国湊へ入津可有由大坂へ申来り候、且又津出し之義委細大庄屋へ申渡候而、急度無滞様ニ可仕旨今日も江戸へ被仰下候、然処其村々まかせニ被致候故廻米津出し延引之由相聞候、若於油断二者各不念ニ可罷成候、急度懸吟味早々津出し可有候、滞無之候ハ、其段書付ニ記シ可被指越候

一 前谷村二郎左へ申入候、宮谷村与次右衛門親左五右衛門願ニ付牢舍申付候、右与次右衛門義何年以前高とらせ候迄ハ無別事候哉
 一 与次右衛門義常々不屈之品々、一書ニ記シ候様ニ可被申付候
 一 与次右衛門義ハ別腹ニ候哉、又ハ佐五右衛門実子ニ而子共不残一腹ニ而候哉、是又右申遣候通詮義いたし、何れも一書ニいたし近日庄屋長百姓并佐五右衛門悴共迄一同ニ可被指越候、其元ニ而大抵ニ書付可被申候、此方ニ而猶又聞届書面書直し候義も可有候、以上

三月八日

青山藤助

舟寄村善右衛門殿

後山村平助殿

前谷村二郎左衛門殿

右藤助様御状笹岡村宗兵衛ニ被遣候二付、判形仕笹岡村・前谷村・
柵村の後山平助方へ遣シ候、宮谷村へハ此方のはいふニ而申遣し候
一右之通之御廻状ニ候故、村々御廻米納方調米・不足米共ニ一村切

書付、十一日・二日両日之内庄屋長百姓同道ニ而持参候様ニと申
遣候、不足米之義堅吟味候様ニと委細申触候

一笹岡村宗兵衛鯖江へ参候へハ、引高之義者弥惣兵衛持高之内御引
被下候筈ニ村中へ被仰付候由藤助様被仰聞候二付、園右衛門様・
久野右衛門様へも御礼ニ罷出候由申来り候

一番田村又左衛門庄屋指上、跡庄屋門三郎可仕由右兩人申来り候、
尤昨日四郎兵衛・久七右之通り申来り候得共、庄屋共兩人方の何
之断も無之候ニ付難心得段々申聞候二付、跡庄屋・替庄屋参断申
ニ付庄屋替り口上書案紙遣し、村中判形を取指上候様ニと申渡し
候、長百姓又左衛門・彦兵衛相勤候様ニと申付候

一笹岡村惣左衛門・清右衛門・利兵衛参候二付、自分預り高之義
段々吟味、清右衛門高之義証文を取申候、利兵衛義も埒明可申事
ニ候得共、宗右衛門鯖江へ参宿ニ不罷有候二付、宗右衛門罷歸り
候ハ、早速相談仕埒明可申候、市右衛門義茂宗右衛門・市郎兵衛
鯖江へ参候二付及延引ニ候、是も右兩人罷帰次第二埒明可申由断
申来り候

三月十日

一御廻米之義ニ付御用有之ニ付重義の三国へ参候、西谷武知右衛門
様当一日江戸の御越鯖江御着、同七日三国へ御越之由御目ニ懸り
候、笹岡村清右衛門親類書証文十楽村与三右衛門ニ相渡、沢右衛
門様へ指上候様ニと申渡し候

同十一日

一三国の重義村へ罷歸り申候

三月十二日

一宮谷村義兵衛・清右衛門・佐五右衛門参候而、与次右衛門義二付
藤助様の被仰越候段々書付仕持参候二付、様子吟味仕候処相違無
之候ニ付、近日鯖江へ参候様ニと申渡し候

一笹岡村惣右衛門・市郎兵衛鯖江へ参候二付、書状を以藤助様へ申
上候処、一々御返事惣右衛門持参仕候、宗右衛門・市郎兵衛指上
候訴状之文談悪敷候二付、書直し指上候様ニと被仰越候二付宗右
衛門申渡し候

一笹岡村庄屋長百姓方へ別紙御書付藤助様の被遣候を、笹岡村之者
共拜見便りニ返上仕くれ候様ニと申、拙者方ニ相渡し候を請取置
候

一最前被遣候式通之御法度書、与下村々庄屋連判為致園右衛門様へ
指上候

一西方寺村太郎兵衛・市郎右衛門、十楽村庄兵衛高出入色々異見仕

候得共承引不仕返答指出シ候ニ付、無是非拙者存入之義共書状指
添候而、藤助様へ指上申候様ニ市郎右衛門ニ相渡し申候

一先日願上候御普請御目論見之御帳面之写書被遣請取候

一先日被遣候柿原十楽村庄兵衛方ニ有之候細呂木村本証文之写、庄

兵衛訴状之写共ニ此度返上仕候、西方寺村西方寺市郎右衛門ニ渡

ス

一今日切ニ重義村御検地御仕廻被成候

同十三日

舟津村御検地田畑惣寄之写

一上田六町貳反六畝廿壹分

一中田八町九反四畝七分

一下田五町七反六畝貳分

一下々田六町九反五畝拾四分

小以貳拾七町九反貳畝拾四分

一上畑壹町六反四畝廿三分

一中畑三町三反壹畝廿九分

一下畑五町九畝七分

一下々畑四町壹畝拾四分

一山畑三反壹畝廿八分

一砂畑壹反八畝廿壹分

一屋敷四反八畝廿九分

小以拾五町七畝壹分
田畑合四拾三町六反貳畝拾五分

外

三反九畝拾四分 葉師免田

六畝四分 春日免畑 觀音

貳反歩 溜井敷田

壹反壹畝廿分 (痛丸) 廟所畑貳ヶ所

沼荒貳町六反五畝七分

芝間荒壹町八反五畝拾九分

荒畑六畝貳分

ノ五町三反四畝六分

重義村御検地田畑惣寄之写

一上田三町壹反四分

一中田七町六反壹畝拾八分

一下田六町五反五畝七分

一下々田四町六反七畝拾八分

一砂田壹町五反壹畝分

小以貳拾三町四反五畝拾七分

一上畑貳町三反六畝廿九分

一中畑貳町貳反壹畝拾三分

一下畑貳町六反九畝拾六分

一下々畑四町九畝拾四分

一砂畑七反八畝廿八分

一屋敷六反式分

小以拾式町七反六畝拾式分

田畑合三拾六町式反壹畝廿九分

外

八畝四分

明神免田畑

九畝廿五分

八幡免畑

三反式畝分

八王子免畑

九畝八分

廟所式ヶ所畑

式反式畝拾式分

荒芝間畑

外

一雜木林式町八反六畝分 百三拾間
六拾六間 惣分

右之通両村御檢地相濟候二付、明十四日二何も御役人様方重義村

御立被成候故、御送り之人馬重義村も不殘相勤申候

三月十四日

一右御檢地御役人衆中今日重義村御立之處、少相違之事有之二付御泊り被成候由及承候

同十五日

同十六日

一北金津若藤屋弥次兵衛取立頼母子講、同苗弥五郎取番二而罷出、

口錢八弥次兵衛出銀之内ニ而五拾匁引取申候、末々共ニ右之通り相定候

同十七日

一村々庄屋長百姓呼寄御廻米納方之吟味仕候、則村々も帳面を取其写鯖江へ指上候、村々壺人吟味之帳者早々被指越候様ニと申付候

一笹岡村市右衛門・利兵衛預り高之義、埒明不申候ニ付宗左衛門・

宗右衛門・宗兵衛二段々相届申候

同十八日

一村々御廻米納方之写、前谷村市右衛門ニ為持鯖江へ指上候、藤助様へ指上候書状御廻米寄之留書者、前谷村御廻米改帳之奥ニ書留

置候

一午御年貢名寄帳拾九冊、御下役衆御両人之方へ指上候

其方組下村々御廻米津出し今以過分之不足ニ候、如何様之訳ニ而致延引候哉、今年ハ大坂舟改も早相濟、から舟不殘一同二入

津之由候、然处于今津出し米不埒候而ハ舟積之支ニ可罷成候、舟積滞候へハ江戸表ニ而御不念之筋ニ罷成、百姓不届至極之越

度ニ可被仰付候条、庄屋長百姓呼寄急度御申渡し、無油断早々津出し仕候様ニ可被申付候、以上

三月十七日

前谷村

二郎左衛門殿

山本沢右衛門 印

右之御配符後山村の村次ニ参候二付、添配符仕村々へ遣し申候

同十九日

一 鯖江へ遣し候前谷村市右衛門、今日罷帰候二付御返事共被遣候

一 組下村々廻米之義無油断津出可被申付候、此節ニ至米不足之由

申出候ハ、其分「一」一方の急度出候様ニ可申付候、庄屋難調

躰之者ニ候ハ、大庄屋調可差出候段急度可申付候、但庄屋・大

庄屋共ニ令難洪候ハ、吟味之上入牢可申付旨自江戸被仰下候間、

得其意急度何方ニも相調候様ニ可有吟味候、此上於滞ハ其訳令

吟味書物取之江戸へ申上候外無之候、毛頭油断無之様ニ可有吟

味候、以上

申 三月十八日

前谷村

次郎左衛門殿

舟寄村

善右衛門殿

来書并廻米書付令一覽候

一 廻米不足之書付被指越候段難心得候、最前此方の申遣候ハ津出

米早々可申付候、若不足在之何方之者ニ詔候哉、其段書付候様

ニと申遣候、此節ニ罷成不足米難調と在之段我等ハ不存候、急

度潰候而成共いケ様ニ成とも、兎角早々廻米仕立候様ニ可申付

候、越前にかきらす廻米ハ諸国へ被仰付候、今日被申聞候書面

之通ニ才覚難成と申上候ハ、廻米御免可有哉、左様之儀終承不

及候得ハ猶以難取上候、依之其差越候帳面相返し候、向後如此

之帳面被差越候義可為無用候、爰元御用之妨ニ罷成候

一 裏判之儀得其意候、何時成共可被差越候、(渥美友信 福井藩寺社町奉行) 渥美新右衛門殿の于

今返事無之候

一 笹岡村惣兵衛引高之儀、惣兵衛ニ割とらせ候様ニと庄屋惣左衛

門ニ申付候、然上ハ小百姓共得心無之ととも其通ニ候、是又三

人手鎖之義ハ不届ニ付申付候、不及訴訟候、此方了簡次第何成

共披免可申候、以上

三月十八日

前谷村

次郎左衛門殿

青山藤助 印

村々廻米不足米之儀此節申出候段不届至極ニ候、急度相調舟積

之節滞無之様ニ可仕候、此上滞候ニおゐては可為曲事候、大庄

屋方の吟味いたし候様ニと申遣候間可得其意候

一 村々庄屋共不吟味と相見近頃不届之至ニ候、大庄屋も油断之至

ニ候、此上滞候ハ、江戸へ申上急度曲事ニ可申付候条、毛頭由

断有間敷候、以上

三月十八日

青山藤助 印

組下村々

右藤助様の三通之御配符被遣候、壹通ハ清間を段々村次ニ舟寄村

善右衛門方へ遣し申候、壹通者添書いたし与下村々へ遣し申候

一 午御年貢名寄帳指上候処御請取之由口上ニ被仰越候

一 笹岡村市郎兵衛・九右衛門高出入之訴状・証文之写共ニ市郎兵衛

持参仕候ニ付請取、九右衛門・宗左衛門・宗兵衛呼寄候而吟味仕

候得共、何之子細もなくわひ事仕度と九右衛門申二付、其義二候ハ、村人を以訛言仕候様ニと申聞候へハ宗左衛門申候ハ、二三日訴状鯖江へ指上候事延引仕度由申二付、市郎兵衛・宗右衛門其断申様ニと申渡し候

三月廿日

一銀百九拾四匁四分六厘 舟津村ニ而雜用

此人數九人 内御役人三人、同御家来三人、竿取三人

此日數十九日 申二月十五日之夕夕同三月五日之朝

一日老人ニ付老匁分三厘七毛

一銀拾匁式分三厘 右之村ニ而自分雜用

此日數二月十六日之夕夕同十七日朝迄、同廿日夕夕同廿三日

朝迄、同廿五日之夕夕廿九日朝迄、三月三日之夕夕同五日之

朝迄、メ日數九日分

右御役人衆御賄方買立被成候ニ付、其並を以自分雜用銀相渡し申

候

同廿一日

同廿二日

一御廻船七艘三国湊へ入舟仕候

一村々廻米及遲滯不届二候、依之江戸へ申上候廻米之義者公義

御用二候、大庄屋其村々庄屋共ニ急度申渡、早々津出し可申付

候、若廻船入津少成共相滯候ハ、公義へ被仰上重罪ニ可被仰付候条、此段申渡候様ニと江戸江申来り候間可被得其意候

一外郡村々ハ只今迄廻米高之内七分通令津出候、坂井郡ハ未五分

通津出シ無之由、如何様之義ニ而令延引候哉、道法近候へハ遠

方之郡郡過半可相納処、滯候段心得かたく候

一只今迄三国津出し米高并残米ハ何時頃迄ニ三国へ可有津出候哉、

委書付来廿五日限可被指越候、右之趣江戸へ申上候間可被得其

意候

一廻米御急用ニ候間、積舟着岸次第令舟積出船可申付旨旨從公義旨

被仰付候条之段、入念可申渡旨江戸江申来候

右之趣組下村々へ急度申付、若滯村々於有之ニハ早々其方相廻り、

少成共不足於有之ハ大庄屋心を添御米可相納候、如此申遣候上令

油断舟積指支候ハ、村々庄屋者不及申ニ其方迄曲事ニ可被仰付

候条毛頭油断有間敷候、此状各名之下ニ令印判、触留留三国舟積

役人中へ早々可被指越候、以上

三月廿一日

青山藤助印

前谷村大庄屋二郎左衛門殿

後山村大庄屋平助殿

舟寄村大庄屋善右衛門殿

追而先年中国御代官彦坂平九郎様御支配所、舟積指支百姓不届

二付、三拾六人一艘はつけ二被仰付候、此段申遣候段不謂事二候得

共、下々ハ愚癡成者二候故申遣候、且又関東筋廻米例年ハ春納

二被仰付候処、御急用ニ付去年ハ霜月中旬頃ニ皆済被仰付候、何方之百姓も難義ハ可有候得共、上_レ被仰付候へハ毛頭違背無之候

一廻米至極滞難仕立候ハ、去年田地_ハ刈納候石数弘方委記し、

早々見せ可被申候、若借金・借米等ニ相渡候故不足と於有之ハ、

急度御仕置被仰付候様に江戸へ可申上候間可得其意候、遠国之

百姓共ニ而江戸表之様子不存候故如此^(申力)遣候、以上

右之通御廻状印判仕早々後山村平助方へ遣し申候、別右之御触状

写取拙者奥書仕、村々庄屋長百姓判形取置候

一三国舟積御役人沢右衛門様・武知右衛門様_ハ御配符被遣候ニ付、

奥書仕早々村々へ相廻庄屋判形取置申候、三月廿日之御配符

三月廿三日

一西方寺村善兵衛申来り候ハ、鯖江へ訴状持参仕候へハ、大庄屋指

紙を取参候様ニと被仰付罷歸り候間、此出入埒明不申候へハ御米

支申由申二付、然上ハ指紙遣し可申候間訴状指出候様ニと申候へ

ハ、訴状持参不仕候と申二付、訴状持参可仕候、一覽之上指紙可

遣由申渡候

同廿四日

一宮谷村義兵衛・清右衛門当十七日ニ佐五右衛門召連鯖江へ参候へ

ハ、与次右衛門義色々吟味之上ニ而、佐五右衛門口書御取被遊罷

歸り候由申来り候

一宮谷村・国影村・井江葎村・牛山村・横垣村・赤尾村御廻米、四月十五日切ニ皆済可仕由吟味之上証文取之申候

同廿五日

一西谷村・清王村・青野木村・重義村・番田村・田中々村・十楽村

・舟津村、此村々田中々村才兵衛方へ庄屋長百姓呼寄吟味之上、

御廻米之義四月十五日切ニ相済可申由証文取之候

一笹岡村・西方寺村・前谷村ハ不参候ニ付、弥右何も請合之通無相

違四月十五日切ニ御米相済被申候様ニと配符遣し申候

一笹岡村宗右衛門申来り候ハ、同村九右衛門高之義訴状指上候へハ、

御付紙被成我等迄被遣候、并我等方へも御配符被遣候、請取申候、

宗右衛門ニ申渡し候ハ、御米御用ニ懸り如此無隙候へハ、九右衛

門へ申渡候事少之内延引可仕由相断申候、藤助様御状有

三月廿六日

一西方寺村善兵衛、同村市郎右衛門と出入二付訴状持参申二付、重

而市郎右衛門ニ様子相尋候而取次可申由申聞候

同廿七日

一村々庄屋中参、不足米之分吉江屋弥兵衛誂申二付、我等罷出四月

中ニ代銀為相済可申由申聞候

一 西方寺村太郎兵衛・市郎右衛門・柿原十楽村庄兵衛高出入之事二付、山田滝右衛門殿方御状被遣候ハ、此出入廻米相濟候迄御指延候様ニと石田へ被仰遣候得共返事無之候、拙者方も庄兵衛方へ其通申越候様ニと被仰越候二付、十楽村五十郎方へ手紙遣し申^(候)

同廿八日

同廿九日

一 武知右衛門様鯖江へ三国へ御越二付、拝借金之事申上候へハ、藤助様御手前二御金曾而無之候二付、三国ニ而御払金□□札銀被遣事二候へハ、願候共相叶申間敷由沢右衛門様共ニ御内意被仰聞候

同晦日

一金壹兩半切前谷村御廻米代貸申二付遣六助ニ相渡、権右衛門方ニ而判形を取、市兵衛・六兵衛ニ金子相渡申様ニと申証文を書、権右衛門方へ遣し申候

一 石田・鯖江御廻船式拾式艘、当廿八日迄不残三国入船仕候

一米式拾俵

北方村久右衛門

赤尾村^{庄屋}長百姓

一米三拾五俵

二面村喜右衛門

舟津村^{庄屋}長百姓

一米五拾表

加州松任黒瀬屋五兵衛^(郎腕)

同断

一金五拾兩 十楽村^{庄屋}長百姓
右御裏判願之証文

一 西方寺村善兵衛当廿六日訴状指上候二付、同村市郎右衛門吟味仕候処、埒明不申候処善兵衛遮而鯖江御訴訟ニ参度と申二付、御廻米滞申間敷由口書を取訴訟取次可申候旨申渡、口書認判形仕候^(様)処ニと申候得ハ印判持参不申候由申二付、然者印判持参仕口書相濟候ハ、訴訟取次之指紙可遣候間、明日参候様ニと申訴状共二返し申候

四月朔日

同二日

同三日

一 当五月御法事二付仙洞御使御賄旦那江被仰付候、就夫才覚成者五六人被指下旨江戸へ申来り其方義可指下と存候、委細可申渡候条明後四日之晩方陣屋へ可被罷越候、発足之義者来十日・十一日頃ニ而候、当月廿五日頃江戸着之積りニ候、以上

四月二日

前谷村
権右衛門殿

青山藤介

尚々病氣故次郎左へ不申越候、相心得可有候

四月四日

一 右之通御状被下候二付拙者・権右衛門共ニ鯖江へ参候へハ、春日

野村太右衛門・猪嶋村浅右衛門・舟寄村宗右衛門・前谷村伊兵衛

・同村権右衛門、此五人御陣屋へ罷出候へハ、藤助様御煩二候ゆ

へ織右衛門殿を以被仰渡候ハ、六人江戸へ被遣候二付此内へから

尻馬三疋、小者三人被下候間、是二而江戸へ参候様ニと被仰付候

二付右之者共申上候ハ、面々願を以被遣候御廻米納庄屋ニさへ上

下馬ニ乗候処、拙者共此度江戸へ参候時分柄難義至極候へ共、

御撰出シ之義異背難申上候、何も江戸不案内不岩乗者共之義二御

座候へハ、老人ニから尻馬老疋、小者老人ツ、不被下候而ハ参候

事難成由申上候、其上諸遣金も御公儀様被下候由、相応二候ハ、

是を以徳用之望ハ無御座候得共、郡中之義二付此者共斗損料仕候

事も迷惑之由申上候へハ、昨日江戸へ之御返事ニ右之通被仰遣候

へハ、今又願之通被仰付候事も難成候間、面々一紙願状指上候而

願之通老人ニ馬老疋、小者老人・諸遣銀御公儀被下候、金子之

外遣銀不足候ハ、重而御吟味□□、郡中割被成被下候様ニと願状

指上申候而願之通被仰付候

一右諸遣金として老人ニ金八両藤助様御貸被成候二付、請取罷帰

り候節遣方之義御勘定仕上ケ可申□□連判手形指上申候、但猪嶋

村浅右衛門ハ訳而御訴訟申上式兩増拾兩借申候、其外段々被仰渡

承届何れも罷帰り候

勅使転法輪前右大臣

(三条実治)
御馳走 (伊達村豊)
伊達左京亮
御賄 (鈴木正守・越後馬正面代官)
鈴木二郎兵衛

仙洞使西園寺大納言

御馳走

(堀親賢)

御賄

堀大和守
(古郡年明・鯖江代官)
古郡文右衛門

女院使堀川宰相

御馳走

(堀川康綱)

御賄

松平隼人正
(杉山信行・出羽漆山代官)
杉山久介

着座西洞院前中納言

御馳走

(西洞院時成)

御賄

中川因幡守
(中川久通)
馬場新右衛門
(馬場昌重・越後川浦代官)

梶井御門跡

御馳走

(蜂須賀隆重)

御賄

蜂須賀飛驒守
能勢権兵衛

右当五月御法事二付、京都御下之公家方之御馳走御賄之御書付如

此二候

但西園寺大納言様ハ伝奏御屋敷ニ而御賄之由被仰聞候

同五日

同五日

一鯖江に福居迄罷帰、権右衛門宿へ帰り候

同六日

同六日

同七日

一村々他借金御裏判願之手形鯖江持参仕候処、藤助様御煩二而裏判相濟不申候、□兩日之内久野右衛門様御檢地村方御帰候而裏判被成候由滝右衛門殿御申二付、今日手形拾四通前谷村市右衛門為持鯖江遣し候

同八日

園右衛門様御裏判取申手形之覚

一米百貳拾俵 田中々村

三国姉崎九郎兵衛

一米貳拾兩 十楽村

高柳村三郎兵衛

一米五拾俵 舟津村

加州杉藤村黒瀬屋五郎兵衛

一米三拾五俵 舟津村

二面村喜右衛門

一金七兩 清王村

南金津新屋宗兵衛

一米四拾五石 清王村

南金津米屋助右衛門

一金三兩 清王村

南金津米屋助右衛門

一米四拾石六斗貳升 青野木村

金津米屋助右衛門

一金拾兩 国影村

三国森町与兵衛

一米八拾俵 番田村

三国町吉江屋弥兵衛

一金貳拾五兩 重義村

加州大正寺かぢ町柿原屋太兵衛

一米百俵 重義村

三国中町吉江屋弥兵衛

一銀六百匁 赤尾村

細呂木村弥次兵衛

一米貳拾俵四斗六升 赤尾村

北方村久右衛門

右拾四通之手形御裏判を取、前谷市右衛門罷帰候二付村々へ申遣候

同九日

同十日

其組下廻米津出令遅滞不届至極二候、一昨八日五艘令出船候、跡船段可令船積処、其組村々津出滞候二付船積手支候旨山本沢右衛門・西谷武知右衛門方申越候、早々村々令吟味津出仕候様二急度可被申付候、陣屋呼寄可致吟味候得共我等義病氣二付如此二候、

此上舟積手つかへ仕候ハ、大庄屋共ニ急度可申付候条油断有間敷候、以上

四月十日

青山藤助 印

坂井郡大庄屋三人

此はいふ重而可被相返候

右之御配符舟寄・後山ハ参候

同十一日

一村々庄屋長百姓呼寄候而、御米弥当十五日切ニ相済申様ニと段々堅申渡、右之御廻状ニ奥書いたし庄屋中判形を取申候

一笹岡村宗左衛門、同村清右衛門方ハ取置候質高之義ニ付訴状指上候得共、清右衛門義今日御米上乘ニ参候へハ埒明申間敷候得共、先訴状ハ預り置候由宗右衛門ニ断申候

同十二日

一鯖江へ参候処、此度江戸へ参候前谷村権右衛門・同村伊兵衛・舟寄村宗右衛門・大野郡比嶋藤左衛門・同猪嶋村義右衛門・南条郡春日野村太郎右衛門、六人共ニ鯖江へ参候而段々被仰渡承届候、則諸事御舟之証文被仰付何れも判形仕候

四月十三日

一右六人今朝鯖江ハ同道ニ而発足仕候、中仙道江戸へ参候様ニと被

仰付候、道中馬触送状ハ納庄屋共ニ馬八疋之送状被遣候、納庄屋舟寄村半兵衛・大郡野中村弥左衛門ハ少跡ニ鯖江発足仕、追付同道之筈ニ候

同十四日

一沢右衛門様・武知右衛門様、三国ハ御廻米滞候ニ付御配符被遣候ニ付村々へ早々申遣候

同十五日

一人足千六百五拾人

番田村

此扶持米八石式斗五升

此銀四百五拾匁四分五厘 壺石二五拾四匁六分

一人足千六百七拾七人

井江葭村

此扶持米五石三斗三升五合

此銀貳百九拾壹匁式分九厘

一人足五百九拾七人

城村

此扶持米貳石九斗八升五合

此銀百六拾貳匁九分八厘

小以銀九百四匁七分式厘

此金拾五兩銀四匁七分式厘

右者当申ノ年被仰付被下候御普請人足扶持米為代と被下候を、二請取右村々へ相渡手形取置可申候、為其拙者手形指上申候、以

上

元禄十七年申四月廿六日

前谷村大庄屋

次郎左衛門 印

青山藤助殿

同十六日

一右之手形認并久野右衛門様・滝右衛門様へ御廻米之指合を為仕度候間、右之金子此者二被遣被下候様ニと手紙相濟、前谷村市右衛門為持鯖江へ遣し申候

一当十三日二番田村弥右衛門其外百姓十一人、別庄屋御立被下候様

ニと指上候願狀を以園右衛門様へ申上候へハ、願之通別庄屋為立不申候ハ、出入出来申事も可有候間、先当分願之通ニ可仕候、願狀之文談悪敷候間、重而書直させ指上申様ニと被仰付候

覚

一米貳拾俵

牛山村

七郎兵衛二渡

貸主二面村喜右衛門

一米三拾俵

井江葭村

甚右衛門二渡

貸主金津義右衛門

一金拾兩

同村

同断

貸主金津小右衛門

一金九兩銀壹匁六分三厘

国影村

吉右衛門二渡

貸主三国池野上勘左衛門

一金四兩三分

横垣村

藤兵衛二渡

貸主金津徳右衛門

一米拾貳俵

同村

右同人二渡

貸主二面村喜右衛門

右之手形園右衛門様御裏判被成被遣候二付、村々申触相渡シ申候一沢右衛門様・武知右衛門様御米之義二付御手紙被遣候二付早々申遣候

一金六兩

青野木村御裏判願

弥次兵衛二渡

貸主滝村権左衛門

同十七日

一前谷村市右衛門御普請扶持代金拾五兩銀四匁七分貳厘、鯖江ニ而御請取帰候二付金子無相違請取申候
一御廻米御用二付今日二被召寄参候

四月十八日

一村々御米之吟味一兩日之内ニ相濟申様ニと段々吟味仕候

一村々御普請人足扶持代銀相渡、則証文取之申候

一舟津村清右衛門御米滞候二付、色々吟味仕候へ共相濟可申様無之候二付、清右衛門持高之内八石式斗五升、申ノ年御子暮迄本物返シ五年季ニ村中預ケ証文取之、清左衛門・弥次兵衛・孫右衛門ニ証文相渡、右不足米当廿日切ニ相濟可申之由堅請合ニ而相濟申候

同十九日

一 西方寺村善兵衛・同村市郎右衛門出入有之候二付、善兵衛御廻米相濟不申候二付、先御廻米之義大切之事二候間善兵衛方の相濟、其以後何様も出入申上候様と色々申聞候得共、出入相濟候迄ハ御口出し申事不罷成候と申二付、右吟味之段々沢右衛門様・武知右衛門様へ申上候へハ、御詮義之上善兵衛二手錠被仰付、御米之義ハ市郎右衛門方の相濟候様と被仰付、市郎右衛門当廿日切

二 相濟可申由請合相濟申候

一 河原毛三才馬 髮切 宮谷村 清右衛門

二 ツ屋口通手形奥判いたし候

同廿日

同廿一日

一元禄之年号宝永と改元之旨被仰出候条、被得其意組下村々へ可被相触候、為其如此二候、以上

申四月廿一日

齋藤久野右衛門 印

坂井郡大庄屋中

此配符順々相廻り留りの重而可被相返候、右之御廻状後山の参候

二 付舟寄村へ遣候

一 当御廻米遅納不届之段江戸の稠敷被仰越候二付、廿四日を限皆濟仕候様と沢右衛門様御手紙被下候二付、村々へ其段申遣庄屋長百姓呼寄吟味仕候

一 三国吉江屋弥兵衛方へ与下村々御米詵置候処、米仕立百五拾表平

野屋新藏方へ質二置候二付、代金村々取立次第右之米請出し納可申由申二付、無是非新藏方参断申、右質米百五拾表我等預り手形、代銀ハ廿五日切二相濟可申由之証文二、我等并十楽村与三右衛門加判二而証文相極弥兵衛二相渡、弥兵衛証文取置候、此代金村々の相濟させ、右証文共引かへ可申由之定二候

一 笹岡村出入米之義并市右衛門九表之不足之義一切埒明不申候二付、早々三国へ参候様と出村三四郎・笹岡村其外村々へ遣申候

同廿二日

一 村々御米不足吟味仕今日大方相納申候

一 笹岡村宗左衛門昨日鯖江の罷帰候二付、今日三国へ参候而申聞候ハ、鯖江二而久野右衛門様被仰候ハ、右火事高之御廻米相納申間敷と申候者、早々鯖江召連参候様と被仰付候得共、御米明日切御納仕廻之事二御座候へハ、御米支度不仕候而ハ如何二候故、御米式拾八表之分鯖江伝兵衛二詵米扱為致、明日鯖江へ小百姓不残召連参候而、埒明次第百姓方の出し申義候ハ、早々銀取立伝兵衛二相渡可申候、若御陣屋の御貸被遊候ハ、猶以早速相濟可申と申二付、其通為仕宗左衛門ハ罷帰り候

一 同村市右衛門不足米九表、当廿二日二相納可申由当十八日証文取置候処、惣御米廿三日切二御御仕廻(符)、弥廿二日二御米相濟候様と昨日態と飛脚を以申遣候処、返事も不仕候二付又今日村次配符

遣し候へ共否哉之義不申越、御米誂所も知不申候二付九表之米相場直段二吉江屋弥兵衛二誂、市右衛門仕形共宗左衛門口上書取之置候

一金拾五兩

井江葭村

貸主井江葭村義右衛門

一金五兩三分

牛山村

同北潟村五郎左衛門

右式枚之手形、青野木村六両之手形共二三枚之手形笹岡村宗左衛門言伝、久野右衛門様御裏判被成被下候様二と、其上笹岡村之事手紙二記指上申候処、御廻米之義江戸急相済申様二と被仰越候二付、宗左衛門鯖江へ参候事無用仕早々三国へ参候様二と被仰付候二付、右之手形・書状共二返シ候二付請取申候

一当御廻米之義江戸〆稠敷被仰越候二付、残米明廿三日切二相済候様二と堅被仰付候二付、吟味仕候処指而滞申村も無之候処、笹岡村市右衛門米九表、同村出入米式拾八表、此米共之義二付度々吟味仕候へ共不相済、其上度々配符遣し候得共返事も不仕候段申上候へハ、沢右衛門様・武知右衛門様御兩人〆、早々此配符参着次第宗左衛門・市右衛門・宗右衛門・宗兵衛・仁左衛門参候様二と被仰越候、三国〆夜通し人足式人笹岡へ直二被遣候

四月廿三日

一笹岡村宗左衛門・宗右衛門・宗兵衛・仁左衛門三国へ参候二付

市右衛門義相尋候処、銀子調二家を売申由二而跡〆参候段申候二付、右四人之者共二式拾八表之米之事段々申聞候へハ、とかく御急用之事二候へハ先御米を入可申と申、則境屋甚右衛門方二而仕立米式拾八表代銀七百匁二相定、御米者今日之内二相納、代銀ハ当晦日切延銀二仕証文相極、御米不残相納手形相渡し申候

同廿四日

一其外村々少々之残米共二今日切二御廻米不残相済申候
一右市右衛門今晚迄不参候二付同村弥五兵衛を以申遣候ハ、此方〆度々配符遣し候処不参候二付、御役人様方〆直二飛脚を以被仰遣候処、不参仕候義とかく何様之御用候共参間敷との事二候哉、返事聞届早々罷歸り候様二と申遣候へハ、漸今夜九ツ過参候由

一右市右衛門先日〆之我か儘之仕形共、段々吟味仕候処一言之申訳も不仕候故、口上書を取御兩人様右之趣申上候へハ、今度鯖江へ被遣入牢可被仰付事二候得共、右九表之御米代銀当月中之請合二候へハ、先右之銀子調させ相済次第鯖江へ可申上候、御吟味可被成由二而市右衛門指出し候口書二、重而御吟味之段々口書御取被遊、先今日ハ御返し被成候

右衛門様御廻米之義ニ付夕部夜通シニ境屋甚右衛門方へ御越之義、不存候而右六太夫遣し候ニ付罷帰候故、是ニ而御裏判申請候

同廿五日

一 笹岡村清右衛門持高之内六石八斗九升六合、同村宗右衛門方去未之年も亥年迄五年季質物ニ取置候田地之内三ヶ所、宗右衛門方も植付候へハ、前谷村清左衛門方もかきまくり申由断申出候并宗右衛門持分田地之内式ヶ所清右衛門ニ一作下シニ仕置候田地、当年取上ヶ候而宗右衛門植付候へハ、是もかきまくり申候ニ付訴出候ニ付、耕作時分ニ候へハ早々鯖江手紙相添為致注進候

同廿六日

一 村々御廻米代銀、早々吉江屋方へ相済申様ニと村々へ配符遣し申候

同廿七日

一金四両 沢右衛門様御裏判 青野木村
貸主十楽村庄兵衛御裏判願申候

四月廿八日

預り申金子之事
合金拾両也

右者我等組下村々去未御年貢之内、当申春江戸御廻米代金ニ仕候ニ付慥預り申候、何時ニ而も御用次第ニ急度返済可申候、若遅々仕候ハ、何分ニも御さいそく候而御取立可有候、以上

宝永元年申四月廿八日

米屋
喜兵衛殿

土屋二郎左衛門印

右之預り手形金拾両請取申候

一来書令披見候、然者笹岡村宗右衛門と前谷村清左衛門田地出入有之ニ付、宗右衛門訴状指出候故被指越、則附紙いたし相渡申候

一 石田領柿原十楽村庄兵衛、西方寺村太郎兵衛・市郎右衛門貸方出入之義、内々ニ而埒明候事ニ候ハ、何とそ下ニ而相済可被申候、不□候ハ、太郎兵衛・市郎右衛門・庄屋十右衛門来月九日罷出候様ニ可被申渡候、以上

申四月廿七日

斎藤久野右衛門

大庄屋二郎左衛門殿

追而笹岡村宗兵衛引高之義ニ付百姓共今廿七日罷出候様ニとはいふ遣候処無其義候、いか様之子細ニ而令不参候哉、致吟味委敷可被申聞候、以上

右之御手紙笹岡村宗右衛門ニ被遣候

同廿九日

五月朔日

一村々御廻米代金自分口入ニ而借出候金子急用之由、三国吉江屋弥兵衛方前谷村市右衛門ニ為持遣し申候、弥兵衛手形を以村々可相渡事ニ候

覚

一金拾兩 四月廿八日吉江屋弥兵衛渡

一金貳拾兩 五月一日二前谷市右衛門ニ為持遣

メ三拾兩

内

四兩 切小判之由返シ候ニ付請取

四兩貳分 重義村かし分

五兩 番田村へかし分

五兩 青野木村へかし分

貳兩貳分 国影村へかし分

九兩 十楽村へかし分

右之通証文相究候分如此ニ候

一 笹岡村へ参市右衛門御廻米代銀之吟味仕候処、金壹兩ハ調置候、残銀之義ハ家売申等ニ仕置候、此義埒明次第早速相済可申旨慥ニ申二付、二三日之内ニ相済申様ニと申付候

一 笹岡村貳拾八表之御米代銀、何とて相渡不申候哉と吟味仕候へハ、引高之事埒明不申候ニ付相済不申候と申二付、先月廿七日ニ何れも鯖江へ参候様ニと被仰付候処、不参候而埒明不申と申候事何共難心得候、早々鯖江へ参候而埒明、御米代銀相済申様ニと申渡候

一同村市右衛門質高之義色々詫言之由申二付、其義ニ候ハ、宗左衛門・宗右衛門・宗兵衛・仁左衛門請ニ立候ハ、当春迄相待可申由申渡候

一同村利兵衛質物之義、壹口ハ代金を請出シ、壹口ハ田畑共ニ請作人証文仕候ハ、当暮迄其通ニ可仕由申渡候

同二日

一 笹岡村宗右衛門・前谷村清左衛門・笹岡村清右衛門預ケ高之出入、御聞可被成^(由)ニ而鯖江へ何も参候ニ付、宗右衛門・市郎兵衛・利兵衛罷越申候ハ、惣兵衛引高之義ニ付村中今日可参之処、何とそ下ニ而相済申度候ニ付而今日不参候間、其断申上くれ候様ニと申二付、其通久野右衛門様へ申上候、次ニ柿原十楽庄兵衛と西方寺村太郎兵衛・市郎右衛門高出入之義、最前色々申聞候得共承引不仕候得共、今一応申聞相済不申候ハ、九日ニ何も参候様ニ可申付候間、其外西方寺村ニ有之候出入共御聞被下候様ニと申上候、右笹岡村之者共下ニ而相済不申候ハ、早々鯖江へ参候様ニと被仰付被下候様ニと、久野右衛門様へ手紙を以申上候

一 柿原西方寺村善兵衛手錠之義、市郎右衛門・十右衛門詫言証文指出し候ニ付、其証文我等手紙指添沢右衛門様へ明日三国迄参、手錠之御詫言申上候様ニと申渡候

一 御廻米代金借出シ吉江屋弥兵衛ニ渡候ニ付、其金子村々割付ニ而貸候ニ付証文相究申候

五月三日

同四日

一 西方寺村善兵衛手錠之義、昨日三国へ参沢右衛門様御詫言申上候得共、不御免候之由善兵衛申来り候二付、定而当九日ニ其村之者

共鯖江へ可参候間、其節参候而御詫言申上候様ニと申聞候

一 福居町宝性院火伏為勧進近日被致廻郷筈ニ候間、先達而組下

村々庄屋長百姓方へ可被申通候、去年迄郡中大割之節初尾銀被

相渡候得共、今年も者割之節除申筈ニ候、時々作初尾人々心次

第勧進ニ入申様ニ可被申渡候、但紛者も可有之哉と存候ニ付、

宝性院村方被廻候節我等共手紙指副可申候条、是又可被申渡候、

以上

申五月三日

西谷武知右衛門 印

斎藤久野右衛門 印

坂井郡大庄屋三人

追而宝性院父子之内廻郷之砌、一宿いたし度旨被申候ハ、宿

貸可申候、尤木錢之義ハ相对を以取可申候、以上

此手紙一覽之上順々ニ被相廻、留りも追而可被相返候

此御書付笹岡村宗右衛門ニ被遣候ニ付、村次ニ而後山村平助方へ

遣し申候

一 笹岡村宗右衛門・宗左衛門・宗兵衛鯖江へ罷歸候由、清右衛門分

之田地前谷村清左衛門と出入之義、宗右衛門・清左衛門方ニ所持

仕候証文并坪付帳御封シ双方へ御渡し、当秋中御前へ持参仕御了簡請可申候、其内右争田之義ハ村作ニ可仕候、宗右衛門分之田ハ宗右衛門作候様ニと被仰付候由

同五日

同六日

一 笹岡村宗右衛門一昨日申候ハ、宗兵衛引高之義何とそ下ニ而相濟申度候間、宮谷義兵衛・清王権兵衛を出し候ハ、已見を仕度と申二付、右兩人今日笹岡村へ罷出候

一 西方寺村十右衛門、同村市郎右衛門・太郎兵衛五郎左衛門ニ貸方相濟不申候由ニ而、当二月ニ訴状指出候処、御廻米相濟不申内ハ

不急出入取次申間敷由被仰付候ニ付令延引、其内吟味仕候へ共判

論ニ而埒明不申候ニ付、鯖江へ参度由十右衛門申来り候ニ付、久

野右衛門様迄口上書指添遣し申候、但明後八日之日付ニ而遣し申

候

五月七日

一 西方寺村善兵衛手錠之御詫言ニ鯖江へ参度と申来り候ニ付、沢右

衛門・武知右衛門様へ手紙指副遣し申候

一 右善兵衛、市右衛門との出入も申上度と申二付、久野右衛門様へ

手紙ニ而申上候

出入扱ニ而相濟申証文之事

一 去未之秋御免状之内高五拾式石三斗三升余引高被仰付候二付、
 当村惣兵衛と惣百姓と出入二罷成候二付、則五拾式石三斗三升
 之引高之取米拾六石式斗八升九合之内八石八村惣百姓へ割、八
 石式斗八升九合ハ宗兵衛分と、則清王村権兵衛・宮谷義兵衛・
 同村清右衛門三人之衆御扱之上、双方互に請合納得仕相済申処
 毛頭相違無御座候、^(然)□上ハ右引高之義ニ付後日ニ出入申分少も
 無御座候、尤御廻米調代銀之義者右米割当り并御免割之米高ニ
 而致割符、割当り之御廻米代毛頭無異義急度相済可申候、如此
 宗兵衛へも村惣百姓へも段々各々被仰聞銘々承知仕相済申上ハ、
 右引高之義ニ付毛頭出入仕間敷候、勿論当申之夏秋之内ニ不限
 御免割名寄帳被召上候節、如何様ニ成共鯖江御役所へ相納候様
 二、帳面相調も無異義印判仕指上可申候、為其村中惣百姓忝人
 も不残奥判仕相渡申上ハ、若後日忝人成共右定ニ相違之義申出
 候者御座候ハ、此扱証文を以御代官様へ被仰上、何分之曲事
 ニも可被仰付候、為後日相渡申扱証文仍如件

宝永元年申五月七日

市郎兵衛	弥右衛門	助右衛門	三兵衛
権四郎	忠左衛門	九右衛門	与三右衛門
宗兵衛	宗右衛門	十兵衛	理兵衛
伊兵衛	善兵衛	仁左衛門	次兵衛
彦三郎	又兵衛	五郎右衛門	久兵衛
仁右衛門	久左衛門	清兵衛	覚左衛門

仁兵衛	半右衛門	弥五兵衛	太左衛門
次左衛門	平兵衛	四郎右衛門	清右衛門
三郎右衛門	武兵衛	市右衛門	宗左衛門

右何れも判形有之候
 右者扱人三人罷出如此相済申由被申候付三人へ申聞候ハ、宗兵衛
 相手取出入之様ニ為村中と申掠候得共、各別之事宗兵衛火事遭為
 御救と被下候引高を、下ニ而村人掠取申義ニ候へハ、右之証文を
 以様子申上御下知次第ニ可仕候間、此証文此方へ取置申候

同八日

一 黒毛四才馬老正 髮切 重義村馬主
 二 ツ屋口通り手形判形仕候
 十右衛門

同九日

一 山四口 笹岡村利兵衛分宗右衛門出合山

貸主同村宗右衛門申ノ年ノ丑年迄九年季証文ニ拙者裏判仕
 候

同十日

一 柿原西方寺村之者共出入之義共、不残久野右衛門様へ手紙を以申
 上候へハ、何も返答被仰付候由被仰越、御手紙有
 一 柿原西方寺村善兵衛手錠御詫言之義、沢右衛門様へ申上候へハ御

聞届ニ而此度御免ニ候、次ニ笹岡村御廻米式拾八表之代銀ニ御貸被成候銀子、早々取立返済候様ニと被仰候、追而先月廿四日二江戸へ参、六人納庄屋共ニ江戸着仕候、其内五人ハ袴羽織ニ而御用相勤候、権右衛門老人上(株)下ニ而相勤候、御役義被仰付候由江戸へ申来候段被仰越候、御手紙有

五月十一日

同十二日

一 沢右衛門様・武知右衛門様も、去未ノ年諸遣帳村々も指出させ候様ニと委細被仰下候、右之帳今月中ニ仕立滝右衛門殿へ相渡候様ニと被仰越候、次ニ御口米払直段、石田領ハ壹石ニ付五拾五匁六分之直段を以□銀上納仕度旨大庄屋願候而相究候、此□□分も右之直段を以銀子上納可仕候哉、前々之通違背有間敷義ニ候得共、為念村々庄屋共為申聞、書物成共取置可被申候、追而大庄屋中書付取可申候、御手紙有

当春江戸御廻米入用之先割銀を以不相納候ニ付、廻米入用払方指支候、先達而割付遣候通取立来廿日限ニ急度上納可仕候、此節迄延々之仕形不屈千万ニ候、毛頭油断有間敷候、以上

申五月十日

西谷武知右衛門 印

山本沢右衛門 印

前谷組
村々庄屋長百姓

追而御配符披見之上村下庄屋致印判留りも可相返候、

右之御廻状早々村々へ遣し申候

同十三日

同十四日

覚

一金七兩巳ノ年預り候高代金ニ請取申候得共、年季証文者此方ニ指置候、預り金三兩壹分銀三匁六分七厘相済候節、右質証文相渡し可申、預ケ金質物ニ取置候、以上

申五月十四日

土屋二郎左衛門

笹岡村
利兵衛殿

右者笹岡村利兵衛方も金七兩請取巳年質物ニ預り候、高之義者利兵衛ニ返し申等ニ候得共、去未年利足、同おろし米の年貢米并右七兩之金子、当正月中ニ相渡可申之処只今相渡候ニ付、利足銀共ニ金三兩壹分銀三匁六分七厘利兵衛貸銀有之ニ付、当七月十三日切ニ相済可申証文取之、右巳ノ年預ケ高之証文質物入置候由別紙証文有、次ニ午ノ年取置候質高之田畑請作人証文取之置候
一 市郎右衛門方も午ノ年預り置候質物高之田畑、宗左衛門・宗右衛門・宗兵衛・仁左衛門請作仕候由証文相渡候ニ付請取相済候、并去未ノ年利足・同年貢米代銀百式拾式匁式分之分、当七月十三日切ニ相済可申由証文取之置候

同十五日

一 西方寺村善兵衛田地之上大豆切まくり、茶・桑共市郎右衛門こき取申由善兵衛断申来り候二付、段々吟味之上市郎右衛門方へ配符遣し候ハ、善兵衛訴状指上候二付返答被仰付、出入二取結罷有候内ニ我かま、成仕形二候、若偽り二候哉、とかく此方へ参候様ニと市郎右衛門方へ申遣し候

一 明十六日ニ笹岡村宗右衛門鯖江へ参度と申二付、久野右衛門様・沢右衛門様・武知右衛門様へ以書状申上候趣

一 右宗右衛門と前谷村清左衛門・笹岡村清右衛門田地之義出入仕、最前右両人方ニ持来候証文・坪付帳共御符印面々ニ御預ケ二候へ共、兩人相符ニ而御役所へ御取上ケ被下候様ニ□宗右衛門願之事

一 右宗右衛門・市郎兵衛と同村九右衛門高出入之事、代金も相済不申高も相済不申返答書も指上不申候、我かま、仕候間九右衛門被召寄、質高相渡候様ニ被仰付被下候様ニと宗右衛門奉願候一 笹岡村宗兵衛引高之義、宮谷村義兵衛・清右衛門・清王村権兵衛右宗兵衛已見仕、引高年貢米之内八石、宗兵衛方お村中へ出し候而相済申答ニ宗兵衛村中連判証文指上候、御披見被遊可被下候、此義御下知を村中違背申義二候へハ御了簡奉窺候段申上候

一 未年御口米直段之義被仰下候、与下村々へ申渡跡々之通願状取之可申、拙者願状之義何ニ而も可指上候

一 未年諸遺帳之義被仰下候、跡々ハ与之内算用も仕候而五三人呼

寄仕立候得共、当年村々へ申付候、早速ニハ出来申間敷候

一 先割銀御廻状村々へ遣し判形を取、御廻状返上仕候

一 悴権右衛門江戸ニ而勤形之義被仰下忝奉存候段委細申上候右之義共委細拙者所存之趣申上候、留書如斯二候

五月十六日

柿原

一 十楽村庄兵衛断申候ハ、西方寺村高之内細呂木太郎左衛門方お請取候高之内、十右衛門請作分五石七斗之高之上之小麦不残かり取候ニ付相尋候へハ、西方寺五郎左衛門方ニ有之候ニ付未何方へも小麦少もかり不申候処、五郎左衛門畑之内何方之小麦かり取候哉吟味仕候へハ難遁候二付、太郎兵衛預ケ候由申二付、小麦式拾束五郎左衛門ニ為持太郎兵衛方へ預ケ置申候、吟味仕くれ候様ニと申来り候二付、右之太郎兵衛・五郎左衛門召連参候様ニと市郎右衛門方へ配符遣し申候

一 笹岡村惣右衛門明十七日鯖江参候と申□□、認置候書状宗右衛門ニ相渡し申候

同十七日

一 西方寺村太郎兵衛・五郎左衛門参候二付、昨日柿原十楽庄兵衛申断候小麦之事、段々吟味仕候処先日鯖江ニ而被仰付候、此出入之義秋中殿様御越之節ならてハ埒明申間敷候由被仰渡候二付、小麦畑拾ヶ所かり取候と申二付、石田お御断有之を左様秋中迄とハ被

仰付事之様ニ存候、石田・鯖江御聞上ケ之出入ニ候へハ我等不及

同十九日

吟味事ニ候間、十九日ニハ鯖江参候ハ、其段申上候様ニと申聞候

一金六両銀四匁六分五厘

前谷村

へハ、兩人共ニ罷歸り追付太郎兵衛参申聞候ハ、十楽村ハ大勢か

内 三両

六月四日切

り取候小麦其外□□迄たくり取と申来り候ニ付出入ニ罷成、何之

内 三両四匁六分五厘

同十八日切

被仰渡も無之内ニ時ならぬ小麦刈取候ニ付、左様ニ十楽村ハ我か

一金三拾九両銀三匁七分五厘

笹岡村

ま、仕懸候得共、出入御取上ケ之上ニ候へハ、我等方ハとかく可

内 式拾両

六月四日切

申様も無之候間、鯖江へ参候而段々申上様ニと申渡し候

内 拾九両三匁七分五厘

同十八日切

一 十楽村庄兵衛参候ニ付右之段々申聞候へハ、式拾束市郎右衛門ニ

一金式拾八両銀壹匁三分八厘

宮谷村

預ケ候処拾六束ニ仕候ニ付我等方へ取申候、其外之物共ハ不存寄

内 拾五両

六月四日切

事と申ニ付、右ハ石田申上候出入之事ニ候へハ石田へ可被申候哉、

内 拾三両壹匁三分八厘

同十八日切

此方ニ而もとかくの事申出かたく候と申聞候

一金三拾七両壹分銀拾式匁六分五厘

青野木村

五月十八日

内 拾九両

六月四日切

一 西方寺村之者共鯖江参候由十右衛門申来候ニ付、此度申上候出入

一金壹両三分銀七匁九分五厘

西方寺村

共御聞被下候様ニと、次ニ同村太郎兵衛・太郎左衛門高之上小麦

内 壹両

六月四日切

刈申ニ付、十楽村庄兵衛相断候段々委細書付、次ニ去未年諸遣帳、

内 三分七匁九分五厘

同十八日切

鯖江大割銀小沢無之候而ハ諸遣帳仕立候事不罷成候義共、久野右

一金拾両銀八匁六分

清王村

衛門様・沢右衛門様・武知右衛門様へ書状ニ而申上候

内 五両

六月四日切

一 舟津村清左衛門・清右衛門高出入之事訴状指出し候ニ付、相手作

内 五両八匁六分

同十八日切

右衛門・作蔵、証人喜蔵、田地構候孫右衛門・彦右衛門、明日参

一金拾四両銀四匁六分八厘

赤尾村

候様ニと配符遣し申候

内 七両

六月四日切

内 七両四匁六分八厘

同十八日切

一金拾壹兩壹分銀六匁六分八厘 牛山村

内 六兩 六月四日切

五兩壹分六匁六分八厘 同十八日切

一金貳拾貳兩壹分銀拾貳匁三分九厘 国影村

内 拾壹兩貳分 六月四日切

拾兩三分拾貳匁三分九厘 同十八日切

一金四拾兩銀拾三匁七分 井江葭村

内 貳拾兩 六月四日切

貳拾兩銀拾三匁七分 同十八日切

一金五兩銀五匁五分六厘 横垣村

内 三兩 六月四日切

貳兩五匁五分六厘 同十八日切

一金三拾貳兩壹分銀六匁九分三厘 重義村

内 拾七兩 六月四日切

拾五兩壹分六匁九分三厘 同十八日切

一金貳拾九兩貳分銀貳匁壹分四厘 番田村

内 拾五兩 六月四日切

拾四兩貳分貳匁壹分四厘 同十八日切

一金拾六兩壹分銀九匁七分七厘 田中村

内 八兩貳分 六月四日切

七兩三分九匁七分七厘 同十八日切

一金貳拾三兩三分銀拾壹匁七分九厘 中村

拾貳兩貳分 六月四日切

内 拾壹兩壹分銀壹匁七分九厘 同十八日切

一金三拾七兩貳分銀貳匁七分六厘 十楽村

内 拾九兩 六月四日切

拾八兩貳分貳匁七分六厘 同十八日切

一金三拾六兩壹分銀四匁四厘 舟津村

内 拾八兩貳分 六月四日切

拾七兩三分四匁四厘 同十八日切

一金六兩壹分銀壹匁三分四厘 西谷村

内 三兩壹分 六月四日切

三兩壹匁三分四厘 同十八日切

一金六兩銀七匁八分五厘 城村

内 三兩壹分 六月四日切

貳兩三分七匁八分五厘 同十八日切

一金貳分銀三匁七分七厘 新家

内 六月十八日切

右村々去未御年貢金割付之通急度上納可仕候、口米口銀之義者
追而取立可申候、但村々金高写置、右日限之通無相違上納可仕
候、油断有間敷候、以上

申五月十八日 西谷武知右衛門 印

山本沢右衛門 印

右村々庄屋中

追而此配符披見之上金高并村下二庄屋致印判順々相廻、留り村

御金持参候節可相返候、以上

之御 笹岡村宗右衛門ニ被遣候を写取村々遣し候

一 沢右衛門様・武知右衛門様御返事笹岡宗右衛門ニ被遣候、前谷村

清左衛門・笹岡村宗右衛門出入証文御陣屋へ御取上ケ之由被仰越

候得共、宗右衛門証文斗之義ニ候ハ、手前指置申度之由重而申上

候ニ付、御取上ケ無之候由宗右衛門申候

一 笹岡村宗右衛門・同村九右衛門貸方出入之義、当廿五日九右衛門

鯖江被召寄可被仰付由ニ候

一 同村宗兵衛引高之義扱ニ而相濟候由、依之扱証文判人不残当廿四

日ニ可被召寄被仰越候

一去未之年諸遣帳早々出来候様ニと被仰越候、右御返事有

一 舟津村清左衛門・清右衛門訴状指出候ニ付、同村作右衛門・作蔵

・喜蔵・孫右衛門・彦右衛門呼寄候而相尋候処作右衛門申候ハ、

右之銀米年符仕相勤候ニ付、右八石四斗五升之高方々へ割散候而

手前所持不仕候と申候、喜蔵判形ハ仕候得共左様之判形とハ覺不

申候、作蔵奉公之義身代不罷成候ニ付去暮奉公ニ入申候処、当年

清左衛門方ひまを被出候ニ付何共迷惑仕候、今日ニも奉公仕候へ

と被申事ニ候ハ、可参と申候

一 高八石四斗五升 作右衛門持分出入高

此訳

高式石八斗壹升七合

内

九斗三升八合九勺

九斗三升八合九勺

九斗三升八合九勺

高式石八斗壹升七合

内

式石

八斗壹升七合

高式石八斗壹升七合

右之通割散候由申候

五月廿日

一 四月廿七日権右衛門江戸に指越候状、昨十九日山内滝右衛門殿に

被遣候、以上

同廿一日

同廿二日

一 宗旨御改帳百姓判取申候

一 舟津村作右衛門・作蔵申分、同村清左衛門ニ申渡し候

一 重義村小百姓共庄屋願之事、今日又五右衛門・九郎右衛門ニ申渡

候

作右衛門子

作蔵分

申子迄二面村喜右衛門ニ質物ニ渡

同年季ニ而舟津村清兵衛

作蔵持分

作右衛門子
弥助分

右同年季ニ而同村彦右衛門

右同年季ニ而同村作右衛門

作右衛門分

一 権右衛門江戸の五月七日ニ出し候書状、今日田中々村長兵衛持参
請取申候

同廿三日

一 西方寺村市郎右衛門・太郎兵衛・五郎左衛門・十右衛門・善兵衛
出入之義鯖江へ参候処、此出入秋中(古郡年明・鯖江代官)文右衛門様御下り之節申上候
様ニと被仰付罷歸り候由、今日断申来り候

未年郡中入用割

一 銀壹貫四百四拾七匁五分

但高百石ニ付式匁三分九毛

是ハ御檢見并御用ニ付御代官手代衆在々へ御出之節、人馬入用
御金番人足ちん

一 銀三百三拾式匁七分五厘

牢番給

但高百石ニ付四分六厘八毛七弗

一 銀壹貫六百式拾匁

水夫給

但高百石ニ付式匁式分八厘

是ハ陣屋手代衆水夫六人給分

一 銀三貫三百壹匁七分九厘

但高百石ニ付四匁六分五厘壹毛

是ハ御陣屋壹軒、御手代小屋八軒、御門番小屋破損仕候ニ付、
修覆入用入札を以被仰付候、柱・材木・釘・竹代工手間賃如此

一 銀壹貫拾六匁壹分四厘

但高百石ニ壹匁四分三厘壹毛余

是ハ御用書物江戸へ被遣候度々状賃・飛脚賃

一 銀三貫五百九拾式匁七分式厘

但高百石ニ五匁六厘七弗

是ハ御用ニ付代官所中所々へ飛脚被遣候賃、并配符持送り候人
足ちん

右之寄

銀合拾壹貫三百拾匁八分九厘

此高七万九百九拾壹石七斗八升式合八匁

但高百石ニ拾五匁九分三厘式毛四弗

銀壹貫貳百七拾七匁五分四厘 前谷組

此高八千拾八石六斗四合

右之通郡中入用高割当りを以村々へ取集候間、右入用之品々村々
高当を以勘定仕立、未役割帳ニ書載候様ニ可被致候、依之其組下
へ取立銀高も写候而遣し候

申五月廿二日

山本沢右衛門印

西谷武知右衛門印

尾花園右衛門印

次郎左衛門殿

右之御書付舟寄村の村次ニ而参候

五月廿四日

一 笹岡村宗右衛門・市郎兵衛・同村九右衛門質高出入之義二付、明

廿五日右出入人并庄屋長百姓共二可參候、同村宗兵衛引高之義二付小百姓共不殘今日參候様ニと先日沢右衛門様・武知右衛門様御配符被遣候由二而、今日庄屋長百姓斗鯖江へ參候二付、園右衛門様・沢右衛門様・武知右衛門様へ書状を以申上候ハ、九右衛門質高之義慥成証文有之事二候へハ、証文之通被仰付候、次ニ笹岡村御廻米式拾八俵之代銀不相濟候二付、三国境屋甚右衛門方御断申上候由二而御吟味可被遊由被仰越候と申渡候間、今日參候事幸之義二候間、右御米代銀相濟候迄御留置可被下候、則右御米詔証文遣し申候、次ニ市右衛門御廻米九俵滞候二付、右代銀相濟候節御吟味可被遊最前三国ニ而被仰渡候、右代銀当十日時分ニ相濟申候、最前之御廻米滞候不届急度被仰付御尤と奉存候、則市右衛門口書指上申候、先日指上候宗兵衛引高扱証文、此度式通之証文共ニ重而御返し被下候様ニと右御三人様へ申上候、書状・証文一所封笹岡村宗右衛門ニ相渡指上候、追而前谷村清左衛門先日被仰付候、宗右衛門月末返シ不申候由是も被仰付御尤と申上候

同廿五日

一 西方寺村十右衛門申来りハ、此間鯖江へ參候節、拙者方へ貸方之者何角と申出候ハ、拙者方右之断申聞為相待候様ニと被仰付候由

五月廿六日

一 前谷村長二郎、笹岡村清右衛門田式ケ所数年一作買ニ仕来り候処、去暮清右衛門持高方々へ売渡候二付、右長二郎買田高取主方御押候ニ付迷惑仕候間、此段鯖江へ御訴訟ニ参度由申二付、其出入之義笹岡村宗左衛門何とそ内々ニ而濟度候由申候間、先相待可申候、清右衛門田地之義二付方々出入申出候、然ハ其濟口之品も可有候間相待候様ニと申聞候得共、是非共御断申上度由申二付手紙相添遣し申候

同廿七日

一 右長二郎鯖江へ罷帰、則長二郎訴状ニ御役人様方御手紙御添候而、何とそ内々ニ而相濟可申候、夫とても相濟不申事二候ハ、重而可申上候様ニと被仰越候、長二郎訴状御手紙有

同廿八日

一 去未年諸遣帳之義二付鯖江大割銀小訳之書付被遣候二付、何れも庄屋中呼寄諸遣帳之次第委細申渡し候
 一 福居宝性院、火伏御初尾勸進ニ近日村々廻り可申由先達而鯖江へ被仰越候、尚又御廻状御添候而被遣候間勸進之義面々心次第二候、暮ニ及候ハ、木錢を取宿かし被申候様ニと申渡候
 一 笹岡村宗左衛門・前谷村市兵衛ニ申聞候ハ、右長二郎之義何とそ相濟候様ニと、則鯖江へ被仰越候段々申聞候へハ、成程兩人相談

之上相済可申由申候

一重義村小百姓共庄屋願之事、何とそ下二而相談被致候様二と両庄屋二申聞候

同廿九日

其与下村々之内去年・当春御檢地相済候村々、私領并石田領共二右檢地之隣村田畑居屋敷之石盛入用二候間、其村々へ各方へ被申越書付取之、来月三日迄二此方へ可被指越候、尤太閤檢之石盛有之村ハ其通書付させ、無之所ハ其訊両様共二奥書仕、庄屋長百姓印判取可被指越候、此書付披見之上先へ早々可被相廻候、以上

五月廿八日

尾花園右衛門印

坂井郡大庄屋三人

右御廻状後山村へ参候二付、舟寄村へ相届候様二と南疋田村迄遣し申候、夫へ村次二遣し候様二と申遣候

同晦日

一権右衛門当月十八日二江戸へ出し状^(到)至来、勅使様方当月十五日江戸御発駕二而首尾能御用相済、何れも六人共二当月廿三日江戸出立仕、来三日四日二帰宅可仕由申越候

六月一日

同二日

一北金津町田畑分米付之義、最前庄屋弥次兵衛方へ兩度申入候処、御郡所へ窺御指図次第二可仕由申二付今日又遣候へハ、大宮彦右^(大宮茂富)衛門殿へ福居御勘定所御相談被仰遣候処于今御返事不参候、然上ハ彦右衛門殿福居へ御越無之候而ハ埒明不申候由弥次兵衛返事仕候

六月三日

西方寺村

一黒毛六才馬壹疋

市郎右衛門

一鹿毛四才馬壹疋

同人

一鹿毛五才馬壹疋

同人

一三疋

小荷駄

右ハ板取口通り手形奥判いたし手形指上候

同四日

布目村分米付之事

一上田壹反二付分米壹石六斗

一中田壹反二付分米壹石五斗

一下田壹反二付分米壹石四斗

一年々荒壹反二付分米六斗

一上畑壹反二付分米壹石五斗

一中畑壹反二付分米壹石四斗

一下畑壹反二付分米壹石三斗

- 一年々荒壺反二付分米三斗
- 一居屋敷壺反二付分米壺石五斗

池上村分米付之事

- 一上田壺反二付分米壺石七斗
- 一中田壺反二付分米壺石六斗
- 一^(下)田壺反二付分米壺石五斗
- 一荒田壺反二付分米七斗
- 一上畑壺反二付分米壺石五斗
- 一中畑壺反二付分米壺石四斗
- 一下畑壺反二付分米壺石三斗
- 一荒畑壺反二付分米六斗
- 一居屋敷壺反二付分米壺石六斗

二面村分米付之事

- 一上田壺反二付分米壺石七斗
- 一中田壺反二付分米壺石六斗
- 一下田壺反二付分米壺石五斗
- 一下々田壺反二付分米壺石式斗
- 一当荒壺反二付分米壺石五斗
- 一永荒壺反二付分米壺石四斗
- 一上畑壺反二付分米壺石四斗
- 一中畑壺反二付分米壺石三斗
- 一下畑壺反二付分米壺石式斗

- 一下々畑壺反二付分米壺石

- 一当荒畑壺反二付分米壺石三斗

- 一永荒畑壺反二付分米壺石三斗

右三ヶ村慶長三年古検帳之写

加戸村分米付之事

- 一上田壺反二付分米式石壺斗
- 一中田壺反二付分米式石
- 一下田壺反二付分米壺石九斗
- 一上畑壺反二付分米壺石七斗
- 一中畑壺反二付分米壺石六斗
- 一下畑壺反二付分米壺石四斗

右ハ古検帳紛失二付内検帳を以如此二候、右之外番田村・国影村

・井江葭村・田中々村・十楽村五ヶ村分米之書付鯖江指上申候、

北金津之義者「(大宮茂富・福井藩金津奉行)」書付指出し不申候、其庄屋弥次兵衛返状ニ、

彦右衛門殿勘定所へ被仰遣候処「(大宮茂富・福井藩金津奉行)」之返事無之候ニ付□□彦

右衛門殿福居へ御越無之候而ハ埒明不申候由申越候ニ付、則弥次

兵衛返状鯖江へ遣し申候

一前谷村長二郎、笹岡村清右衛門田を一作買仕候処、宮谷村権右衛門・笹岡村仁兵衛を押申由ニ而、先日長二郎御訴訟ニ参候へハ其節之御返事ニ、此方ニ而詮義も不仕なけやりニ仕候と被仰越候ニ付、右ハ吟味之段々其上添寄候出入、こし持之者之す、めニ而先月廿六日ニ是非共御訴訟ニ可参と願候ニ付、遣し候段々申上候

一 笹岡村宗右衛門と前谷村清左衛門田之出入、宗右衛門田ニ紛無之由庄屋長百姓口書指上候上ハ、右之田宗右衛門ニ被仰付御尤之由申上候

一 笹岡村九右衛門質物高之義、宗右衛門・市郎兵衛御訴訟申上候ニ付九右衛門ニ手錠被仰付候、然共手錠をはつし構申事無之罷有候由沙汰ニ承候、何迄手錠被仰付候□□^九右衛門迷惑成事ハ無之候、流高二候へハ高被仰付御尤之由申上候

一 笹岡村市右衛門手錠御詫言申上候

一 権右衛門先月廿三日頃江戸を罷出、今日頃当着可仕由申越候段

一 石田方ニハ当五日ハ大割仕候由当方□□も近日被仰付御尤之由

一 右之通園右衛門様・沢右衛門様・武知右衛門様へ以書状申上候、

一 笹岡村宗右衛門・市右衛門ニ為持遣し候

一 権右衛門江戸表首尾能相済罷帰候

一 沢右衛門様ハ当年組下村々相極候御普請帳之写、并当月末ニ御改

一 二御出可被成候由、御帳面之通普請早々仕立候様ニと被仰越候、

御手紙有

一 山田才右衛門殿ハ御状被遣候、三国境屋甚右衛門方へ御状被遣、

今日便りニ遣し申候

一 朝倉平太左衛門殿御状被遣、其内六助方銀子壺包參候を即座ニ而相渡申候

六月五日

覚

一 銀壺貫貳百七拾七匁五分四厘 未大割銀

鯖江ハ被遣候御書出し

内

四百九拾六匁貳分四厘

未夏割

六百九拾五匁九分三厘

未冬割

メ壺貫百九拾貳匁分七厘

八拾五匁三分七厘 村々ニ而取立ハ過銀

一 笹岡村宗右衛門・市右衛門鯖江ハ罷帰り候ニ付、右段々之御返事被遣有之候ニ付、是ニ委敷記不申候

同六日

同七日

坂井郡北金津町田畑分米付

一 上田壺反ニ付分米壺石八斗

一 中田壺反ニ付分米壺石七斗

一 下田壺反ニ付分米壺石六斗

一 荒田壺反ニ付分米壺石六斗

一 里上畑壺反ニ付分米壺石七斗

一 里中畑壺反ニ付分米壺石六斗

一 里下畑壺反ニ付分米壺石五斗

一 上野上畑壺反ニ付分米壺石五斗

一 上野荒畑壹反二付分米壹石五斗

一 里荒畑壹反二付分米壹石五斗

一 上野荒畑壹反二付分米壹石四斗

一 居屋敷壹反二付分米壹石七斗

右者坂井郡□義村御檢地被仰付候二付、隣村田畑分米□□吟味

「一 処、当町古檢帳先」「紛失仕候二付、百姓覚を以先年

を用来り候通分米付、書付「」申候処少も相違無御座候、以

上

宝永元年申六月七日

長町人

源 □ □ 印

同

庄屋

弥次右衛門 印

同

彦 兵 衛 印

同

弥次兵衛 印

尾花園右衛門殿

斎藤久野右衛門殿

中川浅右衛門殿

右之書付北金津若藤屋弥次兵衛方を遣し候二付請取申候

六月八日

一 右北金津を書付前谷村市右衛門ニ為持鯖江遣し申候、遅参之内

鯖江を□宮彦右衛門殿へ被仰遣候へハ、間違可申と存候二付

早々指上候段御断申上候

一 未ノ年大割銀壹貫貳百七拾七匁五分四厘之御書付被遣候内、壹

貫百九拾貳匁分七厘夏・冬兩度ニ取立、残八拾五匁三分七厘
取立不足之様ニ相見得、合点不参候段申上候

一 申年御普請所御帳之写被遣候内、田中々村板堰壹ヶ所無之候事

如何之子細ニ候哉可被仰下候、次ニ右御書付之内番田村・城村

ハ普請所仕立申候、十楽村石堤ハ是ハ木屋方を仕立可申筈、井

江葭村ハ御目論見帳と普請仕立ハ違申二付、是も木屋方を請取

仕立可申候

右之通園右衛門様・久野右衛門様・沢右衛門様・武知右衛門様へ

申上候

一 追而沢右衛門様へ申上候ハ、権右衛門江戸表ニ而首尾能相濟、江

戸ニ而条右衛門様・代右衛門様・番右衛門様・新内様御引廻之義、

乍慮外御席御礼被仰遣被下候様ニと申上候、次代右衛門様金三両

壹分預り参候間、十一日ニ権右衛門持参可仕由申上候

一 園右衛門様・久野右衛門様・沢右衛門様・武知右衛門様御配符被

遣候ハ、御年貢金四日・十八日と日切申遣候処、今以一切不相納

候事不届ニ候間、村々申付早々相納候様ニと被仰越候二付、自分

方を配符仕村々相廻申候、此御配符村々判形仕重義村を返シ此

方ニ有

同九日

一 前谷村市右衛門今日罷歸候、田中々村^(板九)堰御帳之写、井江葭村御

普請所へ□被遣候未年諸遣帳、笠紙ニ而横帳ニ仕候様ニと被仰越

候、北金津町分米付御引取之由被仰越候

上候、右三通之証文御返シ候ニ付此方ニ有

同十日

六月十二日

一金四兩壹分

笹岡村宗左衛門

同十三日

当春御廻米式拾八表之代銀之内預り申候、代銀相濟候節此手形取返し消可申候

一未御年貢金村々遅納仕候ニ付拙者方御配符被遣候ニ付其御配符ニ添配符仕村々へ相廻、村々判形仕返しニ付此方ニ有

同十一日

同十四日

一権右衛門鯖江へ参候ニ付書状を以申遣趣ハ、笹岡村宗右衛門・市郎兵衛申上候質高之義ニ付(同カ)村九右衛門ニ手錠被仰付候得共、最前□□ハ罷帰候而ハ以来一言之断も無之「一ニ而も無御座候ニ付、右兩人迷惑之「一」召寄候而「一」奉存候

一権右衛門江戸参諸入用鯖江ニ而勘定仕廻、今日罷帰候
一当十七日ニ鯖江ニ而大割被仰付候間、立合之庄屋遣し候様ニと被仰越候

内

一沢右衛門様ハ笹岡村御廻米代銀宗兵衛分、早々取立指上候様ニと被仰越候、御配符此方ニ有、右之通早々笹岡村へ申遣候

四拾七匁三分

市右衛門組分

式百六拾匁八分五厘

宗左衛門組分

同十六日

是ハ大方相濟申候

同十七日

三百九拾壹匁八分五厘

宗兵衛分

此内半分程ハ盆前御指延被下候様ニと申上候

一宮谷村義兵衛鯖江大割立合ニ参候様ニと申遣候処、気分悪敷候而参候事成不申候由断ニ付、十楽村与三右衛門参候様ニと申付、明十八日ニ可参由与三右衛門申候

一右引高扱証文并右御廻米詔証文、同村市右衛門御廻米遅納之節之証文、三通共ニ其元ニ御用無之候ハ、御返し被下候様ニと、園右衛門様・久野右衛門様・沢右衛門様・武知右衛門様へ書状を以申

一組下村々当申ノ年御普請扶持代銀御渡可有由、御口米直段之義、村願状之事、御陣屋破損ニ付修覆之事、右三色之義ニ付可参候、

若指合申事有之候ハ、慥成者遣し候様御配符被遣候、明後十九日
二参候様ニと被仰越候、御配符此方ニ有

同十八日

同十九日

一右之通十九日ニ参候様ニと被仰越候ニ付、当申ノ年御扶持代銀、
藤助様お当四月請取候御口米直段、村々願状、今日為持指上申候、
御陣屋修覆之義八十楽村与二右衛門其元ニ罷有候間、如何様共可
被仰付候と申、段々口上書仕前谷村市右衛門ニ為持鯖江へ指越申
候

一笹岡村御廻米代銀之事油断なく吟味為相済可申由、沢右衛門様へ
手紙ニ而申上候

同廿日

一金七両壹分銀拾匁

笹岡村

御廻米代銀七百匁之内四両壹分当月十日ニ請取、残而右之通
二候、仮手形相渡し申候

一前谷村市右衛門鯖江お罷歸り候、園右衛門様御返事被遣候、我等
印判一両日之内ニ□□候様ニと被仰越候

「御組渡申、九郎兵衛殿を御使」「無」「昨十
九日」「瀬村へ参水無」「断申ニ付」「共はなち
水下候処、今日又参候而」「はなち可申由申来り候、昨日お

下し候水夕へ柵村堰上候而水引候由、権世村お相断候間、とかく
出入無之様ニ仕候様ニと被仰越候□ニ付御返事申上候ハ、当村田ニ
水無之候ニ付権瀬村お水引下シ申□村之者共申聞候、柵村お罷出
水引取候事ハ拙者不存候、前谷村・北村共ニ水無之事ハ紛無御座
候間、権世・前谷・北村共ニ御見分之上水無之方へ御廻し可被下
候、前谷村旱損之節権世村之□□之畑田へも水入不申定之義ハ能
御存可被遊候間、出入無之様ニ被仰付被下候、□御返事申上九郎
兵衛殿御歸り之跡ニ村之者共呼寄様子相尋候へハ、昨日権世村之
者共申候ハ、ケ様二堰を落申故ハ番人ニも□候間、此分ハ水下
シ可申と申ニ付、偽りも有間敷と存其通仕、今朝参せき共吟味仕
候へハ、権世村金太郎せきを打留□之下柵村とかのゆをせき留置
申候、右金太郎之をせき留候ニ付、柵村ニも堰申義権世村之者共
ニ相断置申由申候

六月廿一日

一右之様子当村之者共為申聞候へハ、夫者以而外成、金津お御使ニ
候へハとかく右村々□地御見分を願可申由ニ而、村之者共何も金
津へ参候、三田村六右衛門殿へ一昨日お之段々申上候へハ、昨日
何れ権世村へ被参候、水下シ申間敷申ニ付、村へ歸り相談次第ニ
可仕と被申ニ付権世お訴出候、併前谷村之分ハ旱損無之様水下シ
候様ニと申付遣し候間、出入無之様ニいたし候様ニと御申聞ニ而
何れも罷歸り候

一前谷村之者共金津を罷帰、直二権世村へ参、前谷村ニ水無之義金津ニ而被仰聞候、段々申聞候へハ納得ニ而水下シ可申由ニ候へ共、今日ハ暮ニ及番人旁手支ニ付、明朝参堰々之分水極迄申合、前谷村之者共帰候

同廿二日

一今日五ツ過る権世村之堰共庄屋長百姓立合分水相極、前谷村へ水引取申候

同廿三日

一前谷村田地、北村下垣内田方大方水懸り申ニ付、当村庄屋長百姓権世村之□水懸り渡候ニ付、先当分せきとめ可被申候、乍然此躰ニ旱損申義候ハ、重而又水引下可申段相断、今七ツの水留申候

同廿四日

一金拾壹両貳分銀拾匁

是ハ笹岡村御廻米代銀沢右衛門様を預り申ニ付、右之村を取立指上申候、我等預り手形御返し被下候様ニと申上候

一金四両壹分銀四匁貳分

是ハ当三月ニ園右衛門様をかり候而、重義へ貸申候元金四両利銀拾九匁貳分、右之通指上申候、我等預り手形御返し被下候様ニと申上候

一自分印判御用之由被仰越候ニ付遣し申候、其外拙者組下山方村々畑方六月大豆・大角豆・□大分旱損仕候、重義村番田村・田中々村・十楽村田方水會而無之白われニ罷成候、此躰旱続候ハ、罷出相改、書付可指上旨園右衛門様へ□上書を以申上候
右前谷村市右衛門鯖江へ遣し申候

同廿五日

(一市) □右衛門□江を罷帰り候、園右衛門様へ金子「□」

「□」渡拙者預り手形御返し□被成消申候、「□」御返し請取申し候、沢右衛門様南条郡□□之由ニ而金子・書状共ニ取而帰り候ニ付、無相違請取申候

一当申夏迄大庄屋給、去未暮取立候銀□書付当月中ニ取立、相濟被申様ニと配符村々へ遣し申候

一十楽村与三右衛門鯖江大割相濟昨廿四日ニ罷帰候由、今日参候大割・組割之帳請取申候、右割銀来七月六日切ニ我等方へ請取指上候様ニと被仰付候、帳面有、村々此方を配符遣し申候

一舟津村荒地証文、最前御檢地之節被仰付候処于今指出し不申候、早々指出し申様ニと、并重義村神田証文悪敷候間書直シ指上候様ニと案紙被遣候、久野右衛門様御手紙有

一村々田畑共二日損仕候由断有之ニ付、今日□□へ罷出田畑見分仕候処、日損仕候処紛無之候ニ付鯖江へ申上度由村々を願ニ候

六月廿六日

一重義村社地証文・舟津村宮地証文取揃、并与下村々田畑日損仕候田作之義ハ御検見之節御覽可被遊候、畑作之義御検見之節上作・悪作之訳不見へ申候間此節御出御見分被遊可被下候、此段村々願出候ニ付拙者方ハ口上書指上申由相認候而、舟津村之人足ニ為持鯖江へ明日遣し候様ニと清左衛門ニ相渡し候、我等口上書留有、但舟津村人足ハ検地村ハ為持遣し候様ニと被仰付候、如此ニ候

同廿七日

同廿八日

一右之証文共久野右衛門様御請取之由御返事有之候
一村々田畑日損之義者園右衛門様へ口上書指上候へハ、御相談追而可被仰越由御返事有

同廿九日

同晦日

七月朔日

一谷畠村・上番村猫出入之事、木屋喜兵衛石田・鯖江ニ而御断申上候間扱ニ罷出候様ニと申節、舟寄村善右衛門も被参候而扱ニ出候様ニと被仰ニ付罷出候処、布目彦兵衛・大牧文左衛門・野中五左衛門・舟寄善右衛門・自分・木屋喜兵衛罷出何も相談之上、理非ハともかくも谷畠村ハ少村ニ候処、上番村之者押領成事仕候由申

立ニ候へハ、とかく右之与頭中谷畠村へ佗言ニ可参候間、□を手塩ニ仕相濟候様ニと善右衛門へ申談「
」心ニ而善右衛門谷畠村へ右之段々被申聞候得共、谷畠村之者共承引不仕候ニ付何も退出仕候

同二日

一河崎庄左衛門様へ御意得候へハ、笹岡村用水有之候ハ、北野村・矢地村少下シ間敷候哉、御尋被成候、尤川筋ハ右村々続候得共笹岡村之用水を留、北野・矢地村へ水下シ申義有之候哉拙者不及承候、夫共笹岡村ニ水有之候ハ、順水之法を以下シ可申事ニ候へ共、熊坂村ハ水下り不申候ハ、笹岡村之溜水斗少々有申候を下シ可申とハ申間敷候、笹岡村ニ水無之とハ承候得共、見不申候ニ付然とハ不被申上候と申候、次ニ西方寺村太郎兵衛と柿原「
」村庄兵衛・細呂木太郎兵衛高出入之「
」御尋ニ付、七八年以前ハ太郎兵衛細呂木「
」左衛門高出入仕候共然と落着無之「
」処、太郎左衛門右出入高質物□□兵衛方へ「
」代銀相濟不申候ニ付、高流相渡候付「
」庄兵衛と出入取繕候得共、庄兵衛方ニ□□成質物証文有之ニ付、太郎兵衛□□分立申間敷候哉と申候へハ、太郎兵衛方ハ重而書付指出候由鯖江ハ被遣候由御物語ニ付、此出入之事藤助様ハ能御存知ニ候へ共、其外之御役人衆ハ然と御存知有間敷候、近日ニも御出候ハ、委細可申上由御物語申候

七月三日

同四日

一 園右衛門様へ先月廿七日ニ指上候村之日損之口上書御返し候而被
 仰越候ハ、村々日損之田畑帳面ニ仕当六日ニ鯖江可指上候、七日
 ニハ江戸被仰上候由被仰下候、次ニ村々御年貢金早々皆済仕候様
 ニ可申付由被仰遣候、御配符式通有之候、則村々日損田畑
 之帳面案文遣し候

同五日

一 村々田畑日損帳取集申候

同六日

一 村々日損帳今昼迄ニ取揃候付、村々指出候帳ハ此方ニ指置、写之
 帳拙者判形ニ而指上候、村々指出候帳此方ニ有

外口上書指上候

一 拙者組下村々田畑日損帳面ニ記指上候様ニと被仰下候ニ付、

早々村々へ申渡今昼迄ニ漸々帳面取揃候ニ付、指出候帳面直ニ

指上申度候得共、くたく敷帳面ニ而御見訳難被成候ニ付写指

上候、右帳面之義不吟味之義も可有御座候へ共、明日江戸へ被

遣候旨被仰下候ニ付、委細吟味仕余日無御座候ニ付、村^(々)お指

出候通ニ書写指上候、先日申上候通乍御苦勞御出被遊候而、

御見分之上委細帳面被仰付可被下候、拙者組下村々之義自余各

別ニ而、山方ハかる土、里方ハ河端砂土ニ御座候故、畑方大分
 痛申候、田方ハ何茂清水懸リニ候故痛之次第不同ニ御座候、重
 義・番田・田中々村・十楽此四ヶ村田方不残白われニ而、過半
 ハ苗もかれ申躰ニ御座候、とかく誰様ニ而も御出被遊御見分被
 遊可被下候、村^(々)願出候ニ付如此申上候百姓為以ニ御座候間
 罷出可被下候

一 未之御年貢金之事度々被仰下候ニ付、村々吟味仕候得共益切定
 之御廻米代銀さへ相済不申躰ニ御座候へ共、御年貢金何様ニ申
 候而もはか取不申、只今迄之納下りハ中お下之百姓ニおちたま
 り候ニ付、拙者老人之吟味ニ而益前ニ皆済可仕様ニハ不奉存候、
 村々不残其元へ被召寄候か、御出被遊候而御吟味被遊可被下候、
 一日くくと相延候而指詰り、拙者何様ニ被仰付候共御金ニハ難
 成候付御断申上候、とかく御出被遊於御吟味ニハ各々様後立ニ
 仕詮義をも仕度候奉存候、以上

七月六日

前谷村

二郎左衛門

尾^(尾花) 園右衛門様

右之帳面・口上書共前谷村市右衛門ニ為持園右衛門様へ指上申候

一金式兩銀壹匁七分四厘

重義村

内

七拾八匁式分

鯖江大割・組割共ニ

四拾三匁五分四厘

申夏大庄屋半給銀

^(右)之通請取取り手形遣し候、重而本^(手)形と引かへ可申と書付弥右

衛門二渡候

七月七日

同八日

一前谷村市右衛門鯖江お今日罷帰候得共御返事無之候

口上書令披見候

一其組下村々早損帳被指越受取申候、村々お見分願候旨令承知候、

追而相談之上見分二可罷出候

一去未御年貢金納下り被致詮義候得□然々埒明不申候由、其元吟味

之上滞候村々八人別被申、帳面出来次第庄屋・長百姓・未進持百

姓共二来十二日迄二陣屋へ可被指越候、為其如此二候、以上

七月八日

前谷村二郎左衛門殿

此御返事宮谷村・笹岡村お村次二而参候

同九日

一銀四匁七分五厘 西方寺村市郎右衛門割銀・大庄屋給銀之由、

請取手形不渡

一村々被参候二付未進銀之事段々吟味仕口上書判形取申候、右園右

衛門様御配符之通委細申渡候

同十日

一重義・番田・田中々村・十楽・舟津・宮谷村庄屋長百姓被参候、

益前鯖江参候ハ、牢舎も可被仰付義二候間、何とぞ御詫言申上度
由被申候而口上書指出し被申候

一久野右衛門様お西方寺村十右衛門・五十郎・七右衛門・善兵衛、

此四人市郎右衛門と出入有之由二而、御年貢金相済申候間吟味

仕候様二と被仰越候□、明十一日右四人・市郎右衛門共二参候

様二と申付候

同十一日

一当夏郡中大割銀之義不相納候由、来十三日迄二陣屋町彦五郎所

へ可被相納候、無油断被取立早々相納させ可被申候、以上

七月十日

西谷武知右衛門印
齋藤久野右衛門印

坂井郡大庄屋三人

右御廻状後山村お村次二而参候二付、舟寄善右衛門方へ村次二而

遣し候

一栗毛三才馬壺疋 清王村 九右衛門

一川原毛三才馬壺疋 同

ノ式疋 髮切

□二ツ屋口通手形七月十七日之日付二而出ス

覚

一銀六百六拾三匁四分九厘

前谷組申夏大割

内七拾九匁五分四厘 舟津村分不足

此銀舟津村へ参候ニ付請取

残

銀五百八拾四匁三分五厘 七月十二日ニ遣ス

此金九兩貳分半切銀六匁八分五厘

鯖江彦五郎方へ遣ス

一 銀三拾匁四分

申春夏自分はたこ代
鯖江彦五郎方へ遣ス

一 銀百貳拾匁

福居八万屋喜兵衛方へ遣ス
万かい物代銀之内

一 銀五拾匁

福居田中屋甚右衛門方へ遣ス
万かい代銀之内

一 銀三匁

福井ニ而小買物代銀

〆八百六拾六匁八分九厘

〔右〕之銀子慥ニ請取申候、方々相渡候、「 一 」ニ而相渡し可申候

前谷村市郎右衛門 (印)

〔 一 〕 未進持百姓召連、庄屋長百姓当「 一 」鯖江へ参候様ニ

と被仰付候ニ付、□段々□文を取置候処、村々へ重而願状出し被

申候ハ□益前御吟味之義御免被下候様ニと願状被指上候ニ付、其

願状ニ拙者手紙を添園右衛門様へ遣し候、次ニ赤尾村之百姓ニ手

錠被仰付候ニ付此義も御詫言申上候、右村々願状留有

一 西方寺村十右衛門・五十郎・七右衛門・善兵衛、同村市郎右衛門

と出入有之候ニ付、何とぞ相濟申様ニと久野右衛門様へ御手紙被

遣候ニ付、尤被仰越候ニ付此方ニ而可承候得共、双方共証文を持

諍申義ニ候へハ、此方ニ而相濟可申様ニ不奉存候と久野右衛門様

へ申上候

七月十二日

一 右之御用共ニ前谷村市右衛門鯖江へ参候

一 銀四匁六分七厘

西方寺村十右衛門大割銀給銀之由、請取重而市郎右
衛門方へ手形可渡

一面々組下村々庄屋長百姓并未進百姓召連、此配符参着次第可罷

出候、尤不参有間敷候、以上

七月十二日

午中刻

西谷武知右衛門

山本沢右衛門

斎藤久野右衛門

尾花園右衛門

舟寄村善右衛門殿

後山村平助殿

前谷村二郎左衛門殿

右之御配符前谷村市右衛門ニ今夜之内先々へ相届候様ニと被仰付

候由、今夜四ツ時分ニ持参ニ付早々後山村へ遣シ、扱村々へ右之

御配符を写添書致、亥中刻ニ笹岡村迄遣し申候

一 右之銀市右衛門方々へ相渡手形を取参候、相違無之候

同十三日

一 右御配符ニ付権右衛門鯖江へ参候

同十四日

同十五日

一 権右衛門鯖江ハ罷帰候、御陣屋ニ而未進金御吟味之段々ハ当廿日
 ・廿五日切之請合ニ而何れも罷帰候処、笹岡村・宮谷村・清王・
 青野木・西方寺・舟津・十楽・田中々村・番田・重義此拾ケ村ハ
 今日迄鯖江へ不参候二付、廿日迄之内ニ御金未進金高ハ式分五厘
 取立させ、村々庄屋長百姓召連参候様ニと被仰付罷帰候処、宮谷
 ・青野木・清王・十楽・田中々村・番田・重義此七ケ村者今日鯖
 江へ参候処道ニ而逢候二付、廿日切御金請合之義為申聞何れも罷
 帰候、笹岡・西方寺・舟津此三ケ村ハ今日も不参候二付、式分五
 厘請合之義為申渡、明十六日ニ早々参候様ニと申遣候、其配符ハ
 重義村ニ留り有之筈ニ候

一 笹岡村御廻米式拾八表之代銀七百匁四月切ニ相濟不申候二付、沢
 右衛門様ハ当座かりニ仕境屋甚右衛門方相濟候而、其後笹岡村ニ
 而右之金子取立沢右衛門様へ返濟仕、右自分預り手形取返し消申
 候

同十六日

一 栗毛三才馬壹正 重義村 忠右衛門
 一月毛三才馬壹正 同人
 〆式正 但髮切

右ニツ屋口通り手形奥判いたし候

同十七日

一 「」ケ村未進金高ハ式分五厘、当廿日ニ無□□上納候様ニと、
 昨・今之内ニ村々庄屋長□□中へ堅申渡候 (百姓)

一 「」二付人足八分五厘 覚
 一人足六拾五人

内 拾三人 七月廿二日ニ可出候
 五拾式人 同廿三日ニ可出候
 高百石ニ馬壹正三分七厘
 一馬百五正

内 式拾壹正 七月廿二日ニ可出候
 八拾四正 同廿三日ニ可出候

右者来ル廿三日大坂御加番堀左京亮殿御通候二付、廿二日ハ先荷
(堀直利・越後村松藩主)
 物通候間、其組下横垣村・井江葎・国影・清王・西方寺・赤尾・
 牛山・重義・番田・十楽・田中々村・舟津・青野木・宮谷・前谷
 ・笹岡以上拾六ケ村、右高当りを以村高二割付、人馬未明ハ舟寄
 村為相詰可申候、但馬有無之分量爰元ニ而不相知候二付而割付不
 遣候間、馬有之村へハ馬多、馬無之村へ人足割付可被申触候、割
 付候人馬壹人壹正も無不足、右日限之通舟寄村相詰御定之賃銀受
 取之、問屋差凶次第荷物附送候様ニ可被申付候、右人馬割来ル十
 九日迄ニ舟寄村問屋方へ帳面可被相渡候、毛頭油断有之間敷候、
 以上

申七月十七日

西谷武知右衛門印

山本沢右衛門印

齋藤久野右衛門印
尾花園右衛門印

前谷村
大庄屋二郎左衛門殿

右之御配符後山村の村次二而参候

右人馬之割

一人足三人内 <small>老</small> 人七月廿二日 同廿三日	前谷村	一人足四人内 <small>老</small> 人七月廿二日 三人同廿三日	国影村
一馬壹疋 七月廿三日	同	一馬五疋内 老定七月廿二日 四疋同廿三日	同
一人足五人内 <small>老</small> 人七月廿二日 四人同廿三日	笹岡村	一人足三人 七月廿三日	牛山村
一馬九疋内 老定七月廿二日 七疋同廿三日	同	一馬三疋内 老定七月廿二日 老定同廿三日	同
一人足四人内 <small>老</small> 人七月廿二日 三人同廿三日	宮谷村	一人足五人内 <small>老</small> 人七月廿二日 四人同廿三日	舟津村
一馬七疋内 老定七月廿二日 六疋同廿三日	同	一馬拾疋内 老定七月廿二日 九疋同廿三日	同
一人足五人内 <small>老</small> 人七月廿二日 四人同廿三日	青野木村	一人足七人内 <small>老</small> 人七月廿二日 六人同廿三日	十楽村
一馬九疋内 老定七月廿二日 七疋同廿三日	同	一馬拾三疋内 老定七月廿二日 十疋同廿三日	同
一馬壹疋 七月廿三日	西方寺村	一人足五人内 <small>老</small> 人七月廿二日 四人同廿三日	番田村
一人足三人 七月廿三日	清王村	一馬拾疋内 老定七月廿二日 八疋同廿三日	同
一馬壹疋 七月廿三日	同	一人足五人内 <small>老</small> 人七月廿二日 四人同廿三日	重義村
一人足三人内 <small>老</small> 人七月廿二日 老定同廿三日	赤尾村	一馬拾疋内 老定七月廿二日 八疋同廿三日	同
一馬四疋内 老定七月廿二日 三疋同廿三日	同	右之人馬無相違廿二日役馬ハ廿一日之夜、廿三日役馬ハ廿二日之 夜 <small>の</small> 舟寄村へ罷出可申 <small>(候、カ)</small> □舟橋迄付送り申義ニ候へハ、米式表程 おい申馬二候ハ、間ニ合申由委敷申触候	
一人足三人 七月廿三日	横垣村	一右之人馬為支配と井江葎村義右衛門廿一日 <small>の</small> 舟寄村罷出相勤可申 由、村々出馬毛付仕義右衛門方へ相渡し候様ニと申触候	
一馬壹疋 七月廿三日	同		
一人足六人内 <small>老</small> 人七月廿二日 五人同廿三日	井江葎村		
一馬拾疋内 老定七月廿二日 八疋同廿三日	同		

七月十八日

一右之人馬村々割付之書付、前谷村人足二而舟寄村善右衛門・宗右

衛門方遣し申候

同十九日

一舟寄村宗右衛門方人馬之義委細申越候付、大切成二候間油断有
間敷候由重而村々へ申遣候、十楽・田中々村・番田・重義・舟津
・井江葭・青野木・笹岡、右村々人馬支配人壺人ツ、出し可被
申候、惣支配人ハ井江葭義右衛門廿一日舟寄村へ罷出、宗右衛
門・善右衛門と相談二而被相勤候様二と申渡し候

同廿日

一重義・番田・田中々村・十楽・舟津・清王・西方寺・青野木・宮
谷・笹岡、此拾ヶ村庄屋長百姓鯖江へ御金持参仕候

同廿一日

一権右衛門鯖江へ参候
一人馬之義二付又舟寄村宗右衛門方書状参候二付、其通村々申遣
候

同廿二日

同廿三日

一人足七拾七人
馬四拾五疋
(榊原政邦・姫路藩主)
前谷組
右八榊原式部太輔様越後国村上を当七月十五日昼立同十六日昼

立迄之人馬二割之由、委細舟寄村善右衛門手紙有

此割

- 一人壺人 前谷村
- 一馬壺疋 前谷村
- 一人六人 笹岡村
- 一馬四疋 笹岡村
- 一人五人 宮谷村
- 一馬三疋 宮谷村
- 一人六人 青野木村
- 一馬四疋 青野木村
- 一人壺人 西方寺村
- 一人貳人 清王村
- 一馬壺疋 清王村
- 一人三人 赤尾村
- 一馬貳疋 赤尾村
- 一人三人 牛山村
- 一馬壺疋 牛山村
- 一人壺人 横垣村
- 一馬壺疋 横垣村
- 一人七人 井江葭村
- 一馬四疋 井江葭村
- 一人四人 国影村
- 一馬貳疋 国影村
- 一人七人 舟津村
- 一馬四疋 舟津村
- 一人八人 十楽村
- 一馬四疋 十楽村
- 一人九人 田中々村
- 一馬六疋 田中々村
- 一人七人 番田村
- 一馬四疋 番田村
- 一人七人 重義村
- 一馬四疋 重義村

右八榊原式部太輔様七月十五日・同十六日越後国村上御立被成近
日御通二候間、右之人馬割付之通村々二支度仕置、重而此方
次第早々舟寄村へ出し可被申候、若御通(急二而力)□□□間無之候ハ、舟

寄村善右衛門方も直二村(々々)□□ふれ可被申候間、其心得候様二と

村々へ今戌ノ上刻ニ配符出し申候、此外委細之義書付出し申候

一 当廿一日ニ鯖江御役所被仰付候事、失念候而書留不申候ニ付如

此二候、笹岡・宮谷・清王・青野木・舟津・十楽・田中々村・番

田・重義此九ヶ村御年貢御取立御吟味ニ付、当月十三日ニ庄屋長

百姓未進持百姓召連参候様ニと御役所被仰越候ニ付、其段村々

申触権右衛門鯖江へ参候処、右村々も不参候ニ付権右衛門ハ十五

日ニ帰り、就夫右村々も口書御取可被遊由ニ而案紙被遣候得共、

村々も先達而鯖江へ参、何れも右九ヶ村共ニ庄屋長百姓宿ニ罷

有候ニ付、先何れも鯖江も罷帰り候を相待罷有候

一 右同日ニ沢右衛門様来月上旬ニ村々御普請所出来形御見分ニ御越

可被成之由、委細御書付被遣候

七月廿四日

一 右人足・馬村々へ割付之書付、前谷村之人足ニ而舟寄村善右衛門

・宗右衛門方へ遣し申候、権右衛門鯖江も罷帰候、此間鯖江ニ而

之御吟味之様子ハ右廿一日ニ被遣候口書ニ、右拾ヶ村庄屋長百姓

判形仕指上候ハ、江戸可被仰上由被仰渡候ニ付、此度之口書御免

被下候様ニと何れも願状指上候ニ付、御聞届被遊持参仕候御金も

御請取、御未進金日切請合証文廿二日迄ニ相濟、廿三日之朝宮谷

清右衛門・青野木弥次兵衛・柿原西方寺市郎右衛門・清王権兵衛

・舟津清右衛門・十楽与三右衛門・田中々村長兵衛・番田門郷三

郎・重義五右衛門、右之者共ニ手錠被仰付候、笹岡宗左衛門重々

不届有之ニ付牢舎被仰付候、廿四日ニ色々御詫言仕手錠之者共御

免被遊候、宗左衛門義何れも共ニ御詫言申上候得共御免不被遊、

此度市右衛門不参候ニ付今日又市右衛門参候様ニと御配符被遣候、

右願状御金請合証文留有、廿一日ニ被遣候口書ハ重而御陣屋へ可

指上候筈ニ候

同廿五日

一 栗毛三才馬壺正 髮切

清王村

次兵衛

右ハ板取口通手形おく判いたし候

同廿六日

一 井江葎村義右衛門舟寄村へ相詰候、人馬御用ニ廿一日ハ昨廿五日

迄舟寄村ニ罷有、馬仕払駄ちん等之帳面仕立鯖江へ指上候、尤札

馬之たちん錢義右衛門請払、我等方へハ構不申候

同廿七日

一 笹岡村宗右衛門申来り候ハ、宗左衛門相煩□□出牢被仰付、市右

衛門かハリニ牢舎被仰付候由申来り候

同廿八日

同廿九日

一人三人 重義村
一馬三疋
一人三人 番田村
一馬三疋

一人四人 田中々村
一馬四疋

一人三人 十楽村
一馬三疋

一人三人 舟津村
一馬三疋

一人老人 国影村
一馬老疋

一人三人 井江葎村
一馬三疋

右ハ舟津村善右衛門方被申触候二付、今日右村々舟寄村へ相
詰候由二而、善右衛門配符我等方二有

一組下村々庄屋中申来り候ハ、人馬大分当り何共村々迷惑之由二而
願状認被指出候付、何れも相談之上我等一判之願状認候而、為惣

代と井江葎村義右衛門明朔日ニ鯖江持参申筈二候

八月朔日

同二日

同三日

一沢右衛門様大野郡後山村ニ御泊り

同四日

一沢右衛門様井江葎村・番田村之御ふしん所御見分被成候、田中々
村才兵衛方ニ御泊り被成、田中々村板堰・十楽村石出し御指図候、
御普請仕形御吟味被成候、才兵衛方ニ御泊り被成候

同五日

一去御年貢納下り之義ニ付御配符被遣候、御配符有
一申之年宗門御改帳当十五日限指上候様ニと御配符被遣候

同六日

同七日

一沢右衛門様城村塩浜御普請所御見分、田中々村城村へ御越被成
候

同八日

同九日

同十日

一昨九日申ノ年宗旨御改寺判舟寄村善右衛門方ニ而取申候、無相
違相済申候

同十一日

一申ノ年宗旨改帳・名寄帳・役割帳、来ル十五日迄ニ指出し候様ニ
と滝右衛門殿御配符被遣有之候

同十二日

同十四日

一久野右衛門様・武知右衛門様、村々旱損帳一帳ニ指出不宜候間、
村別・壹人別ニ記拙者方へ取置御見分ニ御越可被遊候間、其心得
仕候様ニと久野右衛門様・武知右衛門様御配符有之候

同十五日

同十六日

□^(三)田中々村・十楽村・井江葎村御普請所大方出来ニ付、今日舟寄村
迄御越被成候、沢右衛門様田中々村方々度々御出、舟寄村へ之
馬人足田中々村・番田・十楽・井江葎・城村方出し申候

同十七日

一谷畠村弥次右衛門・上番村市郎右衛門猫出入之義、布目彦兵衛・
大牧村文左衛門・野中村五左衛門・舟寄善右衛門・木屋喜兵衛・
自分同道二而、谷畠村へ「」ニ仕相済申候

同十八日

一園右衛門様を去未御年貢不足之義ニ付被仰渡義有之候間、来廿日
ニ御陣屋へ参候様ニと御配符被遣有之候

一滝右衛門殿を申宗門帳・名寄帳・役割帳油断之由度々被仰越候ニ
付、度々村々へ申遣候得共帳面出来不申、其上帳面ニ相違有之ニ
付、村々庄屋被参候様ニと呼寄急度申渡候、滝右衛門殿御配符有
之候

一久野右衛門様・武知右衛門様舟寄村へ御越之由被仰越候、御配符
有

八月十九日

一村々庄屋中呼寄右帳面共之義、田畑旱損御改之事、御年貢金之事、
委細申渡し候

一当七月廿二日舟寄村へ諸人足仮割を以人足出させ候ニ付、此以
後可入人足分量を以高割ニ仕、当廿一日迄仮割出人足を引、不足
之分ハ廿二日方段々出申様ニ村々□^(三)申渡候、委細人足帳ニ有

一銀拾六匁八分 かくこ代ニ渡

一銀貳拾四匁

一金壹分

右之通弘申候

同廿日

一久野右衛門様・武知右衛門様、村々日損田畑御見分ニ大野郡方当
郡へ御越被成候

同廿一日

同廿二日

同廿三日

一右御兩人様前谷村ニ廿一日ニ御泊り、廿二日昼休清王村、同御泊

井江葎村、同廿三日御昼休城村、同御泊田中々村、右之通御帳面
雑用錢請取申由村々判形仕候

一 権右衛門廿日二鯖江へ参昨廿二日二罷帰、今日村々庄屋長百姓呼
寄、去未御年貢金納下り之分七月晦日切二皆済可申之処、遅納仕
候段不届千万二候、依之当廿八日切・九月五日切二皆済可仕候、
若右両度ニも皆済不仕候村ハ急度可被仰付由、堅被仰付候段委細
申渡、右式切請合証文取之置候

一 田中々村門三郎と申者拾四五ヶ年以前ハ府中ニ奉公仕罷有、其内
府中ハ欠落仕候ニ付、切米・借銀等迄請人同村奥左衛門相弁相済、
門三郎義侘言を仕御構無之様ニ仕、門三郎ハ夫ハ直ニ江戸ニ罷有、
持高五石と妻ふく義ハ奥左衛門ニ預ケ置候間、介抱被致被下候様
ニと門三郎書状有之由、然処妻ふく外へ縁付申度由ニ而^(持高カ)□□ハ村
へ指上、其身ハ我かま、可成由申候得共、門三郎方之埒明不申内
ハふくを縁付候事も難成、又持高も村へ相渡候事も成間敷由与右
衛門申出候ニ付、持高・ふく共ニいか様ニ可仕候哉と門三郎方へ
書状遣し、其返事次第ニ可仕候、ふく義ハ嬪同前二候へハ一日過
之義いか様共可仕候、門三郎方ハ返事参候迄縁付候事ハ成間敷候、
持高^(之)□□義も先只今迄之通ニ仕、返事次第ニ可□□仕候哉、其上ニ何
角申分有之候ハ、以書付申上候様ニと申渡し候

同廿四日

同廿五日

一 昨廿四日久野右衛門様・武知右衛門様田中々村御立

同廿六日

一 当廿三日之夜之大風ニ而村々田畑立毛痛申由方々ハ注進ニ付、為
惣代自分方ハ口上書を認、園右衛門様指上申候得ハ御返事被遣候、
次ニ最前被仰付候御年貢金納下り之義、来五日迄ニ皆済仕候様ニ
可申付候、右日切ニ相済不申候へハ牢舎被仰付候旨被仰越候ニ付、
村々へ配符ニ而委細申遣し候、御返状有

同廿七日

八月廿八日

同廿九日

一 田中々村又九郎と申者、右ハ与右衛門申出候門三郎□□之義、先祖
ハ割出し候高之義ニ候得ハ請取申度由申出候ニ付、此高之義本主
門三郎方へ与右衛門方ハ書状遣し、其返事を以埒明可申義ニ候へ
ハ、其方取候へとハ難申段申聞候へハ何角と申ニ付、出入可仕と
の事ニ候ハ、以書付庄屋長百姓同道ニ而可参候と申渡し候

同晦日

一 田中々村与右衛門申来候ハ、門三郎妻ふく義縁付申事成間敷由申
聞候へハ、高を支配仕跡々之通ニ家を立可罷有由申候旨申ニ付
跡々之通ニ可仕と申出□□□□此方ハ何と可申^(様)□□も無之、其方とて

も申分有間敷事□存候と申聞候

九月一日
猪嶋組御移り之積
後山組

高何ほと 何村 庄屋たれく

道法何ほと

高何ほと 御普請所何々有

何村 庄屋たれく

右之通坂井郡村々御検見御廻之村順・道法・御普請所・高付・庄屋付、右案文之通相認御着之刻持参可仕由、沢右衛門・園右衛門様を被仰越候、次ニ御年貢金日切請合之通無相違相済候様ニと委細被仰越候ニ付、其趣村々へ配符ニ而申遣し候、御配符ハ有

同二日

同三日

一宮谷村与次右衛門今晚牢を破欠落仕候段御配符、今日申之中刻ニ鯖江之飛脚持参仕候ニ付、宮谷村へ早々参候而細呂木口・牛屋口・市野々口へ山竹田口御番所へ人足式人ツ、遣し、与次右衛門一門共方へも人足式人ツ、尋ニ遣し、義太夫二人足四人指添暮六ツニ罷出鯖江へ参候、御配符有

同四日

一久野右衛門様を日損帳早々指上候様ニと御配符被遣、請取有

一笹岡村清右衛門高之義ニ付、同村宗右衛門と前谷清左衛門出入有之候ニ付、善右衛門・茂右衛門・拙者共ニ罷出扱申様ニと鯖江を被仰越候、宗右衛門□茂右衛門甥、自分義ハ清左衛門と不和ニ候へハ、□扱取寄相談可仕様無之由茂右衛門被申二付、自分義ハ組下之事ニ候へハ罷出可申事ニ候得共、右之品ニ候へハ何共相談しまり申間敷候、其段鯖江へ被仰上可然候哉と申候

覚

九月二日夜牢破人躰書坂井郡宮谷村与次右衛門

□年四十一 但年若ク相見へ候

一さかやき 長髪

一たけ 中ノ男、但たてかつこつこうなり合候

一かほ 四角を少長クいろ白

一ひたい付 ひろく

一まゆも厚クしりたかニて

一目大キニして丸眼、黒目かち

一はな筋とをり

一口大躰、口ひる少あつく

一も、をすねまで毛有之

一ぬのこ巻(布子)ツ

但はな色めひき小もんの様ニ而古、おもてうら古つき切レニ而ねすミ色の様ニ候、(碁盤)ごはん嶋の半ゑり有之「」きの筋ニ而はな

色「」かたひら壺ツ

但こいねすミちやうし、小もんの様ニ而候へ共小もん品相不知候

一 つき立候半あわせ壺ツ

右与次右衛門義、夜前牢ヲ破候てかけおちいたし候、其村々堂宮

などニ隱罷有候も難斗候間寄々相尋、右人躰書之様成者有之ハ、

乞食之由申とも其所ニ留(置候カ)□□て早々陣屋へ注進可申候、以上

九月三日

御役所カ

後山組村々

前谷組村々

一 園右衛門様カ宗旨帳・諸遣帳早々一兩日之内ニ指越候様ニと被仰

越候、次ニ宮谷村与次右衛門義ニ付方々口々へ人を付置候様ニと

被仰越候、御配符有

九月四日

同五日

一 井江葎村・十楽村御普請仕懸候由断ニ付、右之村々へ罷越様子見

分仕候

同六日

同七日

一 十楽村御普請大方出来ニ付、沢右衛門様御越被成候而御見分被成

候

同八日

一 申年宗門御改帳、寄共ニ式拾冊

一 未年役割帳拾八冊

外笹岡村役割帳出来不申、其御断申上候

右之帳武知右衛門様御請取手紙有

一 未御年貢名寄帳拾八冊、外笹岡村帳面出来不申候ニ付其御断申

上候

右之帳面園右衛門様へ指上申候

一 申夏日損帳拾九冊

右之帳面久野右衛門様へ指上申候

同九日

一 沢右衛門様十楽村・井江葎村御普請所御見分被成候而、今日御帰

り被成候

同十日

一 其組下村々御年貢納下り、最前も申渡候通今月五日過不足之

村々者、且那御着御詮義被成候迄牢舎可申付置候得共、此節百

姓共鬪敷時節ニ付先其通ニ指置候、御着も来ル十四五日頃ニ相

究候、村々巖敷被申付御着以前相納候様ニ急度被申渡候、且那

御詮義請不申候様ニ可然候、村々カ少分納下り有之候共御詮義

逢間敷候、去頃各へ委曲申渡候へ共、いか様に庄屋共ニ被申付候哉、其後一切不相納候、此節陣屋無手透候段存知之事ニ候へ(共カ)
□八面々組下無油断相納させ可被申処、畢竟其方達疎略之仕形ニ候、納下金御詮義之砌各とても不念之筋遁間敷候条、毛頭油断有之間敷候、以上

九月十日

西谷武知右衛門 印

斎藤久野右衛門 印

尾花園右衛門 印

舟寄村

大庄屋善右衛門殿

前谷村

大庄屋次郎左衛門殿

後山村

大庄屋平助殿

追而此手紙被致披見順々ニ可被相廻候、尤村々へも写附配符にて被相廻無油断可被申付候

覚

一能登国巡見来ル十一日迄ニ御仕廻、十四日・十五日両之内鯖江御着之積之由、去十日之御書昨夜致到来候条其心得可有之候、先達而案内候様ニと約束付如此ニ候
一例年之通定而今年も舟寄ニ御泊り可被成と存候、善右方其心得ニ而支度可被致候、爰元々迎之衆誰ぞ十二日之晚舟寄迄可相越候、其節為談諸事可申演候、不図幸便付匆匆如此候、以上

九月十日

山本沢右衛門

善右衛門殿

平助殿

次郎左衛門殿

追而各々一覽之上早々被相廻候而、追而我等方御返可給候、以上
右式通之御配符舟寄も参候を後山遣し候

申御順見御廻り村付

高百三拾九石式斗六升八合

前谷村

市兵衛

四町程

高六百貳拾貳石八斗三升

笹岡村

宗左衛門

拾町程

市右衛門

高(マ、)

宮谷村

義兵衛

拾壹町程

青野木村

弥次兵衛

西方寺村

市郎右衛門

拾八町程

清王村

九右衛門

廿町程

権兵衛

赤尾村

伊右衛門

壹里程

横垣村

次右衛門

井江葭村

義右衛門

高 高

高

高

高 高

高(マ、)

砂島御普請所
 七町程
 国影村 次左衛門
 拾町程
 牛山村 弥兵衛
 二 郎右衛門
 壹里程
 城村 藤兵衛
 塩島御普請所
 新家 又左衛門
 壹里程
 西谷村 五郎右衛門
 三 拾町程 次兵衛
 舟津村 清左衛門
 八町程
 十楽村 与三右衛門
 川除御普請式ヶ所
 八町程 才兵衛
 田中々村 長兵衛
 板堰御普請所
 拾町程
 番田村 門三郎
 弥右衛門
 水溜御普請所

九町程
 高
 五右衛門
 重義村 九郎右衛門
 弥右衛門
 谷島村へ式拾五町程
 右ハ自分組下村々之書付并舟寄組之書付共ニ平助方へ遣し、三組
 壹冊ニ相認、重而鯖江へ持参候様ニと平助方へ申遣し候
 一当八日ニ御陣屋御配符ニ而被仰越候ハ、牢破与次右衛門相尋候ニ
 付、宮谷村壹ヶ村ニ而所々番人難動候ハ、近村へ申付人足等出候
 而、宮谷村之者ハ目明壹人ツ、指添、外□之者式人程ツ、遣し候
 様ニと被仰越候□付、其段宮谷村へ申遣し候得共返事不申来候ニ
 付、又今日申遣し候
 一当八日ニ後山村権左衛門方ハ、八月十一日ハ同晦日迄舟寄村へ出
 人足百五拾六人分之与内銀遣し被申候処、内式人人足相違有之候
 由被申越候、重而舟寄村留帳村々出人足吟味之上埒明可申事ニ候
 一銀式百七拾三匁 後山権左衛門請取
 此人足百五拾六人 権右衛門手形相渡候
 一当九月十一日ハ同晦日迄毎日八人ツ、舟寄へ人足出申様ニと、後
 山村権左衛門・舟寄村善右衛門方ハ被申越候ニ付、右拾六ヶ村高
 割ニ仕、毎日可出人足割付村々へ書付申候、村々へ割付之留右
 両人方へも遣し申候、若人足増減之事有之候ハ、明日之義ニ候ハ
 、其次之村へ早々被申遣可被下候、明日之事を今夜おそく此方被
 申越候而ハ其末之村へ相届不申、人足候へハ費ニ成申由申遣し候

一 笹岡村清右衛門田地之義二付同村宗右衛門と前谷村清左衛門出入有之二付、舟寄村善右衛門・後山善右衛門・拙者共扱二罷出候様

二と被仰越候二付、右両人之衆昨日を被参候二付今日笹岡村へ罷出候

一 明十二日舟寄村へ出人足入不申候間、出シ申間敷由申越候二付、明日人足出し申村々へ申遣し候

九月十一日

一 笹岡村清右衛門田地之扱相濟不申候二付何れも罷歸り候

同十二日

一 明十三日舟寄村へ詰人足八人之内四人出申間敷由、権左衛門方より申来候二付、忝人牛山村・忝人舟津・忝人十楽村二出し不申候様

二と申遣し候

同十三日

一 人足役権左衛門・吉右衛門方より明十四日出人足無用之由申越候二付、番田・重義村・田中々村へ早々無用之由申遣候、右両人方より重而申遣候迄人足出申事無用之由申来り候

一 殿様当十二日二能州四町村後発駕□、明十四日舟寄村御泊り之由善右衛門方より被申越候二付、村々庄屋中明十四日五ツ二、よめおとしへ罷出候様二と申遣し候

同十四日

一 殿様能州より御発駕二付沢右衛門様御迎二御出被成候二付、前谷組村々庄屋・後山組村々庄屋・我々共二忝本松茶屋□罷出御目見仕、夫より我々斗舟寄村へ御供仕候

一 去御未進金皆濟不仕候義我々共二不届之由段々被仰聞、沢右衛門様被仰渡候者、「一切二急度皆濟仕候様堅申渡し候様にと被

仰付候

一 舟寄村へ詰人馬出申間敷由被仰渡候

申年御検見御廻り村付指上候留

川上 御泊 後山 清滝

鎌谷 柵 南正田

里竹田 玄女 御油田

宮領 田嶋 河和田

伊井 清間 御泊 前谷

笹岡 宮谷 青野木

西方寺 清王 赤尾

横垣 井江葎 国影

牛山 御泊 城・新家・西谷三ヶ村御見□

舟津 十楽 田中々村

番田 重義 谷島

宮前 藤沢 上新庄

徳分田 大針

中島

北横地 御泊 舟寄

右之通書付指上申候

一 柿原西方寺村十右衛門・善兵衛・七右衛門・五十郎、右四人滞候

段市郎右衛門断候間、吟味仕候様ニと園右衛門様御配符、当十

二日之日付漸今日西方寺村十右衛門方持参仕候

九月十五日

一 今朝舟寄村御発駕ニ而鯖江へ御入被遊候、舟寄村ニ而御暇乞申上
罷帰り候

同十六日

〔二〕 栗毛三才馬壺正

青野木村 弥次兵衛

一 河原毛三才馬壺正

同人

一 黒毛三才馬壺正

同村 安右衛門

ノ三正 髮切

右ハ板取口通り手形奥判之手形出し候

一 宮谷村与次右衛門欠落ニ付、加州道筋口々ニ付置候番人不残引

申様ニ可被申越候、最早越前ニ罷有間敷与存候、番人早速罷帰

候様ニ可被申付候

九月十六日

尾花園右衛門印

二郎左衛門殿

右之通宮谷村へ早々申遣し候

何村

一金何拾何両何匁

未進

此訊

高何拾何石何何と

何両何匁何印

何左衛門印

高何拾何石

何両何と何印

何右衛門印

右之通未御年貢納下り、人別ニ記シ指上候通相違無御座候、右御
未進金今月何日迄ニ急度上納可仕候、以上

申九月十八日

何村庄屋 何村庄屋 たれ印

同村長百姓 同村長百姓 たれ印

御役所

同断 同断 たれ印

右之通帳面横帳ニ仕立来廿日其方可有持参候、以上

九月十六日

西谷武知右衛門印

前谷村大庄屋

二郎左衛門殿

斎藤久野右衛門印

右之外委細書付被遣此方ニ有

一 武知右衛門様馬之鞍・小道具共ニ早々遣し候様ニと被仰越候

右之通被仰越候ニ付明十七日庄屋中被参候様ニ申遣候

同十七日

一 組下村々庄屋長百姓呼寄、御未進金当月之内相済可申候哉、若相

済申事成不申候村八廿日ニ鯖江へ参候様ニと〔申〕渡し候へハ、小百

姓吟味之上明後日返事之上二而可申渡由二候

一金四兩壹分

前谷村

一銀拾壹匁六分五厘、西方寺村十右衛門去暮市郎右衛門二相渡し候

内 貳兩壹分

十月十三日

銀子、さん用二立不申候由十右衛門断二候

内 貳兩

同十八日

一申八月十一日〆同晦日迄御所替二付舟寄へ諸人足日用、村々出人

一金拾八兩三分

笹岡村

足と舟寄村二而人足帳と引合日用銀相渡候、村々判形取申候

内 九兩三分

同十三日

一西谷村御廻米代銀、境屋甚右衛門方〆度々断有之由、并出村新屋

内 九兩

同十八日

三郎左衛門方〆貸金之義二付断有之二付、其段申渡し候

一金拾四兩壹分

宮谷村

一宮谷村庄左衛門并欠落与次右衛門□先在所へ御返し被成候、庄

内 七兩壹分

同十三日

左衛門義者手錠被仰付候間五人組之者二御預り、十日二一度宛

内 七兩

同十八日

封印改二罷出候様二申付候、尤庄左衛門預り候段手形申付□□

一金拾九兩

青野木村

而此方へ可被指越候、以上

内 拾兩

同十三日

九月十七日

尾花園右衛門印

内 九兩

同十八日

前谷村二郎左衛門殿

一金五兩

清王村

右御配符宮谷村〆持参申候

内 三兩

同十三日

九月十八日

一金壹兩貳分

西方寺村

一武知右衛門様御檢見二御出被成候二付、階具貸候様ニと鞍・轡・

内 三分

同十三日

手綱・鐙・あかり・小道具共二不残為持参鯖江へ遣し候へハ、御

内 三分

同十八日

請取被成候由御返事被遣候

一金八兩三分

赤尾村

同十九日

内 四兩三分

同十三日

同十九日

内 四兩

同十八日

覚

一金七兩

牛山村

一金三両三分	内 四両	同十三日	
	内 三両	同十八日	横垣村
内 式両		同十三日	
壹両三分		同十八日	
一金貳拾壹両貳分			井江葭村
内 拾壹両		同十三日	
拾両貳分		同十八日	
一金拾貳両			国影村
内 六両		同十三日	
六両		同十八日	
一金貳拾壹両			重義村
内 拾壹両		同十三日	
拾両		同十八日	
一金貳拾壹両壹分			番田村
内 拾壹両		十月十三日	昼休
拾両壹分		同十八日	
一金貳拾七両三分			田中々村
内 拾四両		同十三日	
拾三両三分		同十八日	
一金貳拾三両			十楽村
拾貳両		同十三日	

内 拾壹両	同十八日	
一金貳拾壹両壹分		舟津村
内 拾壹両	同十三日	
拾両壹分	同十八日	
一金六両		西谷村
内 三両	同十三日	
三両	同十八日	
一金九両壹分		城村
内 五両	同十三日	
四両壹分	同十八日	
一金貳分	十月十三日	新家村
ノ貳百四拾五両三分		
右者其村々当申之御年貢之内初納金割如此二候、右之金高日限無相違急度取立可持参候、若遲滞於有之ハ詮義之上急度可申付候、以上		
申九月十七日		西谷武知右衛門 印
		山本沢右衛門 印
		斎藤久野右衛門 印
		尾花園右衛門 印
		右村々 庄屋中

追而此配符披見之上金高日切写シ置、且又金高并村下二庄屋令印判早々相廻し、留り之村ハ陣屋可相返候、以上

一其組下村々当申之御年貢金納通帳并諸役入用請取通帳共二去年之通相認させ、来ル晦日迄之内陣屋へ指出候様ニ可被申渡候、以上

九月十八日

尾花園右衛門 印

二郎左衛門殿

追而右両通其方所へ取集、晦日まで二陣屋へ可被指出候
右之通村々申遣し候

九月廿日

一権右衛門御未進金請合帳鯖江へ持参仕候、并宮谷村庄左衛門五人組預り状持参申候

同廿一日

一右御未進金請合帳藤助様へ指上候処、御金之義当廿九日二拙者方へ請取鯖江へ持参仕、御指図を請候様ニと被仰付候

一当御年貢初納金を大庄屋共方請取、一村一紙之通御出し候を拙者共手前二預り置、御金と村々通と一所二指上、村別ニ御付被成候を請取置、村方へハ拙者之方を通相渡し置候様ニと被仰付候由
一宮谷村庄左衛門五人組預り手形ハ、御金番徳左衛門殿へ預ケ置候由

一殿様御供沢右衛門様ニ而、十九日二南条「」御出被遊、廿一日御陣屋へ御入、廿四日二大野郡□御出被遊、廿七日二後山村迄

御越可被遊由

一小検見衆久野右衛門様・武知右衛門様十九日二松ヶ谷へ御越、夫を大野郡を坂井郡へ御越可被成由二候
右ハ権右衛門罷歸候而右之通承候

同廿二日

一村々庄屋中呼寄候而、御未進金少も無不足当月廿九日切二取立、皆濟候様ニと堅申渡し候
一当九月十一日・同十三日、舟寄村詰人足「」拾壹匁、後山村権左衛門を請「」出人足村々へ相渡、最前権左衛門方「」請取候人足賃銀、一紙手形二村々庄屋判ニ而権左衛門方へ相渡し申候

九月廿三日

覚

一馬五疋
式疋ハ 荷物附送候
内式疋ハ からしり馬
壹疋ハ 皆具
一人足八人
四人ハ 御長持
内 式人ハ 合羽籠持人足

老人ハ 坪竿升持人足

老人ハ 沢右衛門雨具持人足

右者当秋御巡見来ル十九日ハ南条郡へ御出、松谷組ハ猪嶋組御廻、廿七日・八日之内後山組へ御越之積ニ候間、迎之人馬後山ハ鳴鹿迄可被差越候、尤滞候儀有之候ハ、大野郡ハ案内可申遣候

一 駕籠人足・旅籠代ハ一泊老人ニ付七拾文宛相究候、大庄屋方ハ相払候而当冬郡中割ニ入可申候

一 右之者わらし代も宿ニ而相渡候、員数相改代銀相渡候而是又郡中割ニ入可申候

右之通可被相心得候、我等御供ニ而相越候間其節可申談候、以上

九月十八日

山本沢右衛門印

善右衛門殿

平助殿

次郎左衛門殿

右之舟寄村へ遣し申候(マ、)

一 御検見御道筋見分ニ村々へ罷出候

同廿四日

同廿五日

一 久野右衛門様・武知右衛門様小検見ニ今日舟寄へ御越被成候ニ付、

権右衛門舟寄村へ参候而御廻り村付被遣候

九月廿六日徳分田村ニ御泊り、同廿七日宮前村ハ十楽村へ御越、田中々村御泊り、同廿八日番田・重義・横垣・井江葭・牛山・国影、舟津村御泊り、同廿九日西谷・新家・城・赤尾・清王御泊り、同晦日西方寺・青野木・宮谷・清間・伊井・笹岡、前谷御泊り、朔日柵村へ御越、右之通村々へ申触候

一 銀七匁吉左衛門ニ当座かし

同廿六日

一 殿様明廿七日大野郡ハ後山村へ御越□泊り之由、人馬後山組ハ鳴鹿迄御迎ニ参候

同廿七日

一 大野郡ハ御移り後山村ニ御泊り被遊候、後山組ハ鳴鹿迄御迎之人馬出し候

一 久野右衛門様・武知右衛門様宮前村ハ十楽・田中々村・番田御検見被成、才兵衛方ニ御泊り被成候

一 十楽村庄屋長百姓明日前谷村迄参候様ニと被仰付、前谷村ハ夜通シニ人足式人ニ而参候

同廿八日

一 殿様後山村ハ御出、同与下村々不残御廻り被遊、清間村・前谷村

を私宅へ御入「」

一 右御兩人御検見衆重義・井江葎・横^(垣)・牛山・国影、舟津村二御泊り、但御「」御泊宿を弁当持出し、御宿弥次兵衛

九月廿九日

一 殿様私宅より御出、笹岡・宮谷・青野木・柿原西方寺・清王・赤尾・井江葎・横垣・国影・牛山・舟津・十楽御廻り、与右衛門方
二 御泊り、但御上下拾五人、雑用・木錢共二銀貳拾匁六分、前谷村御泊り之分御渡請取候、御昼休井江葎村、御弁当宿を持出し、
右之雑用之内二而

一 十楽村畑之内へ金津川筋掘替申度之由宮前村を願候二付、掘替之場所□所立候様二と宮前村へ被仰付、川筋之様子掘替之場所御見分之上、掘替願之所相違無之様二善右衛門・拙者立合、不動物を宛所二仕書付置候様二と被仰付候、但拙者老人二被仰付候ハ、十楽村・布目村立合之水圍堤切候へハ、水損仕候村々絵図仕、領知付・高付仕指上候様二と被仰付候

一 小検見衆西谷・新家・城村・赤尾・清王九右衛門方二御泊り、弁当御宿を持出し候

同晦日

一 殿様十楽村を田中々村・番田、重義村を中番村渡舟を谷畠村へ御越、舟寄村宗右衛門方二御泊り之由

一 小検見衆清王・西方寺・青野木・宮谷村・伊井・清間・笹岡・前谷御見分候而、自分方二御泊り被成候

十月朔日

一 小検見衆大雨二付御逗留被成候
一 村々未進金今日を請取申候
□造酒之証文村々判形取申候

同二日

一 小検見衆御上下四人・日数二日分^(櫛)之雑用銀七匁五分御渡被成候而請取、今日御立□・鎌谷村を後山村御泊り之由
覚

一金八拾三匁三分 未御年貢金
一 銀貳拾五匁叁分三厘 右之包賃
右ハ未御年貢金預り申候、鯖江御陣屋持参仕候、以上

十月二日

市右衛門(印)

一 来七日昼時分御役所へ罷出候様二と御配符沢右衛門様を被遣候
一 西谷村田畑位付之義、新酒御停止之御触状之事、久野右衛門様・武知右衛門様を被仰越候御状有
一 殿様今朝舟寄村を御立被遊候由

同三日

一青野木村日損帳今日持参仕色々断申二付、御兩人様宮領村ニ御泊りニ付御断申上候

一十楽村畑之内宮前村の川掘替願之場所

一川上者十楽村石出シ、土手際之杭の願之場所川中迄三間壹尺五

寸、但六尺竿二而

一川下者十楽村水門西男柱の願之場所川中迄三拾間、右同竿二而

右之通立合相改申候

宝永元年申十月三日

前谷村大庄屋

次郎左衛門 印

舟寄村大庄屋

善右衛門 印

御役所

右ハ善右衛門・拙者相改置候様ニと被仰付候ニ付今日相改、右書付御役所被指上候様ニと申、善右衛門ニ相渡し申候

同四日

一昨日前谷村市右衛門鯖江へ持参仕候八拾三兩三分之金之内、壹兩

壹分番田村悪金、壹分宮谷村悪金、壹分横垣村悪金ニ而返り候、

残而八拾式兩園右衛門様へ指上御手形請取、右包賃銀相渡し申候、

指引右之通ニ而相違無之候

十月五日

一十楽村・布目村立合水圍の水込候拾ヶ村図、昨日仕立申候

一御未進金之義早々皆済仕候様ニと園右衛門様御手紙有

一銀五匁五分七厘

一銀式拾四匁九分

一銀式匁壹分八厘

内壹匁壹分十右衛門の入

一銀五匁三厘

一銀式分六厘

一銀式匁五分四厘

一金式兩銀拾匁七分五厘

一金式兩銀拾三匁式分七厘

同六日

一鯖江へ御用之由被召寄候ニ付参候

一金三兩

一金式分銀七匁五分

一金三兩式分銀三匁九分八厘

一金四兩壹分

小以金拾壹兩壹分銀拾壹匁四分八厘

包金ニ而預り置候

一金拾兩銀拾匁壹分

一金式兩銀四匁五分五厘

一金壹兩壹分銀式匁九分六厘

一金式兩銀拾匁七分五厘

一金式兩銀拾三匁式分七厘

前谷村

笹岡村

西方寺村

城村

新家

西谷村

田中長兵衛手形渡

中村才兵衛手形渡

十楽村

西谷村

青野木村

舟津村

笹岡村

舟津村

西谷村

田中

中村

中村

田中

西谷村

舟津村

笹岡村

一金拾兩壹分銀拾四匁八分七厘 十楽村
 一金拾貳兩壹分銀四匁五分七厘 番田村
 一金拾七兩三分銀九匁三分三厘 重義村
 小以金五拾八兩貳分銀四分
 右之通書付指上申候

前谷組私領近所村々

〔(松平吉明・福井藩主)
 松平兵部太輔様御知行所

右同断 權世村山境 前谷村
 右同断 同村・熊坂村 笹岡村

(松平頼方・葛野藩主)
 松平主税頭様御知行所

(有馬清純・丸岡藩主)
 有馬大吉様御知行所

松平兵部太輔様御知行所 滝村 青野木村
 柿原村 西方寺村

右同断 柿原村・北金津 清王村
 右同断 北潟村 赤尾村

右同断 北金津町 横垣村
 右同断 北金津町 重義村

(松平頼職・高森藩主)
 松平内匠様頭様御知行

右同断 二面村 牛山村
 右同断 二面村 国影村

有馬大吉様御知行所 二面村 舟津村
 平山村・嵩村 西谷村

松平兵部太輔様御知行 城村
 北潟村
 有馬大吉様御知行所
 波松村

右之通書付沢右衛門様へ指上申候

十月七日

一大庄屋共不残御前へ被召出、当申ノ年御年貢本途米不残来春御廻
 米二被仰付候由被仰渡、御書付御渡写置候、同年御年貢大庄屋共
 取立候様ニと御書付を以被仰付其趣写置候

一右去未進相濟不申候村々、早々庄屋長百姓呼寄候様ニと園右衛門
 様被仰付、鯖江清兵衛方々人足ニ而重義村迄自分はいふ遣候

同八日

一大庄屋共相談ニ而右御廻米之義ニ付願状指上申候

同九日

一銀五拾九匁三分 十楽村々先日取かへ銀相濟

一金壹分半切札百八匁 番田村かし金之内重而指引可仕候

一銀六拾三匁七分 重義村先日かし銀請取濟

十楽・番田・重義此三ヶ村未御年貢未進金之義、色々御断申上来
 十一月十日切ニ指上申度旨、村々願状ニ自分請負與判取、証文沢
 右衛門様へ指上候

一十楽村畑之内宮谷村々北金川筋掘替申度由願ニ付、布目・十楽境

目水圍堤へ水先馳付候二付、堤二候へハ是下十楽・布目・舟津・池上・加戸・覚善村・三国・滝谷・竹松・水居拾ヶ村水入成候段、村立田地形絵図仕指上候様ニと被仰付候二付、絵図并右拾ヶ村之高付共二三通沢右衛門様へ指上候

同十一日

同十二日

同十三日

一 来酉春御廻米之義ニ付訴状指上候得ハ、訴状ハ御納可被遊候得共、村々惣百姓共ニ然と申聞得心仕候段、大庄屋共請負之御取可被遊由二候へハ、立歸り村々へとくと申聞候様ニと被仰渡候二付、先罷歸り当廿四日ニ御返事可申上之由申上候

一 当御年貢初納金之義訴状指上候得共、江戸へ御歸り前ニ高百石ニ金式両ツ、取立指上候様ニと被仰付候、奉畏候

一 久野右衛門様へ与下村々免相心覚之段々書付指上候、留書有

一 造酒御法度之証文沢右衛門様へ指上候

一 自分義年寄候二付、御用事五度ニ三度ハ権右衛門遣し相勤させ申度候、殊ニ御馴有之候御代官様・御役人様御支配之内ニ罷出、相勤させ申度由奉願候得ハ、何□御役人衆へ其段申上、願之通ニ仕候様ニと沢右衛門様被仰渡候二付、藤助様其外へも御断申上候

十月十四日

一 近所村々今日私宅へ呼寄、右之段々不残申渡判形取申候

一 宮谷村庄左衛門手錠之義、其上欠落人与次右衛門跡式之義、御鏡

二 当十六日鯖江参度由申二付、十六日之日付ニ而庄左衛門義共沢

右衛門様迄申上候、書状茂兵衛方へ遣し申候

十月十日

一 高式斗式升六合、舟津村郷藏敷「」一 訳不相知候間、其村庄屋
二 其村庄屋ニ承届、早々以飛脚申越候様ニと久野右衛門様・武知
右衛門様御配符被遣候二付、早々舟津村へ申遣又御配符之訳、舟

同十五日

津村の御返事申上候

一 高拾七石七斗八升三合 笹岡村武兵衛持高

内八石八斗九升壹合五勺 卯春も未之暮迄五年季

八石八斗九升壹合五勺 午暮壹作質書入

右之通相極前谷村清左衛門方へ質物二入(置候力)□□二付、去申暮指引算

用仕証文書かへ□度と度々清左衛門方へ相断候へハ、取込候間春

之事二可仕と被申候二付其通二仕候へハ、当春二成証文書かへ申

度と申候へハ、年内流申高二候へハ証文書かへ可申事無之と被申

候而、理不尽ニ田畑打開被申候段、先日も鯖江訴状持参申候得共、

御取込ニ而御取上ケ不被遊罷帰候由武兵衛断二付、重而園右衛門

様へ御手紙指上申候

申御年貢初納金高百石二式兩宛

一金貳兩三分 前谷村

一金拾貳兩貳分 笹岡村

一金九兩貳分 宮谷村

一金拾貳兩三分 青野木村

内七兩 弥次兵衛

三兩貳分 五十郎

貳兩壹分 九右衛門

一金壹兩 西方寺村

一金三兩貳分 清王村

一金六兩 赤尾村

一金貳兩貳分 横垣村

一金拾四兩貳分 井江葭村

一金七兩壹分 国影村

一金四兩三分 牛山村

一金四兩 西谷村

一金拾四兩壹分 舟津村

一金拾五兩貳分 十楽村

一金拾八兩三分 田中々村

一金拾四兩壹分 番田村

一金拾四兩 重義村

小以金百五拾八兩壹分

外

一金九兩壹分 城村

一金貳分 同新家

此城村・新家ハ右御割付之通

右村々高百石二金三兩宛最前御割付候得共、庄屋中訴訟ニ而、百

石二式兩宛之分御立前ニ取立指上申様ニと被仰付候、右之通先日

村々へ申付候

同十六日

一当夏用水之義ニ付南金津へ馬場・新用兩村水論之義、大連水為引

様之義ニ付不禄之族有之様ニ右兩村より訴訟有之候間、大連手前

水為引之段々御吟味可被成由、葛野之御役所へ被仰付候二付内々

上関村次兵衛を以御断申達候処、其段次兵衛を以御聞届様ニ被仰

付候ニ付、御断御礼方ニ葛野へ参候処、奥野武兵衛殿へ御意得候而、大連所存ニ不祿之義ハ無御座候へ共、水を引申義ハ其日之品ニ依存之外田数多引申義も有之、又少分引申事も候へハ、其日仕合悪敷少分水懸り申義ハ、大連仕業之様ニ申なし候事有之候趣委細ニ申上、其上先年福居一等之御領知之節渴水之事有之候へハ、御郡所お小奉行・用水奉行等御出被成候而、大連立合候而水為引申候処、只今大連老人として水を宛申事ニ候へハ行不届事も可有御座候、此義ハ御了簡被遊可被下候と段々申上候へハ、然上ハ聞届大連手前構申義も無之候、然上ハ大連手前吟味不仕候段大宮茂富右衛門殿へも可被仰遣御申ニ付、如何様共御了簡次第と申上罷帰下カり候、自分并召連候小者・籠之者共ニ御料理被□色々御懇意ニ而御暇乞申上候

十月十七日

一 葛野お三国迄罷帰り候

一新酒御法度之御書付被遣候、則園右衛門様御手紙共ニ被遣請取申候

同十八日

同十九日

同廿日

同廿一日

一 未ノ年御口米代金・申御年貢金取立申候、并新酒造之御法度証文村々判形取申候

一 宮谷村義兵衛、同村与次右衛門義跡式如何様ニ可仕候哉と窺ニ当十七日ニ鯖江へ参候処、段々御尋ニ而書付指上候由、同村庄左衛門手錠御免被遊候由被仰渡、昨日義兵衛罷帰り候

一 笹岡村武兵衛訴訟鯖江へ持参仕候へハ、庄屋を以訴状指上候様ニと被仰付候由

同廿二日

一 笹岡村御口米代金・当初納金共持参不仕候ニ付申遣候

一 舟津村御口米代金持参不仕候ニ付申遣候

一 同村清左衛門と作右衛門と高出入之訴状指上申度由清左衛門申ニ

付、作右衛門・喜藏呼寄候而段々申聞候得共下ニ而相濟不申候

一 銀壹匁六分五厘 宮谷村包賃かし

一 銀貳分三厘 番田村弥右衛門包賃

覚

一金六拾壹兩三分銀七匁三分九厘 未御口米代

一金七拾壹兩貳分 申御年貢金かし

ノ金百三拾三兩壹分銀七匁三分九厘

外銀四拾匁 右之包賃銀

銀拾貳匁遣銀ニ渡

右之通權右衛門ニ相渡、明日鯖江へ為致持参候

外

一金六両壹分銀四匁貳分五厘 舟津村

未御口米代金

一銀壹匁九分

右包賃銀

ノ金六両壹分銀六匁壹分五厘

右之金子権右衛門ニ相渡し申候

一西方寺村十右衛門・善兵衛・七右衛門・五十郎此四人、御年貢

金市郎右衛門ニ相渡し申間敷と申二付、段々口書取置申候

同廿三日

一権右衛門鯖江へ参候二付、右書付之御金并新酒御法度之御書付、

宮谷村与次右衛門義二付同村庄屋長百姓書付式通持参申候

一舟津村去未ノ御口米代銀之義二付、清右衛門并二庄屋長百姓口書

取被置候

一西方寺村右四人之者共、去未ノ御口米代銀八匁貳分壹厘市郎右衛

門と算用相有之候二付、相納申間敷と申二付、御口米代銀御年貢

其外役割銀等ニ無御構漸十月十四日ニ申渡、廿一日ニ取立申事ニ

候へハ、異論有之事ハ重而吟味共此銀子を何角と申候事難心得候

間、口上書指出申様ニと申渡候へハ、此御銀相済可申と申二付而

請取申候

十月廿四日

申初納金村々不足之覚

一金七両三分

笹岡村

一金四両

宮谷村

一金三両貳分

青野木村
弥二兵衛

一金貳分

西方寺村

一金六両貳分

井江葭村

一金壹両三分

国影村

一金壹両

牛山村

一金四両三分

城村

一金貳両壹分

西谷村

一金六両壹分

舟津村

一金拾三両貳分

十楽村

一金拾六両三分

田中々村

一金拾三両貳分

番田村

一金拾四両

重義村

小以九拾六両

同廿五日

一西方寺村十右衛門、同村市郎右衛門・太郎兵衛・五郎左衛門此三

人貸方相済不申候二付、当春訴状指上返答被仰付候得共、于今御

了簡無之候二付願ニ参度由十右衛門申来り候二付、園右衛門様迄

口上書十右衛門ニ相渡し候

一 笹岡村武兵衛、前谷村清左衛門と高出入訴状尅通、同村清右衛門
右清左衛門と高出入訴状尅通指上申度由二而、庄屋宗左衛門同道
二 而鯖江参候段相断候二付、園右衛門様へ口上書指上申候、并笹
岡村宗右衛門と右清左衛門と田地出入当夏を訴状指上置候由、是
も御聞被下候様ニと願候段申上候

同廿七日

同廿八日

十月廿九日

十一月朔日

一 右十楽村を指上候絵図并十ヶ村高付之書付段々被仰付承届候

同廿六日

同二日

一 権右衛門鯖江を罷歸り候、持参仕候金之内

一 鯖江を罷歸り候

金六拾六両貳分銀尅

未御口米代、園右衛門様御手形

同三日

金七拾両三分式朱

申御年貢金織右衛門様・沢右衛門様御通

一 我等方々村々へ相渡候仮通鯖江ニ而御改印被成候二付、仮通預り
申二付手形渡候覚之事

残 金貳両貳式朱 村々悪金請取

一金四両三分 笹岡村宗左衛門

右之通指引相濟候

一金四両貳分 城村十月廿一日入

一 十楽村地内宮前村を川掘替願絵図之義ニ付御用有之候由、沢右衛
門様を被仰付候由二而昨晚鯖江を申来り候二付、自分今日鯖江へ

一金四両貳分 同十一月三日入

参候

一 鹿毛五才馬尅疋 番田村馬主権右衛門

一 来酉春夏之御廻米之義ニ付重而被仰付候御書付之写有、大庄屋中

一同毛四才馬尅疋 同

連判ニ而指上候

一同川原毛四才馬尅疋 同

一 大切成御廻米之義ニ付為名代権右衛門参候事、不届ニ被思召候由

一 鹿毛四才馬尅疋 同

被仰聞候

一 栗毛四才馬尅疋 同

被仰聞候

一 五疋 小荷駄

右ハ板取口通手形奥判仕指上候

一 かけ五才馬壹疋 番田村馬主久左衛門

一 同五才馬壹疋 同

一 黒毛五才馬壹疋 同

一 黒毛六才馬壹疋 同

一 黒毛六才馬壹疋 同

一 同六才馬壹疋 同

メ六疋 小荷駄

右同断


一 田中々村七兵衛第十右衛門かせき江戸へ参度之由願状指出し候二

付、奥判仕鯖江指上候、右留書有

一 申御年貢初納金不足之分今日取立申候、尤村々へ自分方相渡置

候かり通、鯖江二而御改印被成候二付かり通共預り置申候

同四日

 一金貳分 西方寺村十右衛門申御年貢金之内請取申候手形渡
内壹分悪金二而代金請取

同五日

一 鯖江へ御用候而今日参候

同六日

一 金壹両貳分銀八匁八分五厘 包賃銀相濟

去未御口米代銀之内園右衛門様御手形

一金四拾兩貳分貳朱 包賃不相濟

申御年貢金之内織右衛門様御通之上

一 悪金壹分 重義 一 悪金壹分 城村

一 同貳朱 十楽村 一 同貳朱 国影村

メ三分 自分代金出し上納仕候

一 田中々村十右衛門江戸へ参候願状悪敷候二付、庄屋長百姓判形取


り重而指上申等二候

同七日

一金壹両貳分銀拾三匁四分八厘

当夏権右衛門江戸へ参候節、借金指引算用殘金園右衛門様へ

返済申候

 金三拾五兩牧谷村六郎右衛門を預り、則来ル十五日迄之内返済
可申旨手形相渡し申候、此手形十一月廿七日二消

一金三拾兩申四月十三日園右衛門様を借金、此利金六兩、元利メ

三拾六兩相濟右之手形消申候

一金三拾九兩貳分銀九匁四分四厘

右者拙者組下村々去未御年貢金未□候処、此度園右衛門様御勘定

二付当日切二取立指上可申之旨、拙者判形二而園右衛門様へ手

形指上申候

一 庄屋八人二御陣屋二而御料理被下、則当申御免状御渡被下、何れ

連判請取手形指上申候

一 布目村・十楽村立合水圍堤切候へハ、水下拾ケ村田地水湛申村々
絵図指上申候、留書有、沢右衛門様へ指上申候

一 西方寺村・笹岡村ニ有之候出入共近々御聞可被遊ニ付、拙者義武
知右衛門様を以御窺申上候へハ、拙者構申義ニ而無之候間罷歸り
候様ニと被仰付候

十一月八日

一 鯖江へ罷出石田へ寄申候、前田小心老へ申、十楽・番田・重義此
三ヶ村へ金子かり申度申入候処、少心三国へ御越之由ニ而三国へ
直ニ参候

同九日

一 三国ニ而小心老右借金之義申入三拾両借可申之処、御手前ニ当
分有合候由金式拾両請取、残拾両二三日中ニ御渡可被成由、其
節右三ヶ村庄屋長百姓本証文ニ鯖江御役人衆御裏判を申請、右
式拾両之預りと引かへ可申之旨ニ而、拙者仮り預り相渡申候、
此仮手形十一月廿七日本証文と引かへ消申候

同十日

同十一日

一 重義・番^(田脱)・十楽・田中々村御未進金・初納金不足金請取并御免状
相渡申候

一 十楽村与三右衛門・田中々村才兵衛兩人へ、舟津村清左衛門・作
右衛門出入之事扱被申候様ニと申渡し候

同十二日

一 村々へ当御免状相渡申候、并御改印被成候通村々へ相渡申候
一 小心□重義・番田・十楽此三ヶ村かり金拾両、右三ヶ村本証文ニ
御役人御裏判を取、相渡候迄自分仮り預り手形を認、明十三日ニ
十楽村与三右衛門小心宿出、村五兵衛方へ預り手形持参候而拾両
之金請取、此方へ被指越候様ニと申、番田村小右衛門ニ為持与三
右衛門方へ遣申候

此仮手形十一月廿七日ニ消し候

一 黒毛三才馬壺正 髮切

一 右同断 壺正 同

メ式正

右二ツ屋口通り手形ニ自分加判仕候

同十三日

一 西方寺村庄屋市郎右衛門義此度出入ニ付不届之仕形有之、庄屋
役御取上ケ候、跡庄屋同村権兵衛ニ被仰付候間、向後入念可相
勤旨其元ニ而も尚又可被申含候、為其如此ニ候、以上

十一月十一日

西谷武知右衛門印
山本沢右衛門印

大庄屋

二郎左衛門殿

右之御書付権兵衛・市郎右衛門同道ニ而持参仕候二付、向後御取立之義市郎右衛門方之小百姓ハ市郎右衛門御金請取、十右衛門方

一金壹分 城村悪金かへ取候様ニと申権右衛門ニ預ケ候
一明十四日^(日)殿様江戸御発駕之由、鯖江彦五郎方舟寄村迄飛脚申来、其状後山へ参候

之小百姓ハ十右衛門御金請取、兩人共ニ権兵衛ニ相渡、権兵衛手

申十一月十三日迄書出帳之外指引

前之留帳ニハ市郎右衛門へ相渡し候金子ハ十右衛門手ニ而付させ、

一金四拾五両貳分半切 寄金

十右衛門へ相渡し候金子ハ市郎右衛門手ニ而付させ、金□□其

一金六両半切 自分

「^一」可仕候、此方通ニハ右兩人「^一」書いたし可相渡

一金壹分半切

候、御用之配符等ハ右兩人月番相究、見分候而権兵衛ニ其趣可申

一金貳両壹分銀九匁 十楽村

聞候、当十一月配符見候義ハ市郎右衛門相勤候様ニと申渡候、此

一金壹両銀六匁 番田村

旨重而証文取可申由申渡候

小以金五拾五両貳分半切

一笹岡村出入人、西方寺村出入人、先月廿六日へ鯖江ニ相詰罷有、

内 拾六両壹分 初納取立

当十一日・十二日ニ罷歸り候由、右兩村之此度之出入、拙者方へ

拾八両三分四匁八分七厘 未進金取立

御尋も無之候故御吟味之段々不存候

五両 当座かり金

一笹岡村宗左衛門・宗兵衛・宗右衛門・市右衛門・利兵衛参候ニ付、

三拾五両之内三拾両ハ小心へかり

市右衛門質高之田畑下シ方、利兵衛質高田畑下シ方、庄屋長百姓

九両七匁貳分 中川かり

請判ニ候故早々御年貢米相済申様ニ吟味可有候、右兩人之質高拾

外 四拾九両拾貳匁七厘

四石余御年貢金当り之分、自分方へ庄屋市右衛門ニ可相渡由申候

六両壹分拾匁四分三厘

へ共、先其通ニ指置候様ニと達而申ニ付其通ニ仕置候、市右衛門

残高之義何とそ質物ニ取候様ニと申候得共、其相談決而不罷成候

段何れも相断申候

十一月十四日

一京都愛宕山寿元御札・扇、村々庄屋数程持参ニ付預り申候、御初

一為御見送りと鯖江へ参候

尾銀請取候由感徳院方へ書状参候

同十五日

一金三兩壹分舟寄村善右衛門の請取重而当四月御預り手形を以指引可申由請取手形相渡又

一南条郡下新庄組・御陣屋附久野右衛門様御支配、戸口組・松ヶ谷組大野幾右衛門様御支配、坂井郡沢右衛門様御支配、御廻米津出し沢右衛門様、来年御普請方々織右衛門様・沢右衛門様御支配之由

同十六日

一金貳拾五兩牧谷六郎右衛門ニ渡ス、是者当月七日二三拾五兩自分預り金之内相渡、手形裏書「一」一鯖江彦五郎ニ預ケ「一」一拾兩彦五郎ニ相渡、手形□申筈之約束「一」一

一殿様江戸へ御発駕ニ付大庄屋共松森迄御見送り御暇乞罷歸り候、尾花園右衛門様江戸請込ニ而御供、沢右衛門様駿州迄御供、佐藤

代右衛門様江戸へ御供ニ候

一金拾五兩壹分半切 重義村
一札六匁四分五厘

一金六兩貳分 番田村
一札九匁

一金貳兩 十楽村
一札貳拾七匁

一金壹兩壹分 西谷村

右之通権右衛門取立、前谷村市右衛門ニ為持遣し候を請取申候

外

金五兩前田小心の請取、但自分方の金拾兩之預り手形遣し候処、

小心老御手前ニ金子有合不申候ニ付五兩被遣、残而五兩当廿日
二可被遣候由、右拾兩之預り手形小心方ニ被指置候由御状有

十一月十七日

一金拾六兩壹分初納金之内、十一月十五日ニ包、御取込ニ而御請取無之候、包賃不渡

一金壹兩壹分今日包、但包賃不渡

小以金拾七兩貳分、織右衛門へ指上通ニ付

一金拾九兩貳分、去未進之内十一月十五日ニ□、□達ニ而御請取無之候、包賃渡

無之候、包賃渡

一金貳拾兩貳分銀六匁七分七厘、去未進之内今日包申候、包ちん渡
小以金三拾九兩貳分銀六匁七分七厘

今日指上候得共、去御年貢御勘定□園右衛門様の御請取之処、

相違有之様ニ□候間村々通之上吟味仕帳面ニ付、其時右之金子指

上候様ニと織右衛門様被仰候ニ付、包賃ニ而預り置候

一当廿日の鯖江ニ而大割被仰付候ニ付、去年之通立合庄屋遣し申様

ニと被仰付候

一小番割之御年貢金高百石ニ壹兩貳分之□中の、上百姓方の年内

十二月一日・同十六日兩度ニ指上候様ニと被仰付候

一重義村当申ノ年田方早損帳人別ニ仕立、当廿四日ニ指上候様ニと

被仰付候

一今日鯖江の罷歸り候

同十八日

一 栗毛三才馬老疋 髮切 重義村 平右衛門

細呂木口通手形奥判仕候

同十九日

一 十楽村与三右衛門、明廿日ハ鯖江大割立合ニ参候様ニと申渡し候

一 来酉ノ年江戸御廻米納庄屋拙者組ハ参番ニ候故、十楽村与三右衛

門・国影次左衛門・舟津村清右衛門・田中々村勘右衛門・宮谷村

義兵衛此五人奉願候、御吟味之上此内老人被遣被下候様ニと自分

ハ書付仕、与三右衛門為持御役所へ遣し申候、留書有

一 十楽村与三右衛門納庄屋願状指上候、留書有

一 金拾両十楽村与三右衛門ニ相渡し候、是ハ牧谷六郎右衛門方ハ当

座かり之内不足金鯖江彦五郎方へ相渡、手形取返し自分判形消被

申候様ニと与三右衛門ニ申渡し候、与三右衛門「右」六郎右

□□へ書状「右」

覚

一金貳兩貳朱 前谷村

内 壹兩貳分 (二) 十一月十日切

貳分貳朱 十二月廿日切

一金拾貳兩三分 笹岡村

八兩貳分 十二月十日切

一金七兩壹分

内 三兩 十二月廿日切

四兩三分 宮谷村

内 貳兩貳分

十二月十日切

一金五兩貳朱

内 三兩壹分 十二月廿日切

壹兩三分 同村五十郎

内 三分 十二月十日切

一金壹兩三分 同村九右衛門

内 壹兩壹分 十二月十日切

貳分 十二月廿日切

一金三分貳朱 西方寺村

内 貳分 十二月十日切

壹分貳朱 十二月廿日切

一金貳兩貳分 清王村

内 壹兩三分 十二月十日切

三分 十二月廿日切

一金四兩壹分 赤尾村

内 三兩 十二月十日切

□兩貳分 十二月廿日切

一金^(三)〇兩貳分 牛山村

内 貳兩壹分 十二月十日切

内 壹分壹分 十二月廿日切

一金壹兩三分貳朱 横垣村

内 壹兩貳分 十二月十日切

内 貳分 十二月廿日切

一金拾兩貳分貳朱 井江葭村

内 七兩 十二月十日切

内 三兩貳分貳朱 十二月廿日切

一金五兩三分貳朱 国影村

内 三兩三分貳朱 十二月十日切

内 貳兩 十二月廿日切

一金貳拾三兩貳分 重義村

内 拾五兩三分 十二月十日切

内 七兩三分 十二月廿日切

一金貳拾貳兩三分貳朱 番田村

内 拾五兩壹分 十二月十日切

内 七兩貳分貳朱 十二月廿日切

一金拾三兩三分 田中々村

内 九兩貳朱 十二月十日切

内 四兩貳分貳朱 十二月廿日切

一金貳拾壹兩三分 十楽村

内 拾四兩貳分 十二月十日切

内 七兩壹分 十二月廿日切

一金拾兩貳分貳朱 舟津村

内 七兩 十二月十日切

内 三兩貳分貳朱 十二月廿日切

一金三兩 西谷村

内 貳兩 十二月十日切

内 壹兩 十二月廿日切

一金七兩貳朱 城村

壹兩三分 十一月廿九日切

内 貳兩三分 十二月十日切

貳兩貳分貳朱 同廿日切

一金壹兩 新家

内 三分 十二月十日切

内 壹分 十二月廿日切

小以金 (マ) 内

右之金子中^右上之百姓^右取立、下百姓米取散させ不申早々郷藏へ
米納可申候、来月十日^右米改「^一」

十一月廿日

一金九兩中川村半兵衛二渡、夏中預金不足之分、半兵衛手形有

同廿一日

一 笹岡村彦方(マ)同村油木冲式枚・同年貢米三表之處、前谷村二郎右衛門当申一作請ニ而作取、年貢米相濟不申候由相断候ニ付、右二郎右衛門吟味仕候へハ、前谷村清左衛門方ハ押へ申ニ付相濟不申候と二郎右衛門申ニ付、口上取置候

一 重義・番田・田中々村・十楽御ふしん所見分ニ罷越候

同廿二日

一 田中々村万四郎当申四拾歳、高拾石持候を同村小兵衛ニ七年季ニ預ケ置、江戸へかせきニ参度由相断候ニ付、願状ニ奥判仕織右衛門様へ指上申候

同廿三日

一 銀拾四匁出村二郎兵衛ニ渡、正木代銀之内

一金三分半切出村庄屋八兵衛ニ渡、式軒之屋敷之御地子金手形有

持高質物ニ書入預り申金子之事

合金拾式両三分 重義村

此質高五拾五石

合金五両壹分 番田村

此質高式拾五石

合金拾式両 十楽村

此質高五拾石

右者去未御年貢金納下り之分、此度皆濟仕候様ニと被仰付候ニ付、未進持百姓持高切高二仕、其御(高力)拙者共支配ニ仕御金指上候処、当分私共手前ニ御金調不申候ニ付、右之通拙者共持高質物ニ書入右之金子ニ預り、未御年貢金ニ指上申候、来酉ノ六月切ニ壹ケ月式分宛之加利足、元利共ニ急度相濟可申候、右連判之内金子少ニ而も滞り申候ハ、其者之質高申ノ御年貢脇借等少も付不申、素高ニ而此連判仲ケ間へ請取、現金ニ而右相定候月切急度相濟可申候、為後日質物連判証文仍如件

宝永元年申十一月十一日

重義村

庄屋長百姓

番田村

庄屋長百姓

十楽村

庄屋長百姓

右定之通相滞申候ハ、拙者方ハ致催促急度相濟させ可申候、以上

申十一月十五日

前谷村大庄屋

次郎左衛門印

右ハ前田小心老ハ村々借渡

表書之通相違有之間敷候、以上

申十一月十五日

齋藤久野右衛門印

右三ヶ村壹ヶ村壹枚之証文ニ而前田小心方ハ金子借り申候

同廿四日

一金三分 西谷村去未御年貢金之内請取申候

一金壹両 五ヶ村ハ

一金貳分 番田村々

一銀四匁 檜物屋伊兵衛二渡

一金壹分 出村二郎兵衛正木之代二渡

同廿五日

同廿六日

十一月廿七日

一重義村田方早損帳壹冊

一前田小心老三ヶ村借状三枚為持遣し候、右相渡置候我等仮手形請取不足金(拾匁)兩共ニ請取指引無之候

一京愛宕山寿元方金壹分遣し候て手形請取候

一牧谷村六郎右衛門方も預り金之内拾兩不足ニ付、十楽村与三右衛門

門ニ遣し候処、金子相渡手形返し申候を請取消候

右之通重義村人足ニ為持廿五日ニ鯖江へ遣し、廿六日ニ歸り候ニ付

如此ニ候

同廿八日

同廿九日

一壹兩貳分

笹岡村宗左衛門 (印)

一金貳分

同村 市右衛門 (印)

右八笹岡村利兵衛請田御年貢米請人ニ宗左衛門・宗兵衛・宗右衛門・仁左衛門罷立候処、右之年貢米相濟不申候ニ付此金御引取被

成候、今日ニも右之請田年貢米相濟候ハ、此金子御返し可被成由承届候

一十楽村与三右衛門当廿日ニ大割立合ニ鯖江參、昨廿八日ニ罷歸り候由ニ而、大割・組割帳面共之写等請取申候、委ハ帳面ニ有之候

一最前被仰付候当御年貢金、高百石二三兩貳分御割付初納金御取立残金之御書付被遣候、当十九日ニ割付通相違無之候、御書付有

同晦日

十二月朔日

一先月切申渡候御年貢金今日村々も請取候ニ付、鯖江大割之書付共村々へ申渡候

覚

一金三拾九兩貳合銀六匁七分七厘(分)

未御年貢金包金ニ而請取

一銀三匁 右不足銀ニ請取

一金四拾九兩貳分 申御年貢金

一金貳兩 悪金代り金ニ請取

右之御金髓ニ請取申候、明二日ニ鯖江へ指上、御手形ニ而指引可

仕候

十二月一日

前谷村 源八 (印)

一青野木村も御裏判願手形式枚

一横垣村庄右衛門義ニ付庄屋願書付

一未ノ御年貢村々通式拾七枚

一同園右衛門様御手形五枚、留書有

一同御口米代金園右衛門様御手形式枚、留書有

右之通源八二相渡織右衛門様へ指上候、明二日二鯖江へ参候様二
と如此二候

同二日

一福居頼母子講湯谷屋清次郎取番二而自分罷出候、来酉ノ年八吉野
屋仁左衛門取番之筈二候

同三日

同四日

一金三拾九兩貳分銀九匁七分四厘、右包金二而指上、十一月七日二

園右衛門様へ指上候、自分手形御返消申候

一申御年貢金四拾九兩貳分御請取通帳二付

一去未ノ御年貢金園右衛門様御手形五枚、御口米代金手形式枚、皆

濟状式拾通御請取被成候由、村々へ御渡被成候通式拾七枚、壹村

二庄屋式人有之候村々通寄悪敷候由二而御返し被成候、青野木村

御裏判願之手形文言悪敷候間書直させ、重而沢右衛門様御出之節

御裏判申請候様二と御返し候二付、其通青野木村へ申渡し返し候

一横垣村庄右衛門行方知不申候二付庄屋長百姓口上書指上申候、是

八村二罷有候一門之口上書を取、重而指上候様二と御返し被成候

一悪金壹分前谷村、壹分青野木村、貳分国影村、三兩自分金、但前

田小心の請取候金子二候、ノ四兩之内式両ハ用意金二而入、式兩

ハ掛金十兵衛方おかり候而、源八預り手形入置候由

一右段々織右衛門御返状有、右ハ源八今日罷帰候処少も相違無之候
一最前御割付之御年貢金少も無不足日切之通取立可申候、若不足有
之事二候ハ、廿日之内二御断申上候様二と織右衛門御配符被遣候

十二月五日

申御年貢郷藏納并御口米十二月十九日切御年貢金之覚

前谷村

一米三拾三表

本途七分通郷藏納、但四斗六升入

一米壹表三斗七升六合

御口米、但四斗六升入

一金三分

十二月十九日切

笹岡村

一米貳百貳拾六表

郷藏納

一米拾壹表壹斗貳升五合

御口米

一金九兩貳分

十二月十九日切

宮谷村

一米百八拾表

郷藏納

一米八表四斗三升五合

御口米

一金四兩

十二月十九日切

青野木村弥次兵衛

本米八拾壹石四斗五升四合
一米百貳拾九表
本米九拾八石六斗七升貳合
一米六表貳斗

郷藏納
御口米

一金壹両三分

十二月十九日切

同村五十郎

本米三拾九石七斗六升貳合
一米六拾四表

郷藏納

本米四拾八石壹斗六升貳合
一米三表八升六合

御口米

一金壹両

十二月十九日切

同村九右衛門

本米貳拾八石四斗貳升
一米四拾六表

郷藏納

本米三拾四石四斗貳升四合
一米壹表壹斗壹升三合

御口米

一金貳分

十二月十九日切

西方寺村

一米九表

郷藏納

一米貳斗三升壹合

御口米

一金壹両

十二月十九日切

清王村

一米六拾俵

郷藏納

一米貳表四斗五升七合

御口米

一金三分

十二月十九日切

赤尾村

一米九拾壹俵

郷藏納

一米四表三斗壹升八合

御口米

一金壹両壹分

十二月十九日切

牛山村

一米七拾表

郷藏納

一米三表三斗六合

御口米

一金壹両

十二月十九日切

横垣村

一米三拾三表

郷藏納

一米壹表三斗四升七合

御口米

一金貳分

十二月十九日切

井江葭村

一米貳百五拾六表

郷藏納

一米拾貳表三斗九升九合

御口米

一金三両貳分

十二月十九日切

国影村

一米百貳拾七表

郷藏納

一米六表貳斗三升三合

御口米

一金貳両

十二月十九日切

重義村

一米拾表

郷藏納

一米貳表三斗壹升七合

御口米

一金貳拾三両貳分

十二月十九日切

番田村

一米拾六表 郷蔵納

一米貳表四斗四升六合 御口米

一金貳拾三両 十二月十九日切

田中々村

一米三拾三表 郷蔵納

一米四表壹斗六升壹合 御口米

一金拾壹両三分 十二月十九日切

内 四両貳分半
七両半 長兵衛
才兵衛

十楽村

一米三拾四表 郷蔵納

一米三表四斗壹升六合 御口米

一金拾九両壹分 十二月十九日切

舟津村

一米百七拾貳表 郷蔵納

一米九表壹斗七升四合 御口米

一金三両三分 十二月十九日切

西谷村

一米貳拾表 郷蔵納

一米壹表貳斗壹升壹合 御口米

一金三両 十二月十九日切

新家

一金壹分 十二月十九日切

城村

一金四両壹分 十二月十九日切

右之寄

本途米千九百七十四升九合
米千六百九俵

本米千四百四十三斗貳升三合、本途・夫米共二
米九拾壹俵貳斗七升 御口米

金百拾六両壹分 十二月十九日切

右ハ鯖江ハ先月廿六日ニ御金割被遣候ニ付而当朔日請取金、引残

当十九日ニ不残相済可被申候、并本途米之内七分通郷蔵詰候様ニ

と申触候、但四斗貳升表之入込有、御口米少も不足なく相納候様

ニと申遣候

十二月六日

同七日

同八日

同九日

一牛山村権右衛門御廻米上乘之義、去年ハ願候付来酉春弥奉願候由

申来り候

同十日

同十二日

同十二日

同十三日

一 柿原西方寺村権兵衛、十楽村庄兵衛方御年貢金請取候事、庄兵衛と太郎兵衛出入相濟候迄ハ彦兵衛方御年貢金請取不申候様ニと申候

同十四日

一米□石六斗八升

国影村借主

茂左衛門
次右衛門

此質高式拾石、来酉十月切利足四わり

貸主南金津米屋太郎左衛門 奥判仕候

一米式石七斗六升

借主右同断

此質高式拾石右同断

一金四両式分

笹岡村借主彦三郎

此質山壺口六分七厘、西〆刁迄六年季

貸主同村宗兵衛 奥判仕候

一金五両式分

此質山壺口六分七厘、西〆已迄九年季、右同断

十二月十四日

一 笹岡村利兵衛午ノ年預ケ高六石□□^(壺斗)三合五勺、此利足田申下シ米

式石式斗八升四合之内壺石七斗六升七合同村善兵衛〆請取、四斗

五升六合武兵衛〆請取、残六升壺合不足米是ハ利兵衛とらせ、申

年分相濟申候得ハ当年之高ハ利兵衛支配ニ候ヘハ高二構無之候、

然共去未下シ米代金三両壺分銀三匁六分七厘、当七月証文相極候

処于今手付無之候故、巳ノ年預り高六石壺斗三合五勺共ニ式口高拾式石式斗七合之米、来酉ノ年田畑共ニ請取年季之通支配ニ仕由庄屋長百姓立合申渡候処、高之義ニ付相談仕懸候事も有之候間、当おしつめ迄相待くれ候ハ、其内相談仕、高埒明不申候ハ、右之高急度相渡し可申候、若相談埒明候ハ、金子ニ而相濟可申と申ニ付、色々おしつめニ是非被埒明候様ニと堅請合候ニ付□□候

同十五日

一 笹岡村当申利足田下シ米壺石三斗壺升、善兵衛分色々^(吟味)ミいた

し候得共相濟不申候ニ付、委細相尋候処及潰候ニ付、右下シ米之

代ニ式間三間角屋取申答相極、六石之預り高之義酉春〆田・畑・

山共ニ相渡し可申由証文取置候

一 鯖江大割銀大庄屋給請取候

同十六日

一 前谷村市右衛門一昨十四日に組下村々未ノ年皆済状取ニ鯖江へ遣

し候ニ付、織右衛門様へ以書状申上候ハ、廿日切御金取立指上可

申候、併番田・重義・田中々村・十楽此四ヶ村廿日切御割付不足

金七拾七両余御座候内六拾両、当春迄御指延可被下候由段々申上

候、并ニ未村々通式拾七枚為持指上候処「」罷歸り候得共

御返事ハ不参候

一 当二日源八御年貢金鯖江へ持参之節、悪金之代式両戸嶋十兵衛方
二 而かり候て上納仕候二付、金式両市右衛門為持遣し候へハ、源
八預り手形十兵衛方も返し申二付消申候

一 前田小心老へ滝谷町我等売家之事申入候へハ、外へ売候共構無之
由返事参候

一 申夏も同暮迄郡中割銀「一」と存候、早々右之銀子当村清兵
衛方へ可被相渡候、以上

十二月十四日

杉山織右衛門印

前谷村二郎左衛門殿

右御配符舟寄村も村次ニ参候

一 田中々村七兵衛と申者、金七両田中々村長兵衛へ御渡被下候様二
と申沢右衛門様迄遣し候二付、沢右衛門様も長兵衛参候ハ、右之

金子御渡し可被下由御配符被遣候処、長兵衛義御取立ニ取込候二
付、七兵衛弟五兵衛と申者鯖江へ参度由申来り候二付、右長兵衛

不参候義共御断申上、五兵衛証批判之我等印判手形相添、鯖江へ
沢右衛門様へ為持遣し申候

一 西方寺村太郎兵衛・市郎右衛門呼寄候而、一昨十四日「一」清

王村へ持参仕候様ニと庄屋権兵衛□□申渡候処、暮ニ及候二付壱人参

候事成不申候由口論仕、太郎兵衛権兵衛を扣申旨断昨日申二付、
其段重而沢右衛門双方御引合御吟味可有事二候、いか様之者二而

も庄やをた、き申義聞捨難成事二候、次ニ先日権兵衛十楽村庄兵

衛方も御年貢金請取候事、権兵衛我か儘之様ニ市郎右衛門申二付、

庄兵衛方へ市郎右衛門相渡置候通見届候処、権兵衛不届無之候事
何角と申聞、市郎右衛門□届二候間とかく権兵衛を申掠候二聞候
之間、市郎右衛門も庄屋仕候様ニと申渡し候、是も沢右衛門様申
上御了簡次第二可仕由申候

十二月十七日

一 昨十六日も権右衛門村々郷蔵納米改二遣し候

同十八日

一 其組下村々来西ノ春川除并樋・水門・井堰等之御普請所願候ハ
、御普請所間数并うな又・蛇か籠出シ尤候、水門などハ間尺

詳二記、御入用目録相認、来廿七日迄ニ可被指出候、正「一」
「場所致見分御入用銀仕」 「廿七日迄ニ願書入用目録

不指出候ハ、一切取上不申候間、急度可被相触候、為其如此二
候、以上

申十二月十六日

山本沢右衛門

杉山織右衛門

次郎左衛門殿

追而沢右衛門義去十三日ニ今庄へ「一」為蔵卜来、廿日迄舟
寄迄可相越候間、組下村々へも其旨可被申渡候

此御配符後山村も村次ニ而参候

同十九日

一金貳両笹岡村宗左衛門・市右衛門、先月廿九日同村利兵衛請人二候故、此金子おさへ置候得共、利兵衛相済可申由断申二付今日右

兩人返し申候、則御年貢金ニ取通ニ付渡ス

一金三分重義村去未進金之内紛申候処、算用仕返し候処相違無之候

付、此金今日重義村庄屋中へ相渡、割銀之内へ請取相済申候

一銀三匁六分 城村包賃銀かし

一銀壹分八厘 西方寺村十右衛門二同かし

一銀五匁壹分 舟津村へかし

×八匁八分八厘

覚

一金四拾六兩壹分貳朱

申御年貢金

一金八兩壹分銀五匁貳分六厘

大わり銀、鯖江村清兵衛

一銀四拾六匁貳分

掛屋十兵衛

申十一月六日、同十二月廿日迄四度之上納金百五拾四兩分

一銀四拾五匁

覚内□平
門番六兵衛

一銀貳拾壹匁六分

彦五郎はたこ代

一銀五匁八分

松屋町吉兵衛

一銀貳匁

同置屋次兵衛

右之通預申候、方々払手形を以「」可申候、以上

十二月十九日

源八郎

一織右衛門様へ四ヶ村不足金之事、四兩笹岡村、貳両西谷村、此兩村廿五日切ニ取立可申由、未ノ年皆済状被遣被下候様ニ申上候

一久野右衛門様へ重義・舟津畑方植木帳廿五日ニ可指上由手紙遣し申候

一沢右衛門様を御返事ニ、田中々村七兵衛江戸を遣し候金七兩、同

村五兵衛御渡被成候旨、五兵衛請取忝由礼ニ參候

一重義村・舟津村畑方植木帳早々指出申様ニと、久野右衛門様・中

川浅右衛門様を御配符南疋田村を持參、早々右兩村廿三日ニ帳面

指上候様ニと申遣し候

一当御年貢金之義ニ付織右衛門様御配^(符)被遣候、後山村を持參、手

前二有之候

一金貳兩壹分

十楽村

不足金拾三兩三分

一金四兩

番田村

不足金拾七兩

一金三兩壹分

重義村

不足金拾七兩

不足金八兩三分

田中々村

一金四兩

笹岡村

一金貳兩

西谷村

右之金子当廿五日切とかたく申渡候

不足金×五拾六兩貳分

十二月廿日

一源八右之御金を持鯖江へ参候

同廿一日

一沢右衛門様御年貢御吟味、郷藏納米為御改舟寄村へ御着之由善右衛門方申来候由、平助方を被申越候

同廿二日

一郷藏ノ証文等為御窺權右衛門舟寄村へ遣し申候

一沢右衛門様郷藏ノ御様子御配符ニ而被仰越、御配符有

一西方寺村善兵衛下シ米四斗式升七合六勺、太郎兵衛斗不申候由断

申二付、様子聞為可申明日太郎兵衛参候様ニと配符遣し候

一金四拾六兩壹分式朱 御通帖二付請取

一銀三百九拾五匁式分六厘 申暮大割銀、鯖江清兵衛手形

外金壹兩三分 悪金ニ而請取申候

右源八今日鯖江を罷帰、方々小払銀并包賃銀戸嶋十兵衛ニ相渡申

由相違無之候

一沢右衛門様今日後山御越被遊、明日「」御越可被成候間、村々

庄屋長百姓呼寄候様ニと被仰越候二付村々申候、来酉ノ年たは

こ作候御法度書ニ寺院方判形御取二付、寺方印判持参候様ニと申

遣候

同廿三日

一西方寺村太郎兵衛参候二付同村善兵衛断之段申渡候へは、米者可相渡候得共善兵衛手形出し申間敷と申二付、米相渡不申候と申二付、一作請之年貢米ニ手形取遣り仕事も無之候へハ、庄屋權兵衛方へ右之米相渡候様ニと申渡シ請合候

一來酉ノ年作候たはこ之事、村々証文・寺方証文判形取申候

一七分通御米・郷藏預り御口米証^(文)□村々判形取申候

一沢右衛門様後山村より御越被成村々段々被仰渡候

同廿四日

一笹岡村彦持分油木沖式枚田下シ米三表之内、前谷村市兵衛・同二

郎右衛門請作ニ仕当十月年貢米相立可申砌ニ、前谷村清左衛門方

の右之年貢米押申二付、相立不申候段彦兵衛を訴出候二付、沢右

衛門様段々市兵衛御詮義之上、当春下シ申者方へ早々米相渡候様

ニと被仰付彦ニ米相渡申候、道ニ而清左衛門方を^(請力)追□□市兵衛

方へ取入置候二付、彦方^(請力)又□申二付、其米拙者方へ取寄候而彦

□相渡候様ニと手前取寄置申候、市兵衛口上書有

一沢右衛門様舟津村ニ御泊り二候

十二月廿五日

一金壹兩

十楽村

一金貳両貳分

番田村

内壹両三分

門三郎

三分

弥右衛門

一金壹両三分

重義村

右申御年貢金請取小手形相渡申候

一金壹両

十楽村

一金壹両

田中々村

一金壹両

番田村

一金壹両

重義村

右之金子預り置申候

同廿六日

人 籠 壹両貳分

笹岡村宗左衛門

銀四分五厘

包ちん請取

一金七両

青野木村庄屋長百姓

此質高貳拾石

柿原十楽村五十郎貸主、酉十月切、利足貳割三分

一金八両貳分

右同断

此質高貳拾五石

貸主柿原十楽村庄兵衛、酉十一月切、利足貳割三分

右式通之証文拙者裏判仕候

同廿七日

一金六両三分

申御年貢金

一金壹両三分

大割金不足

一銀貳匁三厘

右之包ちん銀

一金壹両壹分

八まん屋へ渡

一金貳分

田中屋へ渡

一金壹両

大柳太兵衛殿へ

一金壹分半切

丸岡庄右衛門へ

一宮谷村義兵衛・清王村権兵衛来酉ノ年江戸納庄屋願状式通

一田中々村藤右衛門来酉年上乘願状

一自分、前谷村清左衛門義絶書付壹通

一来酉ノ年御普請所願書壹冊

右ハ金子并書付共源八ニ為持鯖江へ遣し候

一金三分

源八ニかし渡ス

一笹岡村市右衛門相断候ハ、持高前谷村清左衛門方へ年季質物二入、

又当申ノ年一作ニ書□□高山有之ニ付、代金相済請出し可□□当

十一月初々度々申候得共、何角と「」算用相済不申、今日ニ

成十月切之質物ニ候処請出し不申候へハ、高ハ流申由ニ而請させ

申ましくと被申候、少之「」延候而さへ何角被申事ニ候へハ

「」尚以流高と可被申候間、鯖江御役所へ御断申上度と願

候ニ付、書付を申上「」申候へハ、無筆者外を頼候共書

「申間敷、余日無之候へハ口上を」申二付、市
右衛門申口覚書為持沢右衛門様へ指上候

十二月廿八日

一 西方寺村「青野木村才次郎と申者二畑を下し候へ八年貢米
相濟不申候二付、割銀相濟申事不罷成候と申来り候二付、才次郎
下し米を割□あて置候事何方被仰付候哉、とかく市郎右衛門同
道二而書付を以申来候様二と申付候

同廿九日

一 銀九匁壹分式厘、北村庄屋五右衛門方未ノ年御廻米先割之内戻
り銀之由二而請取候二付、判形いたし遣し候

一金六両三分 御通帖二付請取

一 銀貳匁三厘 右包ちん銀渡

一金壹両三分 割銀、鯖江清兵衛手形有

一 村々不足金有之候段不届二候、来酉正月十五日内致吟味取立^(候)
□二と被仰越候、委細沢右衛門様御返事有^(様カ)

一 自分〆「状ハ先御返し被成候

申御年御割付之内不足金御書出し之覚

一金貳両貳分 笹岡村

一金貳両 西谷村

一金三両貳分式朱 田中々村

一金五両貳分 中村

一金拾八両壹分 番田村

一金拾八両貳分 重義村

メ五拾兩

右ハ源八罷帰候二付如此二候

一 昨日笹岡村市右衛門鯖江へ参候二付、笹岡武兵衛風聞二江戸へ
参候由承及候二付、内意申入候へハ、来正月五日過候ハ、武兵
衛一門共口上書を取指上候様二と被仰越候、委細御返事二有

(後欠)